

第四十六回衆議院議事速記録第四號

大正十二年一月二十四日(水曜日)午後一時二十七分

議事日程 第三號 大正十二年一月二十四日

午後一時開議

一 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑 (前會ノ續)

第一 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(與繁三郎君) 諸君、諸般ノ報告ヲ致シマス

(原田書記官朗讀)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

所得税法中改正法律案

提出者 岩本 平藏君

山口 熊野君

北井波治目君

佐藤 榮吉君

岩本 平藏君

玉置 良直君

福井 甚三君

日足鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 松岡 俊三君

大日光國立公園設置ニ關スル建議案

提出者 松岡 俊三君

石川 玄三君

友常三郎君

恩給法改正ニ關スル建議案

提出者 三浦得一郎君

(以上一月二十三日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

漁港施設ニ關スル質問主意書

提出者 藤井 啓一君

米穀法ニ依リ食料ノ安定農民ノ困憊防止ニ關スル質問主意書

提出者 木下甚三郎君

(以上一月二十三日提出)

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕

一 昨二十三日内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル

旨ノ通牒ヲ受領セリ

大藏書記官 富田勇太郎

大藏省所管事務政府委員被仰付

鐵道省建設局長 八田 嘉明

鐵道省所管事務政府委員被仰付

一 今二十四日常任委員補選結果左ノ如シ

第四部

決算委員 齋藤宇一郎君(鮎川盛貞君補闕)

第五部

決算委員 村田虎之助君(村山喜一郎君補闕)

○議長(與繁三郎君) 會議ヲ開キマス、國務大臣ノ演說ニ

對スル質疑、前回ノ續キ一 望月小太郎君

(望月小太郎君登壇)

○望月小太郎君 本員ハ茲ニ一般外交ニ對シテ質問ヲ致シマス前ニ、一言ヲ附加ヘテ置キタイコトハ、昨日總理大臣ヨリ施政方針中、外交問題ニ關シテハ、帝國ノ世界ニ於ケル地位ト責任、進シテハ對支政策、對西伯利亞問題、華府會議ノ跡始末ノ一般輪廓ヲ示サレマシテ、此外交方針ノ事實の方面ニ對シマシテハ、外務大臣ヨリ事務的報告ヲ承リマシタ、其報告中、一國ノ外務大臣トシテハ、何等

經綸抱負ノ無カッタコトハ、本員深ク遺憾ニ存ジマス、殊ニ外務大臣ノ御演說中、右外交各方面ニ對シ極メテ樂觀

の御意見ヲ述ベラレマシタニモ拘ラズ、吾々ハ過去四年有半、帝國ノ外交ヲシテ今日ノ如ク八方塞ガリノ窮極ニ陥

ラシメタ者ハ、即チ内田外務大臣、其中心人物デアアルト確

信致シマス、(拍手)此信心ヨリ致シマシテ、是ヨリ事實ニ付

テ御尋ヲ致シマスルガ、其本員ノ質疑ニ對シテハ、總理大

臣ハ只今本員ノ申述ベタル外交上ノ重大問題ニ對シテ

ハ、御病氣中デアアリマセウガ、國家ノ爲メ、當然總理

大臣御自身ノ答辯ヲ要求シ、其他詳細ニ至リマシ

テハ勿論當該外務大臣ノ御答辯ヲ促シマス、但シ外

務大臣ニ對シテハ前以テ御斷リ致シテ置キタキ

コトハ、本員ノ質疑ニ對シテ過去四年有半、常ニソレハ意

見ノ相違デアアルト云フコト、議論ニ分レテ居リマス、若

シ今日ハ本員ノ疑點ト致シマスル事實其モノニ付テ、若シ

誤ガアルナラバ之ヲ是正ナサレテ、此事實ノ上ニ於テ答辯

ランコトヲ念ノ爲ニ斷リ置キマス、是ヨリ總理大臣ニ向テ

第一ニ御尋致シタイ要點ヲ申上ゲマス、第一ハ華府決

定セル四國條約ノ米國保留條件ノ效力ニ付テ、總理大臣

ノ御所見ヲ承リタイノデアリマス、一昨年八月六日、此四國

條約締結ノ訓令ヲ受ケラレタル現總理大臣、其時ノ首席

全權ニ而シテ此訓令ヲ下シタル内田外務大臣、當議場ニ

於テ、此四國協約ハ日英同盟ノ精神ガ乘移シテモデア

ト功名顔ニ御同様ニ報告セラレテ居リマス、然ルニ昨年三

月八日米國元老院ニ於テ、此四國條約ノ發案者自身タル

米國全權ノ有力ナル一人「ロツヂ」氏ガ、其元老院ニ報告ス

ル意見ハ全ク我ガ外務大臣ノ報告トハ異ナリマシテ、其言

葉ヲ茲ニ申述ベマス、即チ「ロツヂ」氏ハ曰ク、四國條約ノ

骨子ハ、日英同盟ヲ廢棄セシムルモノデアアル、日英同盟ノ如

キ會成のモノヲ廢棄セシムル爲ニ此新協約ノ必要ヲ認メ

テ提議ヲシタルデアアル、四國協約ト日英同盟トノ間ニハ何

等類似ノ點ヲ認メズト、明白ニ我ガ外務大臣ノ報告ヲ否認

致シテ居リマス(拍手)當時此外務大臣ノ訓令ノ下ニ働

カレタル、現總理大臣タル其當時ノ加藤全權モ、定メテ此

四國條約ニハ斯ル重大ナル意義ノ存スルモノトシテ御働キ

ニナリマシタラウ、又其御苦勞ハ本員之ヲ認メマスルケレド

モ、只今米國全權ノ報告ニ依リテ見マスレバ、此四國條約ハ

結局日英同盟ヲ廢棄スル爲ニ、所謂告朔ノ餼羊ニ此案ヲ提

出致シタル云フコトニナル、而モ其案タルヤ、去ル四十五議會

ニ於テ、本員ガ此壇上ニ於テ御靜聽ニ懇ヘタ如ク、内容空

漠、實質不分明、即チ米國ノ目的ハ第三者ニ對スル共同戰

闘ノ義務アル、其日英同盟ヲ辨ランガ爲ニ、假令四國協約

ハ締結シテモ、此四國協約ニ於ケル權利ダケハ米國之ヲ保

留シテ、其義務ハ成ベク之ヲ忌避セントシタル云フコトガ只

今申上ゲタル「ロツヂ」氏ノ報告ニ於テ、此四國協約締結當

時ノ米國ノ精神ガ推測致サレマス、果セル哉去年三月二十

四日米國元老院ニ於テ「ブランデ」氏ノ發議ニ依リテ、此四

國協約ナルモノハ一保留條件ヲ附キマシテ、茲ニ米國ガ批准ヲ致シマシタ、此點ガ本員ノ總理大臣ニ御致シタイ限目デアリマス、其保留條件ニ曰ク「合衆國ハ本條約ノ全文、及、條約ノ規定ニ依リ武力若ハ同盟ニ關スル條約又ハ防禦ニ參加スベキ何等ノ義務ヲ有スルコトナキモノトス」トアル首相ニ伺ヒタキハ此條件ハ四國協約締結ノ當時ニ於ケル締盟國ノ精神ト一致スルモノデアリヤ否ヤ是ガ一點、次ニハ斯ル條件ハ時ノ全權アリシ今ノ加藤首相ハ豫メ之ヲ豫期セラレタヤ否ヤ、本員ハ「ロツヂ氏ノ意見ヲ參考トシテ見マスレバ、是レ畢竟、日英同盟ヲ人身御供ニ供スルガ爲ニ此空漠ナル四國條約ハ結ンダコト、ナル併シ結ンダガ米國ハ之ニ對シ其條約ノ權利ハ主張スルモ將來ノ義務ダケハ此條件ヲ削除致シタコト、ナルデアアル、質問ハ此點デアリマス、申スマデモナク此條約ハ二個ノ目的ヲ持テマシテ、其第一條ニ於テハ締盟四國ガ太平洋ニ於ケル所ノ其島嶼、若クハ屬領地ノ間ニ若シ外交上ノ紛擾ノ來テ、是ガ圓滿解決ノ出來ザル場合ニハ、締盟四國ハ所謂合同會商ヲ致シマシテ、腹藏ナク意見ノ交換ヲ致シテ、之ニ依リテ平和ヲ維持スルノガ第一條、此點ハ論ジマセム、併シナガラ第一條ニ於テ、若シ其四國ガ持テ居ル太平洋ニ於ケル所ノ島嶼又ハ領地ニ對シテ第三者ガ侵略ヲ企テルヤウナ危險ノアツタ時ノ保障ト致シテ此二條ノ明文ガゴザイマス即チ「締盟國以外ノ國ノ侵略的行爲ニ依リ脅威セラレタル場合ニハ締盟國ハ右特殊事態ノ意ニ應ズル爲メ共同ニ又ハ別ニ執ルベキ最モ有效ナル措置ニ關シ諒解ヲ達シテ爲メ充分ニ且隔離ナク互ニ交渉スベシ」此二條ガ本論出發ノ要所デアリマス、今之ヲ事實ニ照シテ想像致シマスレバ、若シ第三國ガ來リマシテ日米及英佛ノ四國ノ中ノ其島嶼一假ニ日米二國ニ關スル範圍ニ於テ、例ヘバ我が臺灣ニ第三國ガ侵略ヲ企テ此場合ニ、臺灣トハ五百五十哩シカ隔テ居ラヌ米國ノ比律賓ニ、若シ米國ノ艦隊ガ在リタ場合ニハ、合同會商ノ結果ト致シテハ、便宜上最善ノ處置トシテ米國ノ艦隊ヲ我が臺灣附近ニ招キ得ル、即チ共同防衛ニ從事セシメ得ベキ結果トモナリマセウ、又同時ニ米國ノ比律賓ガ第三者ニ侵サレタ場合ニモ、合同會商ノ結果ハ、矢張同一ノ共同行為ニ日本ガ出向カナケレバナラヌト云フコトモ推測シ得ラレマス、然ルニ只今申シマシタル此保留條件ガ通過致シタ曉ニハ、米國ハ總テノ自今ノ太平洋ニ於ケル島嶼、及、領土問題ノ權利ノ關係上、日本カラ合同會商ヲ求メラレルダケノ權利、即チ日本ノ最善ノ處置ニ付テ唯之ヲ聽キ置クダケノ權利ハ保留致シマスルガ、但シ拙者ハ其共同防衛若ハ武力的援助ヲ致ス義務ハ無イト云フコトガ此條件

ノ結果トナル、言ヒ換ヘレバ四國協約ニ對スル日本ト亞米利加トノ權利義務ハ、日本ノ方ハ全幅ノ義務ヲ持チ、米國ハ片務ノ義務ヲ持テ宜シト、斯ウナリマスルコトハ、如何ニ致シマシテモ條約當時ノ精神ト一致シナイモノデアナカラウカト云フノガ本員ノ疑點デアリマス、且又、國際法ノ原則ト致シテ、同一ノ成文ニ依リテ初メテ同一ニ批准サレベキモノヲ、此米國ノ保留條件ヲ認メルト云フコトニナリマスレバ、恰モ御同様ガ連帶借用證文ヲ書イテ、其連帶義務ノ有ル一人ガ印判ヲ押シタ後ニ、但シ拙者ハ辨償ノ義務無之候ト云フ附加條件ヲ致シタ曉ニハ、其人ハ連帶債務ノ義務ヲ免レル、即チ連帶責任ト云フ事ノ根本ヲ破壞スルヤウニ本員ハ感ジマスルガ故ニ、此點ニ對シテ當時全權アリシ加藤首相ニ伺ヒタイ、首相ハ全ク米國ノ此保留條件ハ豫想外デアラ、或ハ條約當時ノ精神ニ於ケルモノトハ全ク異テ居ルカ、或ハ同ジモノデアアル、此所ヲ明白ニ御答テ願ヒタイ、第二ハ海軍制限條約實施ニ付テ、何カ英米二國ヨリ得タル確定ナル保障アリヤ否ヤト云フコトヲ伺ヒタイ、昨日首相ノ御演說中ニモ、英米ト諒解ト云フ文字ガアリマシタ故ニ、此點ヲ特ニ明ニシタイ、何トナレバ此海軍軍備條約ノ效力發生ノ時期ニ對シテハ、右二十四條ニ明記シテアル、御承知ノ如ク、右條ニ締盟國各自ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ批准セラルベク、成ベク華盛頓ニ於テ行ハルベキ批准書全部ノ寄託アリタル日ヨリ其效力ヲ發生スルアル、昨日首相說明ノ如ク日英米ノ三國ハ之ヲ批准致シマシタガ、此條約ニ重大ノ關係ノ有ル佛伊二國ハ、今以テ批准致シテ居リマセヌ、此事ハ洵ニ本員遺憾ト致シテ當局ト其所感ヲ同ジウ致シマス、併ナガラ願ヒテ佛國ノ狀態如何ト觀マシマスレバ、佛國下院ニ於ケル外交委員長「レーグ」氏ハ業ニ既ニ此海軍條約ニ付テ、自分ハ下院ニ向テ反對ノ報告ヲ致ス、少クトモ批准スルニハ、佛國トシテハ相當ナル條件ヲ附ケナケレバナラヌト云フコトヲ述ベラレテ居リマス、ミナラス、最近近東問題ニ於テ彼ノ土耳其ノ海峽問題ノ關係上、露國ト云フ一ノ海軍國ガ新ニ加テ來タコトハ、近東及地中海、彼ノ方面ニ利害關係アル佛蘭西トシテハ深甚ノ考慮ヲ要スルコト、又其次ニハ御同様ガ只今見ツ、アル所ノ此佛蘭西償問題ニ付テ、佛蘭西ノ執リタル行動ハ獨逸工業地ノ中心「ルール」ニ軍事的行動ヲ開始シタル此前途ハ、外務大臣モ言ハレル如ク、洵ニ前途測リ知ルベカラザル此大問題ヲ控ヘタル佛國議會ガ、縱シ日英米三國ノ如ク批准スト致シマシテモ、其批准ハ即今容易ニ出來上ルヤ否ヤハ、本員深キ疑ヲ持テ居ル、ミナラス、吾々國民ノ代表者ト致シテ爰ニ提出セラレ、將ニ一週間内外ノ間ニ於テ其審議ニ入ラザ

ルベカラザル豫算案ニ付テハ、全ク考慮ノ決斷ニ迷ヒツ、アルノデアリマス、憲法上、議院法上、條件附ノ豫算審議ト云フコトガ若シアルトシタラバ、ソレハ此當四十六議會初メテ是ガ備ヲ作スモノデアラト云フ、此重大ナル議院ノ權能上カラ見マスレバ、餘程此點ニ注意ヲ拂ハナケレバナラヌ、ソコデ此效力發生セザル所ノ海軍軍備制限條約ニ對シテ、誠ニ我國ノ態度如何ト觀レバ、列國ノ信義ヲ全ウスルガ爲ニ業ニ既ニ廢艦作業ニ着手致シ、將校士官ノ任免、若ハ整理ト申シマセウカ、又職工ノ解雇、造船所ヘノ賠償金、軍港ノ整理ヨリ其廢艦スベキ軍艦ノ武備撤廢ト云フ頗ル進シタ事ヲ致シタ結果ガ、茲ニ豫算ニ計上致サレタル四千六百萬圓ノ數字ヲ見ルニ至ラズ、是レ日本ハ當然此四國軍備制限條約ガ出來ルモノト確信ノ上ニ、此豫算ヲ編成セラレタノデアリマセウ、ソコデ外交上斯ク迄ノ責任ヲ以テ廢艦作業ニ從事スル上ハ、當然英米二國ヨリ確定ナル諒解、若クハ保障ヲ得テ初メテ此廢艦作業ニ御從事ナサラコト、思慮周密ナル加藤首相ニ對シテ本員之ヲ推察セザルヲ得ナイ、是ガ即チ本員質問ノ第二點デアアル、果シテ然ラバ、其英米カラ得タル所ノ確定ナル條件若ハ信賴スベキ所ノ其諒解トハ如何ナル種類ノモノデアアルカ、又其保障ハ何月何日之ヲ英米カラ得ラレタカ、此點ヲ御尋致シマス、第三ハ西伯利撤兵ニ付テ政府ノ責任感念ヲ御尋致シマス、詳シイ事ハ此問題デハ最早之ヲ申スマデモナク、諸君御承知ノ如ク、大正八年八月二日ヨリ昨年十月末ニ至ルマデ我が西伯利出兵ノ失敗ハ、日本國民トシテハ誠ニ豐大閣三韓征伐以來ノ一大恨事デアラト云フ言葉ヲ以テ盡キヤウト思フ、兵ヲ動かスコト十數萬、人ヲ殺シ傷ケタルコト三千五百、御同様ノ國費ヲ濫費スルコト六億、而シテ得タル所ノモノハ度々申上グルガ如ク何物モ無イ、而モ其出兵ノ目標タルヤ、内田外務大臣ハ度々之ヲ變更致シ、當初ニハ過激派ノ討伐ト申サレ、其次ニハ嚴正中立ト云ヒ、昨日ノ御演說ニモアツタガ、今迄モ駐兵ノ理由トシテハ最後ニ極東政情ノ安定ト、我居留民保護ノ安心トヲ得ルマデ之ヲ置クト云フ、斯ウ云フ風ニ目標ヲ塗り替ヘマシタ、此塗り替ヘラレタル目標ノ爲ニ、國策ト出征軍隊トノ衝突ハ遂ニ彼ノ忌ムベキ前古未聞ノ尼港事件虐殺問題マデモ惹起シ、遂ニ進んで洵ニ不愉快ナル事デアリマスガ、先頃マデ世間傳フル外務省ノ宣傳ニ係ルカ云フ、所謂武器紛失事件マデ起シタト云フ此一大悲劇、而モ最後ニ昨日外務大臣ガ御辯明ニナツ、其極東政情ガ安定致シタ、居留民ノ生命財產ニ危險ハ無イ、仍テ撤兵致シタト云ヒマシタガ、事實ハ如何デアリマス、我が撤兵セザル爲ニ極東ノ政情ハ極メテ動亂

不安ノ態ニ居テアル、我が撤兵ト共ニ忽チ極東ノ政情ハ甚ニ安定セラレタノアル(拍手)又居留民ハ如何デアリマセウ、御同様ノ同胞居留民ハ、駐兵ノ爲ニ遠ニ極東三州ニ向テ發展致シタ者ガ、段々覺テ、浦潮ノ一角ニ封鎖セラレ、其經濟的活動ノ範圍ハ遠ニ縮小致サレマシテ、已ムナク撤兵ト共ニ總ニ身ヲ以テ本國ニ歸テ來タト云フ此有様(拍手)斯ウ見タナラバ、出兵ノ最後ノ目的トシテ政情ノ安定モ、居留民ノ保護モ實ハ撤兵ニ依テ初メテ之ヲ實現シ得ラレタト云フコトニナル(拍手)而モ茲ニ事實ヲ以テ申上ゲタイ事ハ、大正九年七月ニハ參謀本部スラ、此西伯利駐兵ノ目的ノ空シキコトヲ知リマシテ、全部ノ撤兵ヲ致サウトシタ時ニ、外務省ハ暫ク待テ貫ヒタイ、大連會議ニ於テ何トカ撤兵ノ口實ヲ得ルカラト云ウテ之ヲ引延バシマシタ、其事ハ後段大連會議ノ所ニ於テ申述ヘマスガ、而モ其望ミヲ囑シタ大連會議ハ如何、外務省ノ目的トハ全ク反對ノ結果トナテ來テ、今更撤兵ノ口實ハ無クナリ、已ムヲ得ズ萬策盡キテ遂ニ昨年十月二十五日最後ノ撤兵トナテ、我が出征軍司令官立花將軍ハ、露國赤軍司令官「ボレオウキツ」氏ニ向テ「閣下ノ公明ト機宜ノ處置ニ依リ衝突ヲ避ケ得タルハ歡喜ニ禁ヘズ」ト云フ一場ノ悲哀ナル挨拶ヲヲ遺シテ、會テハ極東三州ヲ風靡シタル我が光輝アル軍隊ガ、恰モ夜逃ゲ同様ニ浦潮ヲ引揚ゲタト云フ、此事實ヲ如何ニセン(拍手)序ナガラ此事ニ付テ總理大臣ハ、西伯利ノ撤兵ニ付テ英米其他ヨリ追窮セラレタコトハ無イト云フコトヲ、昨日貴族院デ御答ニナツテヤルニ新聞紙上デ拜見致シマスガ再ヒ其點ダケハ總理大臣ニ御尋致シマスカ、此議場ニ於テ後刻御答辯ヲ煩ヒタイ、ソコデ此西伯利出兵ノ跡始末ニ對シテ、現内閣ノ責任觀念ニ付テ御説明ヲ煩ハスコトハ、斯ノ如キ罪惡ノ國策ノ遂行者タル張本ハ、無論内田外務大臣デアリマスガ、願ヒテ加藤首相ハ寺内内閣ノ此出兵事件以來古參ノ閣臣ト致シテ、内田君ノ此無謀ナル國策ニ共鳴シ援助セラレタ、其責任義務、又引續イテ其閣議ニ同意致サレタ所ノ、其當時ノ大木司法大臣、及現、山梨陸軍大臣等ハ、當然此出兵ノ跡始末、即チ撤兵ニ對シテハ連帶責任ヲ負フベキ方デアルト思フ、少クトモ此撤兵ノ聲明ヲ致サレタ、六月二十四日御裁可ヲ得ル時ニハ、定メテ罪ヲ闕下ニ待ラレタデアラウト思フガ其時ノ思召ハ如何ナルコトデアツカ、不幸吾々國民少クトモ本員等未ダ之ヲ知りマセヌ、仍テ此撤兵ニ對スル政府ノ責任觀念ヲ御尋致シタイ、ノアル(拍手)第四ハ只今モ申述ヘマシタル大連會議ト引續キ長春會議ヨリ一步進シテ對露方針ニ關スル質疑ヲ致シテ見タイト思フ、一

昨年八月二十六日ヨリ昨年四月十六日マデ八箇月間、外務省ハ大連會議ヲ開キ之ニ依テ一面ニハ前段申シ述ベタル撤兵ノ口實ヲ得他面ニハ極東露領ニ於テ通商ヲ開カウト致シタコトハ、昨年四月二十日外務省ノ公表文、及昨日外相ノ演說ニ於テ大要了解致シマスルガ、茲本員ニ質問ノ二點ハ特ニ外務大臣ニ向テ申述ベルコトデアリマス、抑モ此大連會議ノ失敗ハ何ノ原因スルカト申スト、第一ハ日本ガ、大連會議ノ對手方ヲ見誤ッタノガ、即チ我が不覺ノ一箇條デハナイカ、第二ニハ其交渉ノ本末輕重ヲ誤ラタ爲ニ、折角ノ此交渉ガ遂ニ破裂致シタモノデハナイカト云フコトガ、本員質問ノ要旨デアリマス、ソコデ此質問ノ第一ノ點ニ付テ、交渉ノ相手方ヲ見誤ッタデハナイカト云フコトヨリ申シマス、即チ外務大臣ハ齊多ト勞農露國、本國政府トノ關係ヲ御有ジテ、此長春會議ヲ開イタモノデアルカ、疑問ハ此點デアリマス、申スマデモナク勞農露國ト齊多政府トハ、主從ノ關係デアル、此事ハ成立當時ヨリモ分明デアリミナラズ、本員スラ第四十四議會ニ於テ此席上ニ於テ、若シ日本ガ極東問題ヲ解決セントスルナラバ、其極東問題ノ主人公タル勞農露國ヲ相手トセナクレバナラズ、其本店タル勞農露國ヲ離レテ、出店、出張所同様ナル齊多又ハ浦潮政團ト開始致シテモ、效能ノ無イト云フコトヲ申上ゲマシタガ、果セル哉、勞農露國、其陰ニ隱レタル齊多政府ノ交渉ハ、八箇月ノ後ニ破レマシタル其結果ハ、丁度子供ガ狐ニ騙サレタヤウナ有様デアル(拍手)是ガ即チ第一問ト致シタ相手ノ主人公ヲ見誤ツ結果デアナイカト云フ質疑ノ一點、次ニハ交渉ノ目的ノ本末輕重ヲ誤ラタデハナイカト云フコトハ、此大連會議ニ臨ムニ當テハ其實撤兵ヲ先決問題トシテ、撤兵ニ對スル口實ヲ得ント致シタノアル、果シテ然ラバ其撤兵ト通商開始トハ全ク切り離シテ、撤兵ハ撤兵、通商開始ト通商開始トシテ、男ヲシク率直ニ御交渉ニナルコトガ何故出來ナカッタデアリマセウカ、撤兵ト通商開始ヲ交換條件ニ致シマシタ結果、遂ニ齊多政府ハ何月何日ニ撤兵スルカ、其確定的時日ヲ示セト云フコトガ、最後談判破裂ノ原因デアルト外務省ノ公文書ニハ之ヲ記載致シテアリマス、内田君モ屢、此壇上ニ於テ御同様ニ述ベラレタコトニ、西伯利ノ出兵ハ自主的デアル、既ニ自主的の出兵デアタ以上ハ、其撤兵モ亦自主的のナラザルベカラズ、其自主的ナルベキ所ノ撤兵ヲ交換條件ト致シテ、通商開始ヲ求メルト云フコトハ、外務省ハ齊多政府ヲ以テ不誠實ト言ヒマスルガ、第三者タル吾々カラ見ルト、此内田外

務大臣、是レガ又案外駭引ヲ弄スル不誠實ノ點ガ茲ニ現レテ居ルデアナイカト云フコトヲ申述ベタイ(拍手)現ニ右交渉破裂ノ結果、六月二十四日外務省ハ自發的ニ撤兵ノ聲明ヲ致シタ、是ガ何ヨリ證據デアラハナイカ(拍手)齊多政府ガ承知シヤウカシマイカ、通商開始ガ出來ヤウガ出來マイカ、撤兵ハ撤兵ト云フコトハ、此二十四日ノ聲明其モノガ之ヲ立證致スト云フ點カラ見マシタナラバ、餘リ當初ヨリ本末輕重ヲ誤ラレタル其結果ガ、此大連會議ノ破裂ヲ來シタモノデアナイカト云フコトヲ疑フノデアリマスルカラ、茲ニ說明ヲ煩ヒマス、次ニ長春會議ノ經過ヲ尋ヌル、是ハ極メテ簡單ニ述ベマセウ、此經過ニ付テ不思議ニモ外務省ハ未ダ國民ニ向テ明細ナル報告ヲ致シテ居リマセヌヤウニ本員存ジテ居リマス、故ニ之ヲ五點ニ分テ御尋致シテ見タイト思フ、即チ九月四日ヨリ長春ニ於テ開カレタル此會議ニハ、露西亞ノ「ヨッフエ」氏ト「ヤンソン」氏ガ、勞農露國政府及、極東共和國雙方ノ代表者トシテ出席セラレタ、而シテ第一回ノ衝突ハ委任範圍ニ付テ、日露兩代表ノ間ニ意見ノ不一致ヲ見マシタ、露國ハ曰ク、勞農露國モ列席スル以上ハ、極東ノ一部モ勞農露國ノ領土デアアルガ故ニ、極東問題ト共ニ、全露問題ト交渉ニ入りタイト斯様ニ申シタニモ拘ハラズ、日本ハ極東問題ト先ニ致シテ、ソレガ幸ニ出來タナラバ、第二ノ全露問題ト移ラウト、斯ウナリマシタ、更ニ露國代表ハ全露政府ト極東政府トノ關係ヲ、日本代表ノ質問ニ依テ左ノ如ク答辯セラレタ如ク、内外ノ報道ハ之ヲ言ウテ居リマス、即チ其一ツハ莫斯科政府ハ齊多政府ト經濟的關係ヲ結ビ、財政的ニ援助ヲ與ヘツ、アル事、即チ財政經濟的ニハ、齊多ハ勞農露國ノ世話ヲ受ケテ居ルト云フ事、第二ニハ條約問題ニ關シテ、齊多政府ト外國トノ間ニ締結セル諸條約ハ、必ズ莫斯科政府ノ批准ヲ經ベキモノナル事、此「ヨッフエ」氏ノ說明ガ正シト致シタナラバ、齊多政府ハ恰モ勞農露國政府ノ保護國デアル、今其保護國ヲ相手ニ談判ヲ爲サレタ結果、第三點ノ疑問ト致シテ御尋ヌルコトハ、我が代表ハ是ヨリ勞農露國全體ニ向テ御相談モ開キマセウガ、但シ勞農露國ハ正式ニ其勞農露國政府ノ承認ヲ日本ニ求メナイト云フ約束ヲ申出テ貫ヒタイト云フコトヲ言ハレタト云フ、既ニ勞農露國ヲ會議ニ列席サセタ以上ハ、事實上之ヲ承認シタト云フコトハ、多分虛傳デアリマセウ、又虛傳ナランコトヲ望ミマスルガ、此事實ヲ伺ヒタイ、即チ日本ノ大使ト致シテ獨逸ニ在ル、其獨逸ト勞農露國トハ承認交換ヲ致ス、其處ニハ日置大使ガ居ル、尙又勞農露國ヲ承認シタル波蘭ニハ、外務省露國通ノ一人タル川上公使ガ居ル

是等ノ機關ヲ通シテ外務省ハ當然勞農露國對齊多政府ノ關係ハ豫メ承知シテ居ルベキ等アル、豫知シテ居ラバ、如何ニシテ斯ウ云フ一方勞農政府ヲ相手ニシ、他方極東共和國、即チ齊多政府ヲ相手ニスルヤウナ此矛盾何トシテモ了解出來マセヌ、(拍手)次ニハ長春會議ノ無効ニテ最後ノ原因ト致シテ尼港問題ニ移リタイ、露國ハ尼港問題ト薩哈連撤兵トハ分離シテ貫ヒタイ、薩哈連國ハ共同調査ヲ致シタ上ニ確定致シマセウカラト、薩哈連ヲ撤兵致スコトヲ日本ニ要求致シタ處、日本ハ曰ク薩哈連撤兵問題ト尼港問題トハ不可分アルト云フコトガ、遂ニ破裂ノ最後ト見ラレタヤウニ存ジマス、此處ガ即チ本員ノ現在尙未殘テ居ル北薩哈連保障占領ノ我ガ撤兵ノ機會ガ未ダ到著セヌト云フ、昨日現總理ノ貴族院ニ於テ述ベラレタヤウニ記憶致シマスカラ、序ニ此事ヲ申述ベテ置ク、抑、既ニ勞農露國ヲ相手トシテ談判ヲ開キ、之トニ港交涉事件ヲ開キ、其勞農露國ハ尼港事件ニ付テハ共同調査ヲ致シマセウト言ウタ、此機會ニ何故ニ北薩哈連ノ撤兵ヲオヤリナサナカッタカ(拍手)斯ル立派ナ機會ガアツタナイカ、其事ハ特ニ昨日總理大臣ノ御辯解ガアリマシタ故ニ、此議場ニ於テモ御說明ヲ煩シマス、更ニ外務大臣ニ對シテノ質疑ハ斯ノ如ク日露關係ノ破綻致シマシタ結果、今日ハドウデアリマスカ、極東西伯利亞ニ於ケル林業、鑛山、漁業等總テ我國民中既得ノ權利迄蹂躪セラレテ居ル、(拍手)現ニ大藏大臣タル市來君ガ、大藏大臣タリシマ社社長トナッタ所ノ彼ノ日露實業會社ト記憶致シマス、アノ會社ヲ初メ三井、大倉、秋田製材會社等ハ、此外務大臣ノ勸誘ノ下ニ、露領ニ向テ經濟的發展ヲ致シテ、極東滿洲政團ト交渉ヲ致シテ獲得シタル其利權ガ右申ス如ク、極東滿洲政團ハ我ノ出兵中ハ丁度大木ノ蔭ニ生ジタル葎ノ如ク勢好ク見エマシタガ、我撤兵ト共ニ消エテシマツタ、其消エタル政府ト條約ト云フモノヲ齊多政府ガ之ヲ無効トスル、其齊多政府ハ更ニ昨年十二月十二日ト記憶致シマスガ、勞農本國政府ノ訓令ニ依テ極東革命委員會ト云フコトニナリマシタ、斯ウ云フコトデ、外務大臣ガ對露政策ノ根本ノ定ラザルガ爲ニ、斯ク迄日本ノ實業家ガ露國方面ニ向テ、外務省ノ勸誘ニ基イテ下シテ資本スラモ、今日ハ回收スルコトガ出來ナイ、現大藏大臣、日露實業會社ノ關係スル範圍ニ於キマシテ此事實ヲ御否定下サルナラバ、本員謹テ教ヲ受ケテ見タインデアアル、(拍手)斯ク迄ニ露西亞ト日本トノ關係ハ殆ド敵國外患ノ如キ今日ノ有様ヲ來シタコトハ、畢竟日本ノ對露政策ノ根本ガ定ラヌモノト私ハ思フノデアリマス、(拍手)此場合政府ハ一步進シテ英佛米伊ニ向ヒ、

日本ト露國トノ關係ハ、露國ト中間諸國ヲ隔タル米佛英伊トハ異テ、極東ニハ斯ノ如キ政治上、經濟上纏綿シタル問題ガアル、仍テ或ル條件ノ下ニ露國勞農政府ヲ承認シ、御互ニ通商開始ヲシヤウデアナイカト云フ、其先頭第一ノ提議ハ疾クノ昔ニ帝國政府ガ主張スベキコトガ帝國ノ利益デアルト、斯様ニ本員ハ思フ、遲レタリト雖モ今日以後、即刻ニモ此新シキ方針ヲ開始スルコト云フ勇氣ハ現外務大臣ニアルヤ否ヤ何ヒタイ、(拍手)現在露國ニ向テ政府コソハ承認致シマセヌデモ、露英、露佛、露米、斯ウ云フ幾多ノ協會ハ勿論露國ヲ承認シタル國々ノ、通商會社、露蒙經濟發展會社マデ、マルテ世界ノ手ハ西伯利亞ノ富源、露國經濟ノ開發ニ努力シテ居ルニ拘ラズ、内田外務大臣ハ過去四年間何ヲシテ居リマシタカ、(拍手)此點ハ外務大臣ハドウゾ議論デナク、事實ノ上ニ懇篤ナル說明ヲ煩シタイ、第五ハ昨日首相ノ御演說中ニモアリマシタル對歐關係デアアル、首相ハ曰ク「帝國ノ世界ニ於ケル地位ト責任トニ鑑ミ、諸般ノ國際案件ニ對シテ」進シテ世界恆久平和ノ確立ニ努力シツ、アルノデアリマス、是ハ諸君ト共ニ慶賀ニ堪ヘマセヌト果シテ斯ノ如キモノナラバ、本員ハ雙手ヲ舉ゲテ現内閣ノ此對歐政策ニ賛成致シタイ、併ナガラ事實ハ全ク之ト異ルヤウニ存ジマスルガ故ニ、茲ニ對歐外交方針、即チ「ゼノア」會議ヨリ目下獨佛ノ不幸事件タル此「ルール」ニ於ケル佛國軍事行動ニ對シテ帝國ノ執ルベキ方策ヲソレマテ何ツテ見タイト思フ、先ツ第一「ゼノア」會議ニ付テ御尋テ致シ、抑、此「ゼノア」會議ハ申スマデモナク、露國ヲ中心ト致シテ歐洲經濟的復興ノタメ露國ノ其富源ヲ開發致シタイト、斯ウ云フコトデ「ゼノア」ニ集テ上ハ、帝國ハ之ヲ絶好ノ機會ト致シテ、前段申シタル極東ニ於ケル日露特殊ノ事情ヲ列國ノ前ニ披瀝致シテ、露國代表「ナチリン」氏ト肝膽相照スマデニ行カヌニシテモ、非公式ニナリトモ、日露將來ノ親交ニ對シテ十分努力スベキ機會ハ確カ四十日アツタト記憶致シマス、然ルニ此間我ガ代表ハ何ヲ致シテ居タ、露國ノ代表トハ全ク敵國外患ノ如キ有様ヲ以テ、我ガ代表タル石井大使ト「ナチリン」氏ト喧嘩ヲ致シタト云フ以外ニハ、ゼノア會議ニ帝國ノ方針、皆無デアツタ、(拍手)其證據ニ、内田君ノ下ニ於ケル現倫敦駐劄林大使ガ斯ノ如キハ言葉ヲ述ベラレテ居ル、曰ク日本ノ政治家ハマルテ馬鹿ダ、無經綸極マルト、此林ガ言ウタト言ウテ毫モ差支ナイ、去フコトガ彼ガ「ゼノア」カラ歸テ日本ノ朝日新聞ノ特派員ニ言ウタ言葉、即チ五月二十六日、是ガ外國ノ新聞ニ翻譯セラレテ居リマス、茲ニ伺ヒタイノ「ゼノア」會議ニ對シテ帝國ノ方針ナリ其訓令ハ如何ト云フコトデアアル、此點ヲ伺ヒタイ、

次ニ首相ヨリ說明ヲ望ミタイノハ、只今申シタ帝國ノ地位、及其責任ヨリ、世界問題ニ對シマシテ、恆久平和確立ニ努力シツ、アルト云フ言葉ニ非ズシテ、其事實ヲ御尋致シタイ、洵ニ國際的協調ハ、誰人カ之ニ反對致シマセウ、併ナガラ今日國ヲ成ス以上ハ、各國銘々自國ノ利益、自國ノ權利ヲ忌憚ナク、ソコニ吐露シ、其意見交換ノ結果、交談妥協ノ其後ニ於テ現ハレタルモノガ眞ノ國際協調主義ト謂フノデアアル、(拍手)我ノ言ハントスル所、我ノ要求セントスル所、ソレハ如何ニ重大デアアルニモ拘ラズ、之ヲ列國ノ前ニ述ベズシテ、唯、他國ノ提案ニ追隨シ、附和シ雷同スル、斯ノ如クンバ所謂國際協調ナルモノハ、其實ハ國際的追隨、國際的盲從ト云フコトナリ而カモ是ガ帝國ノ對歐外交方針デアアル如何ニセン、(拍手)今、之ヲ事實ノ上ニ付テ申述ベタイ、即チ現在ノ獨佛ノ關係デアアル、昨年八月二日以来、倫敦ニ於テ英佛米伊白——米ハ要ラナイ、英佛白伊日此五箇國ガ會合致シ、獨逸ノ賠償金問題ニ付テ議論ヲ重ネタ、其以來會議ヲ重ルコト殆ド數回、紛擾ニ紛擾ヲ來シテ其結果ハ遂ニドウ衝突スルカト云フコトハ、我歐米ニ於ケル所ノ大使ハ當然之ヲ豫測スベキモノ、テ少クトモ外務大臣ガ茲ニ甚深ナル注意ヲ拂ウタ以上ハ、是等ノ大使ガ此問題ニ努力スベキコトデアアル、外務大臣ノ昨日ノ演說ニモ、此賠償問題ハ場合ニ依テハ極メテ重大ナル事態ニ立至ラヌトモ限リマセヌト云ハレタ、其重大事態、即チ總理大臣ノ所謂、世界ノ平和ニ貢獻シナケレバナラヌ日本ノ地位ト、責任アル其日本ガ何ヲシテ居ルカ、(拍手)現在倫敦ニ於ケル林大使ハ、此紛擾地タル英佛意見ノ不一致ノ其賠償問題ノ大切ノ時機ニ遠ク去テ、近東會議ニ倫敦カラ通ゲテ居リマス、佛蘭西大使館ノ石井大使ハ、今歸テ貴族院ニ居リマセウ、又米國ノ大使館ニ於ケル幣原大使、是亦不幸病氣ノ爲ニ昨年歸テ其儘デアアル、歐洲問題解決ノ中心タル英佛米ノ我ガ大使館ハ空家同様、斯ル冷淡ナル態度ヲ以テ、歐洲ノ中原ニ向テ、日本ノ總理大臣ガ能クモ白々シク世界恆久平和ノ確立ニ努力シツ、アルナド、云フコトヲ仰ツシヤラレル、狀クモ亦甚シイモノデアアル、(拍手)加之國際聯盟規約ニ從ヘバ獨逸ハ獨逸ノ要求ヲ致シテ居ル——條文ハ讀ミマセヌ——彼ハ彼ノ抗議スベキ條項ガアリマセウ、佛蘭西ハ佛蘭西デ軍事行動ヲ開始スベキ理由ガアリマセウ、即チ銘々ノ條項ガアリマセウ、即チ佛蘭西ノ行動ハ聯盟規約第八編第二附屬書第十八條、獨逸ハ、四百二十九條、四百三十條、此條文朗讀ハ略シマスルガ——然ルニ日本ハドウデアアル、國際聯盟規約ノ二百三十三條、二百三十四條ニ從テ、獨逸賠償委員會ノ五大國ノ一人トシタ所ノ其權利、而モ此

賠償委員會ハ、獨逸ノ賠償額ヲ、或ハ減シ若ハ賠償方法ヲ延期シ、其他ノ裁量權アル所ノ此日本帝國、何トテ此場合ニ獨逸ノ殆下干戈ヲ以テ争フカ如キ程ノ軍事行動ニマデ押寄セルマデノ衝突ヲ、默テ視テ居タカト云フコトデアル、又條約ノ條文ヲ離レテ大所高處ヨリ、外務大臣ノ所謂昨日演說中ノ「世界人類ノ生活ノ安定ニ貢獻セント云フコト」ガ、眞ニ現外務大臣良心ノ響キデアタナラバ、何故此英佛ノ争ノ數箇月間ニ、日本ガ此間ニ斡旋シナカッタノデアルカ(拍手)佛蘭西ハ、此賠償金ヲ得ルニ非ザレバ、其國土ノ回復ガムジカシイ英吉利曰ク、獨逸ノ此支拂ハ不可能デアラカラ、四箇年間ヲ延期シヤウ、佛蘭西曰ク、二箇年間デナケレバナラヌ、二年ト四年ノ間ニハ、若シ内田外務大臣ニシテ或ル經綸ガアツタナラバ、日本ガ何トカ其間ニ斡旋ノ餘地モアリマセウ、成程日本ガ獨逸カラ要求スベキ其賠償額ハ、僅ニ五億萬圓ニシカ足リマセヌ併ナガラ、場合ニ依テハ其賠償額ニ付テモ、相當甚深ナル同情ノ考慮ヲ拂フコトモ出來マセウ、況ヤ前段申上ゲタル賠償委員會ニ於ケル日本ノ權能等ヨリ見テモ、何トカ此間ニ相當ノ考察ガ出來ヤウト思フ、否、此歐洲問題ヲ離レテ、若シモ佛蘭西ノ如ク軍事行動ヲ開始スレバ、前段申上ゲタ吾々御同様ガ、今日只今、今ニモ電報ヲ待テツ、アル其佛蘭西ノ海軍批准ガ之ガ爲ニ遲レルナラバ、日本國民ノ負擔ノ輕減ノ上ニ於テモ、政府ノ編成シテ豫算ノ審議ニ於テモ、重大ナル關係ガアルト見マシタナラバ、尙更日本ハ是等ノ理由ヲ以テ英佛意見不一致ノ場合ニハ、好意の斡旋ヲスルコトガ本員ハ十分出來得ル機會ガアツタラウト思フ、然ルニ今日迄何等更ニ善手ハ致サヌノデアル、仍テ、此場合ニ、昨日外務大臣ハ此賠償問題ニ付テ、或ル一種ノ何カ理想デアアリサウナ事ヲ言ハレマシタガ、此點ニ向テ本員ハ露骨ニ申上ゲル、本員ノ此機會ヲ利用セラレテ、佛蘭西ノ緩和ガ、日本ト云フ嚴正中立ナル其一人カラ現ハレタト云フガ如ク、何トカ道德の聲明アモ宜シイ、即チ日本政府ノ此問題ニ對スル所ノ公正ナル立場ヲ明白ニ致スコトガ、外務大臣昨日ノ演說中、世界人類ノ生活安定ニ貢獻セントスル唯一ノ手段デアラカラ、之ニ就テ何カ願望ノ上ニ於テ、決定致シテ居ルモノガアルヤ否ヤソレモ又、英米ノ天氣ヲ見テ、其鼻息ニ從テ行動ナサラウト云フノデアラカ(拍手)是モ序ナガラ伺テ置キタイ、(拍手)最後ニハ對支政策ニ付テ御尋致シマス、對支政策ニ付テハ、外務大臣既往四箇年ノ方針、竝ニ昨日加藤總理ノ演說ヲ聽イテ見マシテモ、事實ノ上ニ於テ帝國ノ對支政策ナルモノハ全ク無方針デアル、若シ方針アリトセバ、忌憚ナク之ヲ論評スレバ、其方針タルヤ唯夫レ傍

觀主義デアアル、追隨主義デアアル讓歩主義デアアル(拍手)ト云フコトヲ、本員ハ之ヲ疑ヒナキ事實ニ照シテ、深く遺憾ノ信念ヲ持ツザラ得ナイモノデアアル、而シテ此傍觀主義讓歩主義、屈辱主義ガ如何ニ我ガ國家ニ有害危險ノ政策デアアルカト云フコトハ、本員多年此演壇ニ痛論致シ居テ、アル、其事ヲ事實ノ上ニ對照致シテ、外務大臣初メ總理大臣ノ答辯ヲ煩ハス、第一ニ傍觀主義ノ事實ヨリ申述ベテ見マス、内田外務大臣ガ第四十一、第四十二議會ニ於テハ斯様ニ述ベラレタ、支那南北妥協勸告ノ爲ニハ有效の盡力ヲ致シタキ旨ヲ述ベラレ、第四十三議會ニ於テハ是ガ一變致シテ傍觀主義トナッタデアアル、外相曰ク支那國民ノ覺悟ハ海ニ注目スベキモノアル故、我國ハ不偏不黨ノ方針、及公平嚴正ナル態度ヲ持スル旨、斯ウ云フコトヲ言ハレテ居リマス、然ルニ昨四十五議會ニハ何ト云ハレタカト申スト、隣邦支那ニ於キマシテハ、不幸ニシテ未ダ統一ヲ見ルコトガ出來ザルノミナラズ、最近ニ至テハ同國ノ實情却テ反對ノ方面ニ進展セントス云々、即チ四十四議會迄ノ外務大臣ノ形勢ノ樂觀ハ全ク見込達デアルト云フコトヲ告白セラレタ、(拍手)ソコデ已ムナク空想的の文字ト本員ハ思ヒマスガ、昨日モ速ベラレタル所謂、不偏不黨、公明正大ト云フヤウナコトヲ羅列セラレテ居リマス、是ガ内田外務大臣ノ對支政策ノ無方針デアルト云フコトヲ、傍觀主義上ヨリ見タル所ノ證據デアアル、而シテ現内閣ニ至テ即チ加藤新首相ハ、定メシ此間ニ如何カ積極の方針ニ出デラレルデアラウト、本員モ多少ノ期待ヲ持テ居リマシタガ、昨日ノ演說中ニモアルガ、更ニ現内閣創立當時即チ昨年六月十五日ニ加藤首相ノ名前ヲ以テ發表シタル陳述書ニハ斯様ニ書イテアリマス、曰ク日本國民ハ隣邦支那ガ速ニ現在ノ不幸ナル政情ヲ脱シ、該國民自身ノ努力ニ依テ平和統一ノ實ヲ舉ゲンコトヲ切望ス、ト而シテ昨日演說ノ意味モ斯様ニ拜聽致シマシタ、是ハ如何ニモ墨西哥デアルトカ、巴爾幹デアルトカ云フ日本ノ利害關係ノ少キ國ニ向テ、一國ノ總理大臣ガ外交の辭令ト致シテ發表ナサルノナラ免モ角モ、切テモ切レヌ禍福存亡ノ共同責任アル支那ニ向テ、斯ウ云フ冷淡ナル文字ガ、果シテ是ガ帝國ノ政策トシテ御同様ニ安心ガ出來マセウカ(拍手)況ヤ其支那ハ多年ニ巨ル内亂同様ノ國難、前途測ルベカラザル所ノ運命ニ呪ハレツ、アル所ノ其支那ニ對シ、盛衰興廢トマデハ行カヌデモ、安危盛衰ヲ均シウスベキ共同運命ニ在ル所ノ日本ガ、支那ニ對シテ支那ノ事ハ支那自身ニ委スベシト云フ、内田外務大臣ノ無方針政策ヲ繼續シタナラバ、總テハ此無方針ノ對支政策ハ、我ガ日本吾自ラ我ガ國命ヲ益ル所ノ危險政策ト本員ハ思フノデアリマス(拍手)

唯、前段申上ゲタ六月十五日ノ首相ノ聲明中、一縷ノ望ヲ囑シテ前途改善ノ希望ノアルト思フタコトハ、右陳述書ノ續ニ斯様ニ述ベラレテ居ル、日本國民ハ支那國民ノ福祉ニ對シ感情及實質兩方面ニ於テ敏感ナリ蓋シ我國民ノ福祉ハ偉大ナル隣邦ノ平和繁榮ニ俟ツ所多クレバナリトアル、斯ノ如ク精神上、物質上、爾ク甚ダ支那ニ向テ敏感ナル日本ガ、此紛亂セル現時ノ支那ニ對シテ、手ヲ拱イテ之ヲ傍觀スルト云フコトハ、ドウシテ國家ヲ念ヒ、支那ニ向テ忠實ナル隣國ノ政策ト云フコトガ出來マセウカ(拍手)支那ノ欲スル根本目的ト、同時ニ日本盛衰榮枯ノ關スル其歸著點トハ、如何ニスレバ支那ニ安定セル統一政府ガ出來ルカト云フニ在ル、左レバ日本ハ此問題ニ向テハ、全力ヲ擧ゲテ、常ニ眞摯ナル友情ト、熱誠ナル援助ヲ傾注シテ行カナケレバナラヌ、外務大臣ガ四十一議會ニ申述ベラレタル其初一念ヲ四箇年ノ今日マデ若シ繼續シテ居タナラバ、所謂兩垂テモ右ヲ穿ツガ如ク、何カ效ガアツタニ相違ナイ、少クトモ日支兩國國民ノ此關係ハ今日ノ如ク惡化致シマセヌ、首相及外相ハ現在ニ於ケル日支ノ關係ヲ海ニ樂觀ナサレテ居ルガ、吾々ガ毎日見ル支那國民代表ノ言動ト云ヒ、支那國民一部ノ感情ガ、果シテ日本ニ對シテ親善ヲ盡シ、アリト云フ紙ノ上ノ言葉、文字ノ上ノ解釋ハ別物トシ、事實問題ト致シテ諸君ノ良心ガ之ヲ是認致スヤ否ヤ(拍手)本員ハ此傍觀主義ヲ事實ノ上ニ於テ證明致シテ見マス、昨年三月奉直戰爭ノアツタ當時、支那ヲ思ヒ、日本ノ利害關係ヲ思フタナラバ、日本ハ何故進シテ此奉直戰爭ヲ避クベク勸告の努力ヲナサラナカッタノデアラカ、云フマデモナク日露戰爭以後日本ノ東三省ニ於ケル利害ハ、極メテ密接トナレテ居ル、其東三省ニハ六十五萬ノ御同様ノ同胞、日露戰爭以後官民放資ノ總額ハ實ニ二十五億萬圓、而シテ其東三省ヲ事實上治メテ居ル張作霖氏ト直隸ノ吳佩孚氏ト戰爭ヲ起シ、何方ガ勝ツカ負ケヤウガ、其影響ハ直接支那ノ平和ヲ亂シ、我國トシテハ其東三省ニ於ケル日本國民ノ利益及權利ニ影響ヲ來スト云フコトハ明白デアアル、況ヤ華府會議ニ於ケル九箇國條約ノ精神ニ從ヘバ、日本ハアノ場合進シテ英米佛伊ニ向テ、扱テ御互ガ聯合國運動ヲ起シテ張作霖、吳佩孚兩氏及北京政府ニ此戰爭中止ヲ勸告シヤウデハナイカ、而シテ列國若シ應ゼズンバ、日本ハ右ノ利害關係ヨリシテ直接ニ是ガ言ヒ得ラレタノデアアル、然ルニ日本ハ之ヲ爲サナイ、之ニ反シテ日本ヨリハ利害關係薄イ所ノ英米ガ之ニ著手致シテ、忘レモセヌ又五月二十二日、英吉利ハアノ滿洲ニ於ケル關係深炭坑ノ其附近ニ戰爭ガ

起レバ、英國ノ利害ニ關係スルト云フ所カラ、英國ノ軍隊數百人ヲ濠州ニ差シ向ケテシマツタ、ソコテ張作霖氏ハ戰線ノ不利トハ知リナガラモ、已ムヲ得ズ英國ノ此積極的行動ノ爲ニ自己ノ地盤ヲ地タテアル、進シテ其六月十二日ニハ奉直戰爭和議第一ノ發案者ハ日本ニ非ズシテ、英國宣教師「ヤング」、米國人「ブラッド」氏ガ英米領事ノ諒解ノ下ニ此運動ヲ開始サレタ、其十七日ニ米人「ヤンソン」、英人「ネーサン」ノ二人ガ支那奉直兩軍ノ代表者ト山海關ニ會見シ、戰線ヲ茲ニ現狀ニ維持スルト云フコトニ定メテ、此間我ガ内田外務大臣ハ全ク手ヲ拱イテ、高見ノ見物ル、此間我ガ内田外務大臣ハ全ク手ヲ拱イテ、高見ノ見物ル、此間我ガ内田外務大臣ハ全ク手ヲ拱イテ、高見ノ見物ル、

政府ニ此事ヲ提議セラレタノデアル、斯ウ云フ怖ルベキ形勢ヲ見マシタナラバ、支那ノ前途ニ對シテ我國ハ最早傍觀スル所ノ時機デハナイ、如何ニシテ此支那ノ困難ナ其不安定ノ政情ヲ救ヒ、如何ニシテ支那ノ此困迫セル財政ヲ救フテ行クカト云フコトニ付テ、帝國政府若シ一定ノ經綸アラバ謹シテ承リタイ、是モ内田君ノ主義トシテ「毒舌ヲ弄スル」ノデハナイガ、相變ラズ英米ノ發案次第ト云フ（拍手）御意見デアルナラバソレモ宜シイカラ承ハラウ、是ヨリ私ハ其讓歩主義ノ實例ニ就テ述ベテ見タイ、外務大臣ハ昨日モ我が國家ノ權威國運ノ伸張ニ對シテハ、深甚ナル注意ヲ拂フ旨ヲ申述ベラレタト記憶致シマス、勿論日支兩國ノ關係ニ於テ讓ルベキモノハ、勿論支那ノ爲ニ讓ルベキモノハ、此外務大臣ノ演說ノ如ク、我が國權ノ伸張、我が國家ノ權威ニ關スル既得ノ權利ニ向テ、支那ガ抱ケバ負フサルト云フ、所謂讓歩ヲ得テ蜀ヲ望ムガ如キ無法ノ要求希望ニ對シテハ、嚴肅ニ之ヲ拒絕シ、斯ク致シテコソ外務大臣ノ所謂國運ノ伸張モ國家ノ權威モ、之ヲ完ウシ得ラレヤト思フ、況ヤ支那ニ對スル讓歩、其讓歩モ我國ガ支那ヲ援クトル自發的ノ誠意カラ起リテ讓歩アルナラバ洵ニ結構デアルガ、其讓歩タルヤ、他ノ壓迫若クハ世界周圍ノ機嫌氣樓ヲ伺ヒツ、恰モ高利貸ガ其利息ヲ人カラ勸メラレテ値切ルガ如キ所ノ讓歩、コソナ事ヲシテ支那ノ國民ガ何トシテ嬉シク思ヒマスカ（拍手）此事實ヲ申シテ見ル、四十三議會ニ於テ内田君ハ滿洲ニ於ケル特殊地位ガ確保致シテ居ルコトニ付テ、列國ノ諒解ヲ得テ居ル云フコトヲ御同様ニ明言シテ居ル、而ルニ滿蒙ニ於ケル特殊地位ハ、華盛頓會議ニ於テ全然之ヲ一擲ナサテ居ルデアリマセカ、又四十五議會ニ於テ山東問題ニ關シ、本員モ昨年此演壇ニ申述ベタ如ク、英米監視ノ下ニ支那國運ヲ開始スベキ其問題ヲ華盛頓會議マデ持出シテ、而モ持出シテ結果其節申上ゲタ如ク、讓歩ト云フコトニナリ——國家ノ利害デアル、御謹聽ニ懇ヘタイ——遂ニ我が主張シタ所ノ山東鐵道ノ合辦、居留地、是モ專管カ共同カニスルト云フ事、日支合辦ノ山東鐵道ヨリ農業ノ權利、都市開市、皆失テシマテ居ルデハナイカ、昨日總理大臣ハ貴族院ニ於テ此山東問題ノ事ニ對シテ、英米ノ監視ヲ受ケタコトハナイト云フガ如クニ新聞紙上ニ於テ拜見致シマシタガ、果シテ總理大臣ハ此山東問題ガ英米監視ノ下ニ行ハレナカッタト云フ事、單刀直入ニ申セバアルト云フ本員ノ信念ニ對シテ、之ヲ此壇上ニ打消スダケノ勇氣アリヤ否ヤ、是ハ總理ニ殊ニ承テ置キタイ、又外務

大臣ニ對シテ最後ノ問題トシテ、日支郵便條約附屬文書ニ付テ、讓歩ノ一例トシテ其說明ヲ煩シタイ、華府會議ノ結果、日本ハ昨年十二月九日、日支郵便條約ヲ締結セラレ、其際ニ於テ、左ノ如キ意味ノ附屬文書ヲ支那政府ニ交付セラレタト云フ、其意味ハ「將來日支兩國間ノ交渉問題トナリ得ベキ南滿鐵道附屬地ノ郵便ハ暫定ノ現狀ヲ維持シ、其取扱ニ付テハ千九百十一年二月九日、日支郵便條約ニ依ル」斯様ナ意味ニ摘略致シテ申述ベマスガ、果シテ斯ウ云フ附屬文書ヲ出シタトスレバ、此文書ノ意味ハ斯ウナル即チ只今滿鐵ノ附屬地ニ於ケル日本ノ取扱、日支郵便事務モ、追テハ今回支那ニ還シタ所ノ其外ノ支那ニ於ケル日本ノ郵便事務ノ如ク、將來ノ交渉ニ於テ之ヲ還付スル其交渉ヲ開ク時期ニ讓ルテ居ルト、斯様ニ常識上カラ考ヘ得ラレヤト思フ、殊ニ世上傳フル所ニ依レバ、此附屬文書ヲ交付スルニアラザレバ、折角華盛頓會議ニ於テ確定シタル日支郵便條約、一月一日ニ之ヲ實行スルコトガ出來ナイ爲ニ此文書ヲ遣ラタト云フコトデアル、本來人民直接ノ此重大ナル郵便事務、逕信大臣ニモ殊ニ此點ニ付テ答辯ヲ要求致ス、即チ一月一日支那ニ實行スベキ所ノ其郵便ヲ、本員讓ナクハ斯様ニ信ス、本年ノ同月同日即チ一月一日之日ヲ發布致シテ、一月一日ヨリ實施スルト云フ、サウスル迄急遽ヲ要スル理由ヲ、外務大臣ト共ニ辯明ヲ煩シタイ、此事ニ付テハ詳細ハ追テ吾々ノ同志カラ質問致シマセウガ、ソレハ申述ベカ、唯、逕信大臣ニ此問題ト共ニ事實ト併セテ御尋スルハ、日本ガ支那ニ於ケル所ノ人民ノ權利ノ重大ナルコトハ申スニ及バズ、支那ニ於ケル外國ノ會社ノ數ハ約九千五百、其中日本人ノ會社ハ六百以上、又在在外國人中、日本人程多イモハ無イ、約十四万ト思フ、此十四万人人間ニ、本員ヲ初メトシテ年賀狀其他ノ必要ナル手紙ヲ出ス、其手紙ガ一月一日ノ公報ト共ニ其一月一日ヨリハ是ガ支那ノ郵便事務ニ移ラ、斯ウナラバ爲ニ現在本員ノ承テ居ル所ニ依レバ、郵便ノ延著、留置紛失、又ハ日本ヘ逆送サレテ來テ居ルモノガ、數万ニ及ンデ居ルト云フ、其事實ヲ御否定ニナルヤ否ヤ、是ハ逕信大臣ニ向テテ序ナガラノ質問デアル、加藤總理モ御記憶ノ如ク、華盛頓會議ニ於テ、支那ハ日本ノ租借地タル關東州還付ヲ要求シタ時分ニ、我が全權ハ斷然トシテ之ヲ反對シタ、是ハ支那カラ借リタモノデハナイ、日露戰爭ノ結果、日本ガ多大ノ人命ト國帑トヲ費シテ、露國カラ得タ所ノ繼承權デアルト謝絶致シタ場合ニ、顧維鈞氏ガ、然ラバ最早此問題ハ日本ニ向テ、此會議ニ於テ打切りマス、ト斯ウ言ウタ、顧維鈞氏ノ其答辯

ハ、移シテ以テ南滿鐵道附屬地ニ於ケル日本ノ郵便權ニ應  
用ガ出來ヤウト思フ、即チ此條約權ヲ支那ニ還付スル、其  
條約ノ中ニハ、租借地内ニ在ルモノ、又ハ條約ニ依リ特ニ規  
定セラレタルモノヲ除クトアル、即チ問題ノ南滿洲鐵道附  
屬地ニ於ケル我郵便權ハ、日露戰爭後「ポーツマウス」條  
約、北京協約ニ依リ得タル當然此除外例ニ屬スベキモノ  
ト研究スルニモ係ラズ、本員ノ右讀ミマシタル附屬文書ガ  
果シテ誤リナク、又果シテ之ヲ交付シタモノトシタナラバ、外  
務大臣ガ此不必要ナル附屬文書ヲ交付シタ理由ヲ承リタ  
ク、本員ハ、支那ハ後日此附屬文書ヲ以テ、現ニ今日  
御同様ガ支那ノ國會議員ノ決議ニ對シテ、其世界的知識  
ニ缺乏シテ居ルコトヲ氣ノ毒ホド思フ、カノ日支條約ノ改  
廢、即チ所謂二十一箇條ヲ廢止スルコトカ、又唯今申上ダ  
所ノ我が國東租借地、回收決議トカソレハ、支那ノ現大總  
統黎元洪氏ガ、昨年十月十七日之ヲ以テ東洋ノ「アルサ  
ス」ローレンニ比較致シタ、ト報ゼラル、ガ如ク洵ニ責任アル  
人トシテハ誤マタル意見、是ハ定メテ間違タ報道デアラウ  
ト云フコトヲ希望スルガ此報道ノ眞否ハ免ニ角モ、支那ノ  
國會ハ大連、旅順回收案迄決議シテ居ル是等ノ事ヲ見ル  
ト、一方我國ハ誠心誠意ヲ披瀝スル、又披瀝シタニモ拘ラズ、  
支那ハ大正四年ノ我條約權、而モ其條約ハ兵力若ハ壓迫ニ  
依リテ非スシテ、兩國ガ共同ノ利益ノ爲ニ喜シテ調印シタ  
ル其條約スラモ、破壞セントスル所ノ今日ノ支那ノ國民狀  
態、此支那ノ國民性ニ鑑ミテ見マシタナラバ、本員カラ見テ  
以テ不必要ノ文書トナスル書附ヲ交付シタ曉ハ、支那ハ  
此文書ヲ以テ將來南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル日本ノ郵  
便權ハ支那ニ回收シ得ラルベシト云フ意味ニ於テ、内田外  
務大臣ガ之ヲ交付シタモノデアルト云フ第二ノ難題ヲ、吾々  
ニ吹掛ケルハナイカト思フ、是ハ本員特ニ説明ヲ煩シテ見  
タイト思フノデアアル仍テ此場合本員ノ所謂不必要ナル文書  
ヲ交付シタル理由及ソレト共ニ、此演壇ニ於テ此交換文  
書ハ右本員ノ言フガ如キ趣意ニ非ズシテ、日本ノ滿洲鐵道  
ノアラシ限リ、其附屬地ノアラシ限リハ、其處ノ郵便權ハ依  
然トシテ既往ノ如ク、即チ只今申上ダタ其條約ノ通りニ斷  
然日本ハ之ヲ支那ニ讓渡ス意味ニ於テ交換シタモノデアナイト  
云フ、絕對の否認ノ御證明ヲスルコトガ、日支兩國國民ノ誤  
解ヲ解ク上ニ於テ極メテ便宜デアルト思ヒマス、最後ニ申  
述ベタキ事ハ、内田外務大臣外交ノ方針ハ、只今申上ダタ  
如ク世界各方面ニ互ニ譲テ讓歩ニ讓歩ヲ以テシ、吾々ガ  
漢學ヲ能ク聽イタ、朝ニ一城ヲ讓リ暮ニ一壘、斯ウ云フ遣  
方ガ内田君ノ讓歩主義、此實例ハ先刻申上ダタ西伯利ニ  
於テ、支那ニ於テ、北ハ滿蒙ヨリ南上海ニ至ルマデ、日本ノ

實業家、政友會ノ中ニハ多數ノ實業家諸君ケアテ、實業  
上ノ其知識ハ本員以上ニ豐富デアザル、此方々ヲ初メトシ  
テ、日本ノ政黨政派ヲ離レタル在外六十萬ノ同胞ガ、今日ノ  
外交ノ方針ニ安心致シテ、海外發展ニ從事スル者ガ果シテ  
幾人アリマセウ(拍手)而モ彼昨日ハ曰ク、我が國民ノ對外  
經濟的發展ヲ圓滿ニ能クモ斯ウ云フコトガ言ヘタモノデア  
ル(拍手)西伯利ニ、支那ニ、滿蒙ニ、加奈陀ニ、北米ニ、濠  
洲ニ、到ル處八方塞リノ此運命、皆是レ内田外務大臣ノ無  
方針、無經驗ノ結果デアラト云フ其證據ハ、四十一議會ノ  
速記録ヲ今晚大臣歸テ二時間讀シテ見給ヘ、アナタノ言  
ウタ事ハ悉ク前後矛盾、自家撞著、甚シキハ外國ニ向テマ  
デモ影響スル事ヲ、白々シク確ナル諒解ヲ得タカノ如キ事  
マデ言フ、斯クマデ其良心ハ、寔ニ神經質ナラザルコトハ内田  
外務大臣個人ノ特長デアラウガ、國家其モノ、利益カラ見  
タナラバ、御同様國民ノ代表者トシテ確ニ外務大臣ニ向  
テ、其外交方針ノ皆無ナルコトニ深甚ノ考慮ヲ拂ハナケレ  
バナラヌト思ヒマス。(拍手)露骨ニ申スト大正七年九月二  
十九日、外務大臣就職以來今日ニ至ルマデノ外交ハ、其  
日暮シノ日備外交ト申ス以外ニハナインデアアル、(拍手)是  
ハ外務大臣自己ノ良心ニ御尋テ願フト云フ本員モ極メテ  
穩健ナル一言ヲ茲ニ殘シテ、ソコテ更ニ此外交ニ御答辯ヲ煩  
スニ先クテ、議長ノ許可ヲ得テ、此所ニ現外務大臣ガ就職  
以來、列國ニ對シテ初メノ提議ヲ如何ニ讓リ、讓リテ其妥  
協案ヲ更ニ如何ニ讓リ、讓リテ外務大臣議歩一覽表」  
ト云フベキ事實ノ立證、是ハ而モ本員ノ個人ノ意見ニ非  
ズシテ、外務省ノ公表シタル其公文書ヲ基礎ト致シタ所ノ  
其材料ノ出所ヲ、悉ク明記致シタ積リデアリマスルガ故ニ、  
朗讀ニ代ヘ之ヲ茲ニ殘シテ外務大臣即席ノ答辯ヲ煩シマセ  
ヌガ能ク々々御覽ニシタナラバ、外務大臣自身モ中宵定メ  
テ啞然トシテ其良心ノ背責ニ堪ヘナイモノデアルト云フコトハ、  
此一言ヲ殘シテ、同時ニ之ヲ國民ノ判斷ニ訴ヘマスル、是ダ  
ケヲ以テ御清聴ヲ煩シタコトヲ感謝致シマス(拍手)

○國務大臣男爵加藤友三郎君) 只今望月君ヨリ外  
交ニ關スル澤山ナル御質問ガアリマス、其中若干ハ私ニ  
答辯シロト云フ御言葉デアリマス、尙ホ詳細ニ至リマシテハ、  
當局者タル外務大臣ヨリ詳シク答辯サレルコト、信ジマス、  
私ハ大體ニ就テ御答致シタイト存ジマス、第一ハ四國協約  
ニ關スル米國上院議員「ロヂ」氏ガ、上院ニ於テ述ベマシ  
タ所ノ問題ニ付テノ御尋デアリマス、即チ四國協約ハ一方  
ニ於テハ日英同盟ニ代ルベキモノデアルト云フガ如キ意味  
ノコトヲ、外務大臣ハ述ベタコトガアルト云フ御話モ此中ニ

アツヤウゴザイマス、元來此協約ハ、精神ニ於キマシテハ、  
帝國ト致シマシテハ日英同盟ニ代ルベキモノデアルト云フ  
考ヲ持テ居ルノデアリマス、勿論其内容ガ大ニ異ニテ居ル  
ト云フコトハ、事實爭フベカラザルコトデアリマスケレドモ、  
併ナガラ精神ハ此ニアルト云フコトヲ確信致シテ居ルノデア  
リマス、同時ニ又此協約ガ太平洋ノ安定ヲ圖ルガ爲ニ、  
飽マデ平和的精神ヲ以テ締結セラレテ居ルト云フコトモ、  
其精神ノ一ツデアアルノデアリマス、是亦帝國ノ確信致シテ  
居ル所デアリマス、米國上院議員「ロヂ」氏ガ、此協約ノ裏  
ニハ武力ナルモノガ無イト云フコトヲ述ベタト云フ御話デア  
リマスガ、私モ此事ハ承知致シテ居リマス、是ハ即チ米國上院  
議員デアアリマセヌケレドモ、現政府側ノ人デアリマスガ故ニ  
或ハ政府ノ方針デアリマセウト考ヘル、併シハ米國政府  
ノ解釋デアアル、帝國政府ニ於テモ元來ノ精神ガ平和的デ  
アリ、隨テ武力ト云フコトハ爲シ得ル限リ避ケルト云フガ、此  
協約ノ精神デアリマスル以上、精神上ニ於キマシテハ、武力ナル  
モノ、無イト云フ解釋ヲ爲スモ、決シテ過デナイト信ジテ居  
ルノデアリマス、併ナガラ協約面上何等之ニ對スル規定ハ  
無イノデアリマス、隨テ比律賓方面ニ於ケル何等カノ出來  
事ノ場合ニ於ケル例ヲモ引イテ御話ガアリマス、必要ヲ感ジ  
若シ帝國ガ此協約國ノ協約的武力ヲ用井ルノ必要ヲ感ジ  
マシタ場合ニハ、或國ト相談ノ上之ヲ爲スコトニ於テハ、何  
等ノ差支ハナイト思フノデアリマス、是等ノ事ハ自然各國ハ  
所謂内政上ノ關係モアリマス、又書キ物ノコトデアリマス  
ルカラ、解釋ト云フコトニ付テハ多少ノ相違ヲ生ズベキ場合  
モ或ハアルカモ知レナイト思フノデアリマス、隨テ「ロヂ」氏  
ノ斯ノ如キ解釋ヲ加ヘ、留保ヲ爲シタカト云フガ如キコトハ  
米國政府ノ事デアアル、其精神ニ於テハ我が政府ニ於テモ異  
存ハ無イノデアリマス、唯、或ル場合ニ於テ得ナイコトハナ  
リ、斯様ナ事モ爲シ得ル餘地ノアルモノデアルト云フ、解釋ヲ  
持テ居ルト云フコトヲ申上ダテ置クノデアリマス、次ニハ海  
軍條約ニ付テノ御話デアリマスガ、此御質問ノ要點ハ一寸  
記憶致シマセヌガ、大體私ノ解釋ニ依リテ御答ヲ致シマスガ、  
今回ノ豫算ヲ編成スル上ニ於テ、英米政府ト何等カノ諒解  
ヲ得タカト云フ御話ノヤウデアリマス、外交上ノ公然ノ手  
續ヲ以テマシテハ何等諒解ハ得マセヌ、又其必要ヲ感ジナ  
イノデアリマス、御承知ノ如ク英米兩國トハ公然ノ外交形  
式ニハ依リマセヌケレドモ、大使館員若クハ「アツタツセ」ヲ  
以テ軍事當局者、若ハ外交當局者ト非公式ニ意見ノ交  
換ヲ終始致シテ居リマス、故ニ、此兩國ガ此條約ヲ實施スル  
ト云フ上ニ於キマシテ如何ナル事ヲ爲シツ、アルカ、今後如

何ナル事ヲ爲セントスルカト云フガ如キ大體ノ事ハ、政府ニ於テ能ク分テ居リマス、又我國ノ今回編成致シマシタル豫算ニ依テ、御覽ノ如キ方針モ此兩國ニハ通ジテゴザイマス、即チ條約ハ望月君ノ御話ノ如ク、不幸佛伊兩國ノ批准ガ濟ミマセヌガ爲ニ、今日マデ效力ヲ生ズルコトノ出來ナイノハ洵ニ遺憾ト致ス所デアリマス、併シ是亦已ムヲ得ナイデアリマス、併ナガラ此條約ノ精神ナルモノハ、今日ノ場合飽マデ實行スベキデアルト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、英米兩國ニ於キマシテモ即チ實行致シテ居ルノデアリマス、現ニ來年度ノ英米兩國ガ豫算ヲ編成スル上ニ於テ、又本年度内ニ於キマシテモ、即チ現在ニ於テ如何ナル事ヲ爲スカ、如何ナル方針ニ依テ、此效力ノ生ゼザル以前ノ遺方ニ付テ其方針等ヲ聽キタイト云フコトモ問合セマシテ、其返事モ得テ居ル、此兩國ハ現ニ今回豫算ニ依テ御覽ノ如キ我ガ執リツ、アル所ノ方針ト、大體ニ於テ同様ノ態度ヲ執テ居ルノデアル、或ル軍艦ノ如キハ既ニ廢毀ニ著手シ、士官ヲ初メ兵員ニ至ルマデノ大減員ヲ實行致シテ居リマス、是亦我ガ海軍ニ於テ實行致シマシタ所ト更ニ違フ所ハナイノデアル、軍港並ニ陸上設備ノ整理、言葉ヲ換ヘテ言ハバ縮小デアリマス、是亦既ニ英米等モ實行致シテ居ル、我ガ海軍ニ於テモ或ル一部分ハ實行致シマシタ、嚴格ニ申シタナラバ效力ヲ生ゼザル以前ニ諸君ヲ煩ハスベキ正當ナル豫算ヲ編成スルト云フコトハ、或ル想定ノ下ニヤ、タノアルカライケナイト云フ議論モ、或ハ出來マセウカトモ考ヘマス、併ナガラ條約其モノ、精神モ、已ニ軍備ノ競争ヲ止メヤス、併ナガラ條約其由ノ下ニ生ジテ居ルノデ、殊ニ方ニ批准スル萬般ノ準備整ウテ居ル英米兩國ガ既ニ其精神トシテ、殆ド效力ノ生ジタル場合ニ於ケルト同様ナル態度ヲ執テ居ル際ニ、帝國獨リ之ニ反スル態度ヲ執ルト云フコトハ、全局カラ見テ果シテ利益デアアルヤ否ヤ、是ハ大ニ考慮ヲ要スベキ點デアラウト思フノデアル、斯様ナ見地ヨリ考ヘマスレバ、多少ノ議論ノ餘地アリト致シマシテモ、今日ノ場合之ヲ實行致シマスコトガ、華府會議ノ精神ヲ尊重シテ、列國ノ信用ヲ得ル上ニ於テモ利益デアアラウカト思フノデアリマス、又一面ニ於キマシテハ、是ガ御質問ノ主旨デアツカニモ考ヘマスガ、又此條約ガ成立ヲ致シマセヌ場合ヲ豫想スルコトモ必要デアラウカト思フ、此點ニ付テハ昨日早速君ノ御質問ニモ御答ヲシテ置キマシタガ、現在當局ガ此豫算編成ヲ致シマス當時ノ決心ハ、只今望月君ノ御述ノ如ク、效力ノ生ゼザル場合ニ、即チ佛伊兩國ガ此批准ヲセザリシ場合ニドウスルカト云フコトニ付テ、極ク大體ノ方針ヲ海軍省ガ定メマスニハ、隨分苦心ヲ致シタノデアル、爲ニ豫算編成ニ取掛リマス以前ニ

於テ、形式コン具ヘマセヌガ、前申上ゲルヤウナ英米兩國ノ態度方針等ハ「アツクセ」並ニ大使館員ヲ以テ、互ニ非公式ニ意見ノ交換ヲシ之ニ依テ得マシタ所ノ材料ニ依テ、此兩國ハ假令效力ガ生ゼザルニモセヨ、本年度ヨリ直ニ爲シ得ル限リ、此條約ノ精神ヲ實行スルモノデアルト云フコトノ確信ヲ得タノデアル私ハ、是ハ疑ハナイ、故ニ我ガ海軍ニ於キマシテモ、今回ノ豫算ノ如キ方法ヲ實行スルガ時機ヲ得タモノデアルト信ジマシテ、既ニ諸君ノ御前ニ差出シマシタ通りノ豫算ヲ編成シタ次第デアリマス、故ニ萬一效力ガ生ジマセヌ場合ニ於キマシテモ、所謂軍備縮小ナル主義ノ下ニ此ノ豫算ヲ編成シテアリマスノデ、其主義方針ノ大部分ハ實行致ス決心ヲ持テ居ル、故ニ昨日早速君ニ申上ゲマシタ通り、假令條約不成立ノ場合ニ於キマシテモ、現ニ提案シテアリマス豫算案ヲ改訂スルトカ、遣リ直ストカ云フコトハ、斷ジテ致ス積リデアリマセヌ隨テ英米兩國カラ保障ヲ得ルト云フガ如キコトハ致シテ居リマセヌ、私ハ斯様ナルコトハ寧ろ今日ノ場合ニハ致サナイ、御互ニ非公式ノ問合ヲ信賴シテ誠意ヲ示シタ方ガ宜カッタデアラウカト思フノデアリマス、唯、事實ハ保障ヲ得ルト云フヤウナ手續ハ履マナカ、タト云フコトダケヲ申上ゲマス、ソレカラ西伯利ノ問題ニ付テ、撤兵ニ付テノ責任觀念ヲ問フト云フ御話デアリマスガドウモ是ハ實ハ能ク了解致シマセヌデシタガ、モウ總テ撤兵ト云フコトニ付テハ責任觀念ハ感ジテ居ル、決シテ責任ヲ回避致シマセヌ、而シテ是ハ御質問デアリマシタカ如何デアリマシタカ、詰リ撤兵ニ依テ初メテ安定シタノデアルト云フヤウナ御言葉ガアツカヤウデアリマス、私ハ左様ニハ解シテ居ナイ、大體ニ於テ安定ノ兆候ヲ見マシテ初メテ撤兵致シタ、是ハ或ハ見様ニ依テ考ガ違フカモ知レマセヌ、又撤兵ニ關シテ英米カラ追窮サレタコトガ有ルカ無イカト云フ御話、左様ナコトハ決シテアリマセヌ、ソレカラ長春會議ニ關スル御質問中私ヘノ御質問ガ、露國委員ガ共同調査ヲ爲スト云ウ時ガ、最モ薩哈噠ノ撤兵ヲスベキ好時機デハナカッタカ、何故之ヲ利用シナカッタカト云フ御質問ノヤウデアリマス、當時ノ此會議ニ於ケル政府ノ方針ハ、通商ニ關シマスル問題ト、尼港事件ニ關スル問題トハ全然區分致シテ居ラタノデアリマス、隨テ通商ニ關スル條約ノ出來マセヌ限リニハ、尼港事件ニ關スル相談ニハ、應ジナカッタガ、決シテ之ヲ混同シテ話ハ致シテ居リマセヌ、此方針ヲ持致シテ居リマシタ故ニ、斯様ナル機會ヲ利用スルト云フ考ハ持タナカッタノデアリマス、併ナガラ一面ヨリ考ヘマシテ、共同調査ヲスルト云ウツタ其時機ヲ利用シテ撤兵スルコトガ、果シテ得策デアツカヤ否ヤ、是ハ別問題トシテ大ニ考究

ノ餘地ガアルカト思フ、對支政策ニ付テノ御質問ノ中ニ私ニ答ヘヨト仰セニナツタヤウデアリマシタガ、望月君ハ支那ニ對シテハ常ニ友情ト援助トヲ以テヤラナクチヤナラヌト云フ御言葉、全然御同意デアリマス、今日モ友情ト援助トヲ以テヤラナクチヤナラヌト云フ御言葉、全然御同意デアリマス、援助ヲ致スト申シテモ、援助ヲスル事柄時機其他列國トノ關係、種々ナル點ニ付テ考慮スベキ事柄ハアリマセウケレドモ、主義トシテハ全然御同意デアリマス、今日モ此方針ヲ實行致シテ居ル積リデアリマス、ソレカラ最後ニ華盛頓ニ於テ山東問題ニ付キマシテ、日支兩國間ニ會議ヲ開キマスル際ニ、英米兩國ノ干涉ヲ受ケタコトハ無イト云フコトヲ斷言シ得ルヤ否ヤト云フ御話デアリマス、受ケタコトハ無イト云フコトヲ斷言致シマス、決シテ干涉ハ受ケマセヌ、唯、此會議ヲ開クガ爲ニ「バルフォア」、「ヒューズ」兩氏ガ斡旋ノ勞ヲ執テ呉レタト云フコトハ事實デアリマス、是ハ私ハ最モ好意アルコトデアルト喜ンデ居ル、併ナガラ會議ヲ開イタ以上ハ、日支兩國委員ノ自由意思ニ依テ意見ノ交換ヲ致シタ以外、英米兩國ノ監視、若ハ監督ト云フコトハ斷ジテ受ケタコトハ無イト云フコトヲ言明致シテ置キマス

○議長(與繁三郎君) 内田外務大臣

○國務大臣伯爵内田康哉君登壇

○國務大臣伯爵内田康哉君) 私ハ望月君ノ御質問、寧ろ御希望ニ對シテ十分ノ満足ヲ與ヘ兼ネルノヲ悲シマス、望月君ハ私ニ對シテ意見ノ相違デアルト言フテ、自分ノ質問ヲ回避セヌコトヲ望ムト云フ御希望デアリマシタ、然ルニ只今御質問ナルモノヲ聽イテ見マスレバ、寧ろ御意見ノ開陳、或ハ一層進ンデ私ノ就職以來ノ外交ヲ非難センガ爲ニ批評ヲ下サレタモノデアル、併シ私ハ敢テ意見ノ相違トシテ、回避ハ致シマセヌ之ニ對シテ私ノ意見ヲ申上ゲ、事實ノ御質問ハ多クハ自ラ問ハレテ自ラ答ヘラレタ點モ多クアルヤウニ思フ、一ニ思違ノ點モ持テ居ラル、ヤウデアリマスカラ、是ハ其所ニ至テ申上ゲマス、先ツ望月君ハ私ガ四年前ニ就職シタ以來ノ外交ハ悉ク失敗デアアル、傍觀主義ヲ執テ居ツタ、讓歩主義ヲ執テ居ツタ、今一ツ何トカ仰セラレマシタ同ジヤウナ意味デセウ、先ツ此點ニ付テ私ハ反對ノ意見ヲ持テ居ル、敢テ自畫自讚ヲスルデアリマセヌケレドモ、私ガ就職シタ當時ノ外交關係ハドウデアアル支那ニ對スル關係、列強ニ對スル關係ハドウデアリマシタ、然ルニ今日ノ狀態ニ於テハ、洵ニ多年ノ問題デアツタ所ノ山東問題モ解決シ、山東ヨリ悉ク撤兵ヲシ、四年有餘西伯利ノ野ニ曝サレタ所ノ兵モ悉ク收メタ、之ニ對シテ日支ノ關係モ私ハ確ニ改善シ、改善シツ、アルト思フ(「ウウ」「ヒヤ」)又



西伯利ニ於ケル狀況モ其政情モ安定シ、今日ハ殆ド北極  
太ノ占領ヲ除ク外ハ、所謂勞農露國ハ統一セラレ、此勞農  
露國トノ感情モ餘程融和シツアルト思フ、遠カラズ勞農  
露國ト更ニ商議ヲ開始スル機運ノ來ランコトヲ私ハ寧ろ希  
望シテ居ル、單リ此感想ハ私ガサウ思フノミナラズ、恐ラクハ  
日本國民ノ多數、殊ニ有識者ハサウ思フテ居ルト私ハ思フ  
（拍手ノウ）此ハ歐米諸國ノ識者モ之ヲ言明シテ

居ル、現ニ亞米利加ニ於テモ歐歐巴ニ於テモ、日本ニ對スル  
感情モ大ニ好クナテ居ル、是ハ第一望月君トノ意見ノ相  
違デアル、望月君ハ讓歩ヲ爲シテハイケナイ、又條約ヲ決メ  
タ事、或ハ私ガ四年前ニ言フ事ト變テ居ル、御丁寧ニモ  
其表ヲ作ラレト云フコトデアリマスガ、私ハ皆覺ヘテ居ル、  
若シ讓歩シタモノガアレバ、讓歩シタ事ハ覺ヘテ居ル、私ハ  
讓歩シナイトハ言ハナイ、讓歩スベキモノハ讓歩スル、嘗テ讓  
歩シタノデナイ、即チ其代リガアルカラ讓歩シタノデアル、大  
局ノ上カラ願ヒテ日支ノ親善ヲ來シ、日露ノ親善ヲ來サン  
ガ爲メニシテアル、若シ此讓歩ヲ爲サズシテ、何所マデモ  
自分ノ主張ヲ言ヒ張テ居ラナラバ、今日ハ如何ナル狀態  
デアリマスガ、恐ラクハ日本ハ所謂四面楚歌ノ裡ニ孤立ヲ  
守テ居ラト思ヒマス、私ハサウ確信スル（ノウ）嘗テ

英吉利ガ日本ノ位置ヲ認メテ、明治二十七年ニ初メテ對  
等ノ條約ヲ日本ト締結シタコトデアリマス、日本ノ政權日  
本ノ法權ヲ認メタノハ英國ガ第一デアリ、此時ニ於テ日本  
ニ於ケル所ノ英國人ハ殆ド悉ク之ニ反對シタ、然レドモ此  
英吉利ノ卓見英斷ガ日英同盟ヲ齎ラシタノデアリ、支那ニ  
對シテモ露西亞ニ對シテモ、讓ルベキモノガアツタ時ハ讓  
シマスガ、西伯利ニ對シテ屢、政府ガ方針ヲ變更シタ、是ハ  
今ニ始ラヌ御質問、毎議會ニ此御質問ガアル、之ニ對シテ  
私ハ何時モ同シ事ヲ答ヘテ居ル、或ハ御記憶デアアルカラ申  
上ゲル必要ガナイカ知ラヌガ、元々西伯利ニ出兵ヲシタ目  
的ハ、「チエック、スロバク」ノ援助ニ在ルケレドモ、其時西  
伯利ニ於ケル情勢ガ變テ赤化ノ虞ガアルカラ、之ニ對  
シテ備へ、又南滿洲朝鮮等ニ對スル脅威ヲ排除シ、且  
ツ滿洲ニ於ケル多數ノ我ガ國民ノ生命財產ヲ保護  
スルニハ駐兵ヲ必要トスル、國情ガ安定シタ場合ニ於テ  
駐兵ノ必要ヲ認メナイトキニ於テハ、一日モ早く之ヲ撤兵  
スルト云フコトヲ屢、聲明ヲ致シタ、即チ其時ガ來マシタカラ  
撤兵ヲ斷行シタノデアリマス、何カ其撤兵ノ事ニ就テ、外務  
省ト參謀本部ト意見ヲ異ニシタカノ如キ御尋モアリマシタガ、

省ト參謀本部ト意見ヲ異ニシタカノ如キ御尋モアリマシタガ、  
サウ云フコトハナイ、何時モ總テ兵事ニ關スル事ハ、參謀本  
部若クハ陸軍省ガ主トシテ之ヲ定メル、何時モ互ニ協議ヲ

シ、何等其間ニ打格モ何モナイ、ソレカラ其次ニ大連會議ノ  
事ニ就テ質問ガアリマシタガ、大連會議ノ失敗ハ、結局其  
御相手方ヲ見誤ラタカラ失敗ニ歸シタト言ハレタガ、「先  
見ノ明ナシデハナイカ」默レ「何ダ動物」ト呼フ者アリ議場  
騷然）

○議長（與繁三郎君） 注意シマス：中野君ニ注意シマ  
ス  
○國務大臣（伯爵内田康哉君）（續） 是レハ當時ノ事情  
ヲ御承知ナイカラ、斯ル御質問ニナタト思ヒマス、「動物」  
「默レ」ト呼フ者アリ議場騷然）

○國務大臣（伯爵内田康哉君）（續） 是ハ當時ノ事情ヲ  
御承知ナイカラ御質問ニナタト、思ヒマスガ、御承知ノ  
如ク此齊多政府ナルモノハ、日本ノ立場ヲ顧慮シテ寧ろ出  
來タル緩衝國デアアル、當時大連會議ヲ開キマシタ時ニハ：  
（議場騷然）

○議長（與繁三郎君） 靜肅ニ——中野寅吉君ニ著席ヲ  
命ジマス——靜肅ニ：  
○國務大臣（伯爵内田康哉君）（續） 大連會議ヲ開キマ  
シタ當時ハ、極東共和國ナルモノハ免モ角モ獨立國トシテ  
日本モ之ヲ認メ、勞農露國政府モ之ヲ認メテ居ラタ、勞農露國政府ト  
極東共和國ノ内輪ノ關係ハ免モ角モ、對外的ニハ獨立政  
權トシテ各國ニ於テモ之ヲ認メテ居ラタ、其獨立政權ト極  
東共和國ニ關スル商議ヲ爲ス時ニ方テ、此共和國ヲ飛越  
シテ、之ヲ無視シテ、勞農露國政府ニ交渉ヲ乞フト云フ譯  
ニハ行カナイ、若シ萬一交渉ヲ始メテ向フヨリ拒絕サレタ  
時ハ洵ニ面目ナイ次第デアアル、齊多政府ニ於テ日本ト通商  
關係ヲ結ビタイト云フ希望ニ應ジテヤタノデアアル、無論初  
メヨリ非常ナ私ハ確信ハ持テ居ラナカッタ、併シ先方ノ希  
望デアアルカラ之ニ應ジタノデアアル、決シテ本末輕重ヲ顛倒シ  
タノデハナイ、是ガ何モ會議ノ決裂ノ原因ト云フ譯デモ  
何デモナイ、又此問題ニ關聯シテ撤兵ノ期限ヲ明ニシタラ  
宜カッタラウト云フ御考デアリマスガ、此撤兵ハ所謂出兵ト  
同ジク自主的ニヤルト云フコトハ、是ハ後ウ我ガ國策ノ決  
マツ事デアアル、成程大連會議ノ破裂シタ後ニ於テ、此撤兵  
期日ヲ聲明ハ致シマシタケレドモ、大連會議ノ際ニ於テハ、  
未ダ政府ニ於テ撤兵スベキ時期ヲ明定スルコトハ爲シ得ナ  
カッタ、若シ其時ニ於テ西伯利ノ政情ガ安定シタモノト認メタ  
ナラバ、會議中ニモヤツカカモ知レセヌケレドモ、サウ認メナ  
イカラヤラナカッタ、先方ノ方デハ之ヲ以テ談判破裂ノ原因  
トシテ居ルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ無理ナ話デアアル、此  
事ハ明ニ先方ニモ言フコトデアリマス、先方ニ對シテハ若シ  
通商條約ガ出來ルナラバ、三箇月モ經テハ恐ラク撤兵スル

時期ニナルデアラウト云フコトハ通ジタニモ拘ラズ、先方ハ  
之ヲ寧ろ言草トシテ談判ヲ切上ゲタノデアリマス、ソレカラ  
其次ニ長春會議ノ經過ニ付テ御質問ガアリマシタガ、昨年  
九月四日ヨリ此會議ヲ開カレテ、是ニハ「ヨフエ」「ヤン  
ン」等ガ遺入ラテ來タガ、結局極東問題ト全露ノ問題ト一  
緒ニシタイト云フ事デアッタガ、是ハドウ云フコトデアアルカト  
云フ御質問ノヤウデアアル、成程勞農露國政府ノ代表者「ヨ  
ソフエ」氏ガ此ノ會議ニ參加ヲ希望シ、之ヲ日本ハ承認シタ  
ノデアアル、併シ此會議ハ大連會議ノ定メタモノヲ基礎トシテ  
ヤルト云フ、初メカラノ雙方ノ契約デアアル、又極東共和國ニ  
關スル基本協約ヲ結シタ上ニハ、全露問題ニ對シテモ商議  
ヲスルコトヲ辭サナイ、尙ホ進シテ尼港問題ニ付テモ商議ヲ  
スルコトモ辭セナイト云フコトヲ言フタノデアアル、是ハ交渉ノ  
經過當然然ルベキ事デアアル、然ルニ尼港問題ヲ商議セヌガ  
爲メニ談判ヲ繼續スルコトガ出來ヌト先方ハ言フタノデアリ  
マス、是ハ洵ニ無理ナ話、未ダ露國勞農露國政府ヲ承認スル域ニ  
達シテ居ナイ、日本ハ免モ角モ承認シ得ベキ——少クトモ事  
實上ノ政權トシテ承認シ得ベキ政府ト認メタ時ニ、初メテ  
商議ヲスル覺悟デアアル、或ハ今日ニ於テハ既ニ全露統一シ  
タ曉デアリマスカラ、先方ノ誠意如何ニ依テハ、此問題ヲ  
商議スルコトヲ敢テ辭セヌ積リデアアル、全露問題ヲ議スルト  
共ニ、之ヲ承認スル機運ガ來ルトモ私ハ思ウテ居ル、ソレウ  
ラ極東西伯利方面ニ於ケル我ガ邦人ガ獲ク權利ノ事ニ付  
テ御質問ガアリマシタガ、是ハ抑、斯ノ如キ政情ノ安定シナ  
イ、一ツノ政權ト取結ンダ權利其他ノ利益ガ、之ニ反對ナ  
ル政權ガ來タ時ニドウナルカト云フコトハ、眞ニ法律上ノ難  
問題デアアル、其點ハ浦驢方面其他ニ出テ、是等ノ利權ヲ求  
メル實業家ニ對シテハ明ニ示シテアル、即チ彼等ノ危險ニ  
於テ之ヲ爲スヨリ外ハナイ、即チ各自「リスク」デアアルケレ  
ドモ、一タビ結ンダ緣故ト云フモノハ非常ナ強キ理由ニナル  
デアラウト、ソレハ後ノ政權ガ出テ來テ居テモ、ソレニ依テ出  
來得ル限りハ其權利ヲ主張スルガ宜シ、又政府ニ於テモ  
出來得ル限り便宜ヲ與ヘルト云フ諒解ハアリマス、是ハ斯  
ノ如ク政情ノ變更スル場合ニ於テハ已ムヲ得ナイ事ト思フ、  
ソレカラ尙ホ極東ニハ特別ノ事情ガアルカラ——日本ト極  
東トノ事情ハ特別デアアルカラ、是等ノ事ヲ明ニ言フテ英米其  
他ノ國ニ提唱シテ、何故ニ極東ニ於ケル日本ノ地位ヲ確  
保スルノ途ヲ講ゼナカッタカト云フヤウナ御質問デアッタ、是  
ハ御注文通りニ致シタ、ゼノアニ於テモ極東ノ問題ハ是ハ  
別デアアル關係國ニ於テモ之ヲ承認シテ居ル、若シ極東ノ事  
マデゼノア其他ニ於テ規定セラレルモノヲ認ムセラレルヤ  
ウニナテハ、甚ダ我ガ立場ニ害ヲ及ボス話、此點ニ付テハ明

命ジマス——靜肅ニ：  
○議長（與繁三郎君） 靜肅ニ——中野寅吉君ニ著席ヲ  
命ジマス——靜肅ニ：  
○國務大臣（伯爵内田康哉君）（續） 大連會議ヲ開キマ  
シタ當時ハ、極東共和國ナルモノハ免モ角モ獨立國トシテ  
日本モ之ヲ認メ、勞農露國政府モ之ヲ認メテ居ラタ、勞農露國政府ト  
極東共和國ノ内輪ノ關係ハ免モ角モ、對外的ニハ獨立政  
權トシテ各國ニ於テモ之ヲ認メテ居ラタ、其獨立政權ト極  
東共和國ニ關スル商議ヲ爲ス時ニ方テ、此共和國ヲ飛越  
シテ、之ヲ無視シテ、勞農露國政府ニ交渉ヲ乞フト云フ譯  
ニハ行カナイ、若シ萬一交渉ヲ始メテ向フヨリ拒絕サレタ  
時ハ洵ニ面目ナイ次第デアアル、齊多政府ニ於テ日本ト通商  
關係ヲ結ビタイト云フ希望ニ應ジテヤタノデアアル、無論初  
メヨリ非常ナ私ハ確信ハ持テ居ラナカッタ、併シ先方ノ希  
望デアアルカラ之ニ應ジタノデアアル、決シテ本末輕重ヲ顛倒シ  
タノデハナイ、是ガ何モ會議ノ決裂ノ原因ト云フ譯デモ  
何デモナイ、又此問題ニ關聯シテ撤兵ノ期限ヲ明ニシタラ  
宜カッタラウト云フ御考デアリマスガ、此撤兵ハ所謂出兵ト  
同ジク自主的ニヤルト云フコトハ、是ハ後ウ我ガ國策ノ決  
マツ事デアアル、成程大連會議ノ破裂シタ後ニ於テ、此撤兵  
期日ヲ聲明ハ致シマシタケレドモ、大連會議ノ際ニ於テハ、  
未ダ政府ニ於テ撤兵スベキ時期ヲ明定スルコトハ爲シ得ナ  
カッタ、若シ其時ニ於テ西伯利ノ政情ガ安定シタモノト認メタ  
ナラバ、會議中ニモヤツカカモ知レセヌケレドモ、サウ認メナ  
イカラヤラナカッタ、先方ノ方デハ之ヲ以テ談判破裂ノ原因  
トシテ居ルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ無理ナ話デアアル、此  
事ハ明ニ先方ニモ言フコトデアリマス、先方ニ對シテハ若シ  
通商條約ガ出來ルナラバ、三箇月モ經テハ恐ラク撤兵スル

命ジマス——靜肅ニ：  
○議長（與繁三郎君） 靜肅ニ——中野寅吉君ニ著席ヲ  
命ジマス——靜肅ニ：  
○國務大臣（伯爵内田康哉君）（續） 大連會議ヲ開キマ  
シタ當時ハ、極東共和國ナルモノハ免モ角モ獨立國トシテ  
日本モ之ヲ認メ、勞農露國政府モ之ヲ認メテ居ラタ、勞農露國政府ト  
極東共和國ノ内輪ノ關係ハ免モ角モ、對外的ニハ獨立政  
權トシテ各國ニ於テモ之ヲ認メテ居ラタ、其獨立政權ト極  
東共和國ニ關スル商議ヲ爲ス時ニ方テ、此共和國ヲ飛越  
シテ、之ヲ無視シテ、勞農露國政府ニ交渉ヲ乞フト云フ譯  
ニハ行カナイ、若シ萬一交渉ヲ始メテ向フヨリ拒絕サレタ  
時ハ洵ニ面目ナイ次第デアアル、齊多政府ニ於テ日本ト通商  
關係ヲ結ビタイト云フ希望ニ應ジテヤタノデアアル、無論初  
メヨリ非常ナ私ハ確信ハ持テ居ラナカッタ、併シ先方ノ希  
望デアアルカラ之ニ應ジタノデアアル、決シテ本末輕重ヲ顛倒シ  
タノデハナイ、是ガ何モ會議ノ決裂ノ原因ト云フ譯デモ  
何デモナイ、又此問題ニ關聯シテ撤兵ノ期限ヲ明ニシタラ  
宜カッタラウト云フ御考デアリマスガ、此撤兵ハ所謂出兵ト  
同ジク自主的ニヤルト云フコトハ、是ハ後ウ我ガ國策ノ決  
マツ事デアアル、成程大連會議ノ破裂シタ後ニ於テ、此撤兵  
期日ヲ聲明ハ致シマシタケレドモ、大連會議ノ際ニ於テハ、  
未ダ政府ニ於テ撤兵スベキ時期ヲ明定スルコトハ爲シ得ナ  
カッタ、若シ其時ニ於テ西伯利ノ政情ガ安定シタモノト認メタ  
ナラバ、會議中ニモヤツカカモ知レセヌケレドモ、サウ認メナ  
イカラヤラナカッタ、先方ノ方デハ之ヲ以テ談判破裂ノ原因  
トシテ居ルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ無理ナ話デアアル、此  
事ハ明ニ先方ニモ言フコトデアリマス、先方ニ對シテハ若シ  
通商條約ガ出來ルナラバ、三箇月モ經テハ恐ラク撤兵スル

ナル諒解ヲ求メテ居リマス、尙又「ゼノア」ノ會議ニ關シテ、單ニ他國ニ追隨盲從セズ、大ニ世界平和ノ爲ニ盡力セナカトノアルカト言フヤウナ御質問ノヤウニ思ヒマスガ、是モ或ル程度ニ於テハ致シテ居ル、併シ物ニハ程度ガアル、日本ガ今歐羅巴ニ最モ關係アル問題ニ對シテ、例ハ御質問中ニモアリマシカ「ルール」事件ノ如キモノニ對シテ、漫ニ日本ガ重要ナル仲介ノ勞ヲ執ルト云フコトハ、是ハ餘程私ハ考物デアラウト思フ、殆ド佛蘭西ノ死活問題、獨逸ノ死活問題ニ關スル此大問題ニ對シテ、唯、單ニ日本ガ何カノ働ヲセンガ爲ニ之ニ干與スルト云フコトハ、大ニ考ヘナクチヤナラズ、干與シテ效ヲ收メルベキモノデアレバ、無論之ヲ辭シマセスケレドモ、此微妙ナル問題ニ付テ唯、世話焼のニ仲間入ヲシテ、色々ナ事ヲスルト云フコトハ、私ハ大ニ考物デアラウト思フ、殊ニ賠償委員會ニ於テハ、日本ノ委員ハ關係アル時々ニ出席スル、總テ賠償問題ニ關係會ニ出席スルト云フコトニハナクテ居ラナイ、是ハ利害ノ關係ガ自ラ輕重ガアルデアリマスカラ、「ヴェルサイユ」會議ノ時カラサウ極テ居ル、ソレカラ對支政策ニ付キマシテ御質問ガアリマシカガ、是ハ最初ニ申シマス通りニ、終始讓歩ヲ以テ終テ居ルト云フヤウナ御意見デアルガ、是ハ先刻申シマシカ通り、私ハサウ思ハナイ、無論讓歩所モアリマス、併シ是ハ免モ角モ、日本ノ大正四年以來ノ日支ノ間ニ於ケル海ニ面白カラザル關係ヲ匡救センガ爲ニ、少シ讓歩タモノガアレバ拂フタ犠牲デアルケレドモ、其結果トシテハ今日日支ノ關係ハ餘程面目ヲ改メテ、又改メツ、アルト私ハ思フ、本日貴族院ニ於テモ江木君ヨリ御質問ガアリテ、私ハ御答辯ヲシテ置イタ、其大體ノ趣旨ヲ此處ニ繰返シ申シマス、私ハ支那ニ對シテハ深キ緣故ヲ持テ居ル、兩度モ支那ニ使ヲシテ居ル、日本ノ將來ハ支那ニ懸テアリト私ハ言フテモ過言デナイト思フ、此領土ノ小ナル國ヲ以テ、割合ニ非常ナ多クノ人口ヲ持テ居ル國ガ、今後生存シテ行クニハ、支那ノ物資ニ依ラザルヲ得ナイ、ドウシテモ支那ト相提携シナケレバナラズ、然ルニ支那ト反感、相反目シテ居ラナラバ、如何ナル條約ガアリ、如何ナル取極メガアツカラト云フテモ、何等ノ效ヲ爲サナイ、思切テ諒ルベキハ讓歩ヲ方宜イ、サウシテ其關係ヲ一新スルガ、最モ國ノ爲デアルト私ハ確信シテヤタ、幸ニ山東問題モ解決ヲ告ゲテ今日ノ狀態ニナツコトハ、私ハ私ノ職責トシテハ爲スベキヲ爲シコト、思フ（「ヒヤ」）ソレカラ何カ保管事件ノ例トシテ、率直戰爭ノ時分何故ニ干渉シナカッタカ、是ハ甚ダ驚入タル御觀察ト思フ、若シ其際ニ日本ガ何等カノ干渉ヲ爲シタナラバ、今日ハ如何ナル事態ヲ來シテ居ルコトデスカ、中ニ英米ノ使臣ガ人道上若ハ

其利益ヨリシテ何カ致シタコトガアリマスガ、私ハ此行動ハ甚ダ感心シナイ、我が日本ガソコヘ色々ノ世話焼ヲ爲シタナラバ、甚ダ面白カラザル結果ヲ來シタカモ知レヌト思フ、併シ是ハ一個人ノ行動デアアル、此際日本ガ是迄ノ各國トノ取極メ、協調諒解ニ背イテ何カ一種ノ干渉ヲシヤウヂヤナイカト云フヤウナ提唱ヲシタナラバ、初メヨリ是ハ斥ケラレルコトハ分リ切テ居ル、又干渉ヲスル以上ハ、之ニ伴フ所ノ重大ナル責任ヲ感ゼザルヲ得ナイ、私ハ此際何等干渉的態度ニ出デズ、矢張嚴正中立ノ位置ニ出デタコトハ、海ニ彼ノ時局ニ適應シテ政策デアツト思フ（拍手）ソレカラ財政共同管理ニ歩武ヲ進メツ、アリハシナイカ、其歩武ヲ進メル機會トシテ、來ル三月ニ關稅會議ガ開カレルト云フヤウナ御質問デアリマシカガ、是ハ條約ヲ少シ御覽下サルト思達ガアラウト思ヒマス、是ハ關稅ニ關スル條約中ニ規定シテアリマスガ、其條約ガ實行サレテカラ三箇月後ニ會議ヲ開クト云フコトデアリマスカラ、今日ハ此條約ハ未ダ實行サレナイ、何時實行サレルカ分ラナイ、來年ニナルカ再來年ニナルカ分ラナイ、故ニ此時ノ特別會議ト云フモノハ、五箇月ノ後ニ來ルカ一箇年ノ後ニ來ルカハ分リマセズ、併シ此會議ノ重要ナルコトハ、私ハ望月君ト意見ヲ一一致シマス、是ハ誠ニ外債整理ノ時ニ最モ重大ナル機會デアラウト思フ、支那ノ財政ノ共同管理スルガ如キコトハ、隣邦トシテ何處迄モ避ケナクチヤナラヌモノデアリマス、併シ支那ガ外國ニ負フ所ノ外債ハドウシテモ是ハ整理セザルヲ得ナイ、殊ニ日本ノ如キハ巨額ノ整理スベキ外債ヲ持テ居ル、是ハ斯ウ云フ機會ヲ逸セズ、各國ト共ニ外債ノ整理ヲスベキモノデアル、其議モ既ニ現今ニ於テモ行ハレツ、アリマシテ、ソレニ我が政府ニ於テモ何等異存ガナイ、ケレドモ望月君ノ考ヘラル、ガ如ク、此三月ニ來ルヤウニ、サウ速ニ來ヤウハナイト思フ、ソレカラ最後ニ滿洲ノ附屬地鐵道——南滿鐵道ノ附屬地ニ於ケル郵便局ノコトニ付テ御質問ガアリマシカガ、是モ今朝貴族院デ同ク質問ガアツテ、詳細ニ御答ヲ致シテ置キマシタカラ、極ク概略ニ讓リタイト思ヒマス、其質問ニ最モ關係アル協定ナルモノガ未ダ公布サレテ居ラセヌ或ハ誤解ガ生ジテ居ルカモ知レマセヌガ、此協定ハ一應支那ト打合フ要スル協定デアリマシテ、先日來其手續ヲ執テ既ニ手續ガ済ミマシタ、今日アツリ發表ヲ致ス積リデアリマス、ソレ故ニ此席ニ於テ之ヲ申上ゲテモ、少シモ差支アリマセヌカラ茲ニ其協定ノ全文ヲ朗讀致シマス、本日附ノ新郵便約定ニ署名セントスルニ當リ兩國ノ首席代表者間ニ於テハ兩國政府間ノ交渉ノ題目ト爲スコトアリ得ヘキ南滿洲鐵道附屬地帯内日本郵便局ノ問題ニ關スル意見ノ相違ニ鑑ミ、南滿洲鐵道附屬地帯内日支兩

國郵便局門ノ關係及是等郵便局ノ業務ニ付テハ暫定的ニ原則トシテ現狀ヲ維持スルコト並ニ南滿洲鐵道附屬地帯内ニ於ケル日支兩國郵便局間ノ關係ハ千九百十年ノ郵便約定ニ規定セラレタルト同一條件ニ依リ支配セラルヘクノ力適用ニ關スル細目ハ中央政廳ノ同意ヲ經テ關係地方郵便官憲ヲシテ取極メシムルコトニ一致セリ、千九百二十二年十二月八日北京ニ於テ小幡西吉、劉符誠、斯ウ云フ協定ニナツテ居リマス、一應此協定ヲ結ブニ至リマシタ來歴ヲ御話シ致シタイ、華盛頓會議ニ於テ此九箇國條約即チ支那ニ關スル諸條項ヲ議定スル爲ニ、當時會合シタル九箇國ガ——支那モ無論其中ニ入ラテ居ル——定メテ條約ガアリマス、此條約ハ免モ角モ支那ヲシテ自ラ開發シ、支那ニ對シテ便利ヲ各國ヨリ與ヘテ、支那ヲシテ富強ノ國ニナラシメル、又現在支那ノ若イ人、外國ニ居テ育テ歸ル——所謂新支那、此新支那ノ活動ニ對シテ出來得ル限リ援助ヲ與ヘタイト云フ氣ハ、各國ノヲ持テ居ラタノデ、ソレデ是マデ支那ニ於テ各國ガ得タ所ノ權利ニ致シマシテモ、之ヲ拋棄スベキモノハ拋棄セヨ、況ヤ條約上ノ權利無キモノ、如キハ、成ベク之ヲ早ク廢メテシマハウト云フヤウナコトカラシテ九國條約モ出來、支那ニ於ケル郵便局モ其一ツトシテ決議ヲ以テ定メタノデアリマス、望月君ハ條約ヲ定メタヤウニ言ハレマシカケレドモ、是ハ決議デアアル、其決議ト九國條約ノ關係ニ付テハ、法律上モ解釋ガアルノデス、或ハ九國條約ノ附帶條約デアルト云フ議モアル、然ラバ九國條約ガ出來ナイ時ニ、決議バカリドウシテ效力ヲ生ズルコト云フヤウナ質問モアリマスケレドモ、免モ角モ只今申シヤウナ趣旨ヨリ決議ヲ致シテ決議デアリマスカラ、實行サレ得ベキモノハ一日モ早ク實行シタイ、是ガ各國ノ意思デアアル、日本モ無論ノ變質成ヲシテ居ル、ソレ故ニ決議ノ一タル戰時法規ノ變更改正ノ如キハ現ニ海牙ニ於テ日英米佛伊五箇國、及開催地タル所ノ和蘭ヨリ各委員ヲ出シテ現ニ會議ヲ開イテ居ル昨年十一月ヨリ開イテ居ル、我國ヨリハ松井大使ヲ特派シテ之ニ參加セシメテアル、是モ決議ノ一ツデアアルソコデ此郵便條約、支那ニ於ケル外國ノ郵便局、尤モ支那ニ於ケル外國ノ郵便局ト申シマシテモ四箇國ニ限ラテ居ル、日本ト英吉利ト亞米利加ト佛蘭西、是ダケデアアル、是等ハ條約上ニ依テテ寧ろ得タト云フコトハ言ヒ難イノデアアル、色々ノ支那ノ事變ニ際シテ、便宜ノ爲ニ各地ニ此四國ガ自己ノ郵便局ヲ置イタノデアアル、支那カラハ無論是等ノ撤退ヲ望シテ居ル、此希望ニ應ジテ撤退シヤウヂヤナイカ、出來レバ一月一日、即チ本年一月一日ヨリ撤退シヤウト云フコトヲ申合シタノガ即チ決議デ

アル其趣旨ニ依テ之ヲ撤退スルニ付キマシテハ、日本ハ支那ニ對シテ最モ複雑ナル關係ヲ持テ居ル、郵便局ノ數ニ於テモ他國ノ到底及ブ所デヤナイ、故ニ英米佛ノ如キハ特別ノ協定ヲ必シモ要セナイ、萬國郵便條約ノ規定ニ依テ行テモ差支ナイノデアル、日本ノ立場トシテハ、ドウシテモ之ヲ萬國郵便條約ノニ讓ル譯ニ行カナイ、ソレデ日支ノ間ニドウシテモ約定ヲ必要トシテ、遂ニ四ツノ約定ヲ締結シタノデアリマス、然ルニ之ニ關係ガアルノハ、即チ南滿洲鐵道附屬地内ニ於ケル日本郵便局デアル、是ハ華盛頓會議ニ於テモ支那ハ強硬ニ反對シタ、是ハ他ノ郵便局ト同様ニ撤退スベキモノデアル、即チ南滿洲鐵道地内ニ於ケル郵便局ト云フモノハ、支那ガ條約上ニ與ヘタルモノデハナイ、租借地ニ於ケル郵便局トハ性質ヲ異ニスル關東州ニ於ケル、郵便局ハ何等ノ問題モナクシテハ決定シテ居ル、鐵道附屬地ニ於ケル郵便局ハ、露西亞ニ對シテモ同様ニ交渉ヲシテ居、是ガサウ云フ論據ニ依テ強硬ニ反對シ又日本モ強硬ニ之ニ反對シタ、結局華盛頓ニ於テハ此問題ハ解決ヲ告グズシテ持越シテ來タノデ併シ決議ニハ何等カノ始末ヲ付ケナクテハナラヌカラ、結局租借地ガハ特ニ條約ニ依テ決定メラレタルモノヲ除クト云フノ決議ガ出來テ居ルノデス、此特ニ條約ニ依テ決定メラレタル郵便局ト云フモノガ日本ト支那トノ正ニ見解ガ反對シテ居ル、果シテ北京此交渉ヲ始メルニ當テ、又是ガ雙方ノ論點トナテ、此爲ニ屢、會議ガ停頓シタノデアリマス、是ニ關係シテ何時迄モヤテ居テハ、到底支那ニ於ケル日本ノ郵便局撤退ト云フモノハ行ハレナイ、他國ハ撤退シテモ日本ハ撤退シナイ、ト云フコトニナテハ、甚ダ面白カラザル關係ヲ生ジマス、ドウシテモ此協定ヲシタイ、支那ニ於テモ同様ナ感ヲ懷イテ、結局此協定ニ依テ附屬地ニ於ケル郵便局問題ヲ引離スト云フコトカラ此協定ガ出來タノミナラズ、千九百十年ノ郵便協定ハ、今般ノ協定ニ依テ廢止サレルコトニナリマシタカラ、實際上下致シマシテモ何等カ協定ヲ必要トスルコトニナテ、即チ鐵道附屬地内ニハ日本ノ郵便局モアレバ支那ノ郵便局モアリ、又附屬地外ニハ支那ノ郵便局ガアテ、是等ノ間ノ聯絡ヲドウシテモ取ラナケバナラズ、然ルニ日支ノ郵便規定シタ所ノ千九百十年ノ約定ガ廢止サレルト、何等ノ協定モ無イコトニナリマス、是ハ地方的ニ定メル、ソレ迄ハ暫行的ニ原則トシテ現狀ヲ維持スルコト云フノガ、矢張此協定ヲ結ブニ至、タ理由ノ一ツデアアル、ソレデ斯ル關係ヨリシテ此協定ガ出來タノデアリマシテ、外務省側トシテハ寧ロ時宜ニ適シタル名案ト思フテ居ル、唯、世間デハ此條約ニ依テ日本ガ滿洲ニ於ケル既得ノ權利ヲ讓歩シタデナイカト虞レル

人ガアルガ、是ハ非常ニ間違ッタ考デ其條約ニ依テ何等ノ讓ル所ハナイ、成程他日交渉ノ題目トナス事アルベキトアリマス、支那側カラ問題ニスルコトモアリマス、知レマセヌガ、其時ハ日本ノ主張ヲ繰返スニ止マル、寧ロ此郵便ノ問題ヲ圓滿ニ解決センガ爲ニ、色々ノ苦心ヲシテ雙方デ定メタモノデアテ、決シテ此中ニ附屬地内ニ於ケル郵便局ヲ、日本ガ讓ラウトカ何ト云フヤウナ事ガ含マテ居ルノデアリ、又今後ニ於テモサウ云フ意思ハ持タナイノデス、尙ホ此問題ニ附帶シテ何カ日本ガ憲法上——政府ガ憲法ニ違反シタヤウナ行動ヲ執、クツ云フ御質問モアリマシタガ、是ハ恐クハ調印前ニ樞密院ノ諮詢ニ供セナクツト云フコトヲ言ハレルコトデアリマセウガ、是亦誤解ノ甚シキモノデアリマス、政府ハ此協約ハ——私ハ四ツノ協約ノ事ヲ申ス、四ツノ協約ハ御裁可ヲ經ベキモノト思ヒ、之ヲ樞密院ノ議ニ付シタノデアリマス、殊ニ此四ツノ條約ハ未ダ實行セラレテ居ナイノデアリマス、其期日ヲ確定スルマデニ此批准ヲ仰イダノデアテ、即チ御裁可ヲ得ンガ爲ニ批准ヲ仰イダノデアテ、決シテ憲法上ノ問題ガ出ツベキモノデナイ、結局昨年未ニ於テ御裁可ヲ得、一月一日ヨリ公布ヲシタノデアリマス、ソレデ外務省ニ於テハ此總テノ對外交渉ニ係リマス協約等ハ、多ク調印ニ其批准ヲ仰ベキモノハ仰ギ、又即時ニ效力ヲ生ズベキモノハ即時ニ之ヲ發布スルコト云フ手續ヲ執、テ居リマシテ、調印前ニ其草案ナリ、若ハ對手國ト協定シタ案文ヲ具ヘテ批准ヲ仰グト云フコトハナイ、今般ハ殊ニ支那ノ政情ニ顧ミテ、一日モ早ク調印ヲ要スル事情ガアリマシタカラシテ、十二月九日、日附ハ八日ニナテ居リマス、九日ニ調印ヲ了シタ次第デアリマス、何等憲法上ノ問題ヲ惹起スベキモノトハ思ヒマセヌ(拍手)

○議長(與繁三郎君) 前田逋信大臣

○國務大臣子爵前田利定君登壇

○國務大臣(子爵前田利定君) 望月君ノ御質問ニ對シマシテ御答ヲ致シマス、仰セノ通り本年一月一日ヨリ我が在支ノ郵便局ハ撤廢ヲ致シマシテ、支那ノ郵便政廳ニ事務ヲ引繼イダノデアリマス、何分ニモ差替リノ時節ガ年頭デアリマシタノト、事務ニ慣レナクツト云フ點カラ致シマシテ、或ハ郵便ノ運行上ニ於キマシテ、事務ノ滑カデナクツタ點ガアツカモ知レマセヌ、併ナガラ私ノ手許ニハ、御述ニナリマシタヤウナ夥シキ郵便物ガ、或ハ遲著ヲ致シタリ、或ハ内地ニ逆送サレタト云フ事實ニ付テノ報道ニハ接シテ居ラヌノデアリマス、尙ホ念ノ爲ニ部内ノ者ニ確メマシタ所ガ、矢張何等ノ左様ナ報道ニハ接シテ居ラヌト云フコトデアリマス、併シソレハ倍措キマシテ、我が郵便局ガ支那ノ郵政廳ニ事務

ノ引繼ヲ致シマスノ際シテ、引繼後ニ御述ベニナリマシタヤウナ、サウ云フヤウナ不始末ノ起ルヤウナコトガアテハ甚ダ遺憾デアルト考ヘマシタノデ、大勢ノ局員ヲ殘務整理委員ト云フ名ノ下ニ、各局ニ遣留サセテアルノデアリマス、北京、天津、上海ノ如キ大局ニ於キマシテハ、一箇月殘留ヲサセルト云フコトニ致シテアリマス、其他ノ小局ニ於キマシテハ十五日間殘シテアルノデアリマス、而シテ支那ノ局員ヲ及ブダケ援助シテ、滑カニ郵便物ノ運行ガ出來ヌヤウニ、十分注意ヲ致サセテ置イタノデアリマス、然ルニ果シテ望月君ノ言ハル、ヤウナ郵便物ノ故障ガアツタ致シマスレバ、洵ニ遺憾ノ事ニ考ヘマス、ケレドモ、當局ト致シマシテハ撤廢後ニ於テノ事故ノ起ラヌヤウニ、豫メ手配ヲ致シマシタト云フコトハ御了承ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

○望月小太郎君 山梨陸相ハ御病氣トノコト次ニ大木鐵相モ御留守デスカ(居マス)ト呼フ者アリ(質問案件ニ付テ一寸一言、西伯利問題ノ責任ニ對シテ加藤、内田、大木、山梨、當然連帶責任者デアルベキ苦ト思フ、其大木鐵相ノ答辯ヲ求メタ上デ——居ラレナケレバ宜シイ(居リマス)ト呼フ者アリ)見エナイ——御答辯ガ無クバソレデ宜シウゴザイマス(居リマセヌ)ト呼フ者アリ)然ラバ是ヨリ總理大臣、外務大臣ノ御答辯ニ付テ、極メテ簡單ニ申述ベテ見タイト思ヒマス

〔其席デ宜シイ〕登壇〔登壇〕ト呼フ者アリ

〔望月小太郎君登壇〕

○望月小太郎君 極メテ簡單ニ總理大臣ノ答辯ニ付テ不滿意述ベ、尙ホ外務大臣ノ答辯ニ對シテ不服ヲ申述ベマス、總理大臣ハ第一條ノ四國協約ヲ以テ、日英同盟同様ノ精神ノモノデアルトノ趣意、隨テ此米國ノ保留條件ガ何等條約ノ精神ニ悖ルモノデハナイト、斯ウ云フ御趣旨ノヤウニ拜聽致シマシタガ、總理大臣御記憶デアリマセウ、アノ當時此四國協約ヲシテ、太平洋ダケニ於テハ、少クトモ日英同盟同様ニ四箇國ハ權利モ平等デアレバ、隨テ義務モ平等タラザルベカラズ、此趣意カラ英國、(バルフォア)氏ハ四國協約ガ出來ナクツタ時分ニハ、日英同盟ヲ復活シヤウト云フコトノ一條項ヲ入レタノデアアル、アナタヲ初メトシテ他ノ公權ハドウ云フ理由カ知ラヌガ、此英國ノ好意アル所ノ深キ考、此條項ヲ削除シタ、ソコデ漫然米國ノ案ニ從ツタノデアル、此問題ハ時ノ外務大臣能ク御承知デアル答デアル、是ニ於テカ外交調査會ニ於テ大議論トナテ——犬養君此席ニ居ツタナラバ、恐ラク否認ハナサレマス、遂ニ日本政府ヲシテ「バルフォア」氏ニ向テ「一ツノ感謝ノ挨拶ヲ爲サシメタ程ニ、其四國ニ向テハ同一ノ權利アルト共ニ、同一

ノ義務アルト云フコトノ、其英國ノ精神スラモ此保留條件ニ於テハ確ニ破壞セラレト云フコトヲ否認ハ爲サレマスマイ、第二ニ海軍ノ軍備制限ニ著手スルニ際シテ英米ノ了解ヲ得タト云ハレタガ、是カ抑、加藤首相ノ與ノ手デアラ、此調子ニヤラレテ、吾々ハ八々艦隊ト云フモノガ無クツナラハ國家ガ潰レルヤウニ、本員ノ如キハ熱狂的賛成ヲ與ヘタ一人デアリマス、是ガ加藤流ノ答辯ニハ本員洵ニ此場合ニ於テ露骨ニ申ス、即チ事實ヲ舉ゲテ之ヲ言フ初メ加藤首相ガ華盛頓會議ノ全權トシテ出發スル時ニ、首相ヲ推薦シテ今日ノ地位ヲ作ラセタ山本伯ノ評ニ、加藤全權ハ結構デアリ、餘リ妥協性ニ富ムト、本員ハ此山本伯ノ言ハタコトヲ見ルト、妥協性ハ免モ、角モ全讓性、全ク讓テシマフト云フ性質ノ御方ト思ヒマス、是ハ事實ニ於テ申上ケル、華府會議ニ於テ例ノ六割七割ヲ、國家存亡ノ其必要點カラ争ウテ、一箇月而モ内閣外務大臣ノ如キハ此議場ニ於テ、ソレハ全權ノ言ウタコトデナイ、又加藤海軍大臣モ其通りノ事ヲ前年貴族院、衆議院ニ於テ同一ノ意味ヲ言ハレタ、然ルニ本員幸ニ華府會議ヲ觀察シテ居ル時ニ、日本全權ノ名ニ依テ提出シタ公文書ヲ突付ケテ、是ハドウダト云フク、ソレナラバドウモ責任ハ回避セスト、斯ウ云フ此答辯、此政治的ノ答辯、其巧妙ナハコト本員洵ニ感服ハ致スガ、是ガ加藤首相ノ與ノ手デアラ、ソコデ序ニ素破抜イテ置カザルヲ得ナイコトハ當時外交調査會ハ何故米國ノ六ト云フニ付テ七ナドト云ウテ無駄ナコトヲ言ウテ争フカ、現ニ七隻アラウガ、八隻アラウガ、其戰艦ニ使フベキ石油スラモ我國ニハ僅ニ二三箇月シカ持テ居ラヌデアリカト云フコト、是モ加藤全權ハ御存ジアリマスマイガ、内田君ノ如キハ至極御尤ダト云フ、是コソ妥協性ノ外務大臣、直ニ六割說ニ賛成シタ、ト云フ掛引ノ事實其他本土包含論ナルモノハ日本全土マデモ包含シテ他國ノ思召ヲ聽クニアラザレバ我防備ハ出來ヌト云フ英米ノ提議ニ調印シタ、流石ノ内田君モソレヲ聽クニ於テ洵ニ驚イタ、直ニソレヲ取消シタコト、更ニ又防備制限區域問題ニ付テ英國ノ贊成タル緯度ノ問題、其中ニ「アリウシヨシ」列島ノ北ノ方ニ、海軍大臣タリシ加藤君ハ御存ジデアラ、**「ダッチハーバー」**ト云フ冬モ凍ラヌ鳥嶼ガアルガ、アノ港ヲ米國ノ自由防備ノ區域内ニ置カウトテ、此條約ニモ一旦調印爲スタ、加藤首相斯クマデニ妥協性ヲ越エテ、公然本員カラ見マスト云フト全讓性、不幸本員ハ海軍問題ニ付テ洵ニ御駐シケレドモ専門的知識ガ無い、ソコデ加藤首相ノ答辯ニ英米ノ諒解ヲ得テ居ルツカ、英米ノ豫算モソレニ依テヤテ居ルト云フ與ノ手デアラナラバ、本日只今天佑ナル哉本員ノ得タ所ノ此英國ノ海

軍ニ對スル與論ヲ申上ケテ置ク、是ハ英國ノ海軍記者トシテ最モ有名ナル「**アーチボルドハド**」氏ノ說デアル、彼曰ク世界ハ再び海軍競争ノ事實ガ、目下英米日ノ間ニ於テ勃興シツ、アル、華府會議ニ於テ決定メタ其戰艦ニ對シテハ是ヲ近世的ノ改良シツ、アルコト、第二ニハ華府會議ニ確定スルコトガ出來ナカク、巡洋艦補助艦、潜水艇、驅逐艦、等ニ付テハ英吉利ハ斯様、亞米利加ハ斯様、日本ハ斯様、佛蘭西ハ斯様、伊太利ハ斯様ニ競争ス、建造シツ、アルト云フ意見、茲ニ參考ニ披露シテ置キマス、而モ此電報ハ一昨日「**ロンドン**」發トナテアル形勢ヲ見ルニ付テモ、本員ハ勿論亞米利加ノ誠意ハ倍ジマス、英吉利ノ誠意モ倍ジマステレドモ、此與ノ手ノ極メテ冷靜ナル加藤君ハ、何カ申サレルコトニ付テハ、斯ウ云フ點ニ付テモ尚ホ加藤君ニ深く敬ヲ受ケタイノデアル、アノ海軍專門家デアアル、此事ヲ何ト見ル乎、次ニ西伯利撤兵問題ニ就テ英米ヨリ何モ要求ハ無カト云フ、是ハ實ニ事實ヲ能ク調査爲サザル所ノ答辯ト思ヒマス、其事ヲ是正シマス、本員自ラ華府會議ノ總テノ材料カラ著述シタ其原稿ハ此處ニ持テ居ル、此事實ニ依レバ、西伯利問題ニ付テ、我ガ幣原全權ガ撤兵ニ付テノ問題ヲ華府會議ニ於テ聲明サレタ時ニ、米國國務卿「**ヒューズ**」氏ガ矢張此聲明ヲ致シマシタ、而モソレハ一月二十三日、其時ノ聲明書中ニ、暗黙ニ日本ノ西伯利駐兵ニ反對致シテ居ル如キ文字ガ明ニアル、其聲明書ハ米國ガ千九百二十一年五月三十一日日本政府ニ送タ其公文書ヲ朗讀シテ居ラレマス、其公文書ニ依ルト、曰ク米國政府ハ東部西伯利ノ軍略的、中心地ノ繼續的占領、滿洲港ノ無期限占領「**ハバロフスク**」ニ「**ニコリス**」デカストリー「**モゴスピ**」イスク其他重要地點ノ駐兵、露領樺太ノ占領、疑念ト敵愾心トヲ誘發シテ、民政ノ施行ハ是等該地方ノ紛亂ト騷擾トヲ鎮靜スルヨリモ、寧ロ增加スルモノデアルト思惟スルモノデアルト右公文書ヲ此場合ニ「**ヒューズ**」氏ハ讀マレマシタ、更ニ進ンデ、不必要ナル所ハ省略致シマスガ續イテ朗讀シテ曰ク、假令一時的ニセヨ、露國ノ領土ヲ占領シ、或ハ西伯利ノ人民ニ軍政又ハ民政ヲ施サナイト云フ約束ヲ露國ニ與ヘヤウトシタノデアアル、米國政府ハ、日本政府ノ執ツタ行動ハ西伯利ノ出兵ニ對シテ、兩國間ニ締結サレタ極メテ明確ナル諒解モ或ハ其間ニ於テ誤解アラザリシカヲ疑ハシムルモノアリト、確信ス云々最後ニ日本政府ノ執リタル手段ハ現行條約ノ權利或ハ露國ノ領土の保全ニ危害ヲ及ボスヤウナ場合ニハ斷ジテ之ヲ默認スルコトガ出來ヌコトヲ聲明ス、是ハ成程直接米國ガ壓迫ハ致シマスマイガ流石米國デ、此巧妙ナ言葉ヲ日本ノ西伯利駐兵ノ非ナルコトヲ暗黙トコロデ

ハナイ、裏面ニ公々然トシテ指摘シタモノト本員ハ思フノデアリマス、此事ヲ以テ總理ノ御答辯ハ其點ニ於テ事實ガ違フト反駁シマス、其次ニ山東問題ニ對シテ英米監視ノ下ニ開カレタナイカト云フコトヲ申上ケタラ、斷ジテナイト云フ是モ事實相違ノ點ヲ指摘致シマス、米國上院ノ議事録及其當時ノ各新聞ニアルモノハ、控席ニ持テ居リマスマガ、當時本員ハコレヲ翻譯シマシテ歸リマシテ「**華府會議ノ真相**」ト題シテ世上ニ公ニシマシタモノデアリマスマカ、自分ハ全責任ヲ持ツ積リデアリマス、此等ノ材料ハ昨日支兩國ガ十二月一日カラ米國隨員「**ランソン**」氏、及英國隨員「**ジョルダイン**」氏ニ於テ交渉ヲ開イタ、原文ニハモ、ト進ンデ書イテアリマス、即チ此所ニ原文ノ證據ガアル之ニ依ルト其日ニ於テ英國ノ全權「**バルフォア**」氏「**ヒューズ**」氏ハ「**サー**」**ジョン**、**ジョルダン**「**マイルス**」、**ランブソン**「**マクギ**」、**ユレー**「**エドワード**」、**ベル**氏ヲ伴ウテ此日支兩國ノ會ヲ開キ「**バルフォア**」氏「**ヒューズ**」氏ハ以上ノ英米四代表者ヲシテ此會議ニ幫助ノ爲ニ列席セシメ「**兩全權ハ退場セリト書イテ**」云フコトハ、此事實ヲ以テ申上ケタリ、ナラズ、而モ日本ガ駭引ヲ弄シ過ギテ、山東問題ニ付テ獨逸ヨリ得タ所ノ權利ハ日本ガ繼承スルト云ヒ出シ、支那ハ之ニ反對致シ、遂ニ會議ハ中絶シ、十二月二十四日以後ト云フモノハ、英米全權ノ斡旋ニ依テ一月四日再開サレタノデアアル然ルニ、茲ニモ又日本ガ第二ノ讓歩ヲ致シタ即チ山東鐵道合辦ヲ支那ノ年賦支拂ノ即賣案ニ讓歩致シタ、支那ハ又之ニ應ゼズシテ再び又英米ノ仲裁案ヲ致シテ十五箇年ノ期限據置ト云フコトニナリマシタ、當時倫敦「**タイムズ**」評シテ曰ク、山東問題ハ四回重ナルコト二十餘回、而クモ日本ハ出席ノ每會必ズ讓歩スルヲ常トス云々斯様ニ記載シテアル(拍手)是等ノ事實カラ見マシテ、本員ハ只今申上ゲタ所ノ英米監視ノ疑問ヲ懷ク者デアリマス、是ガ加藤總理ノ只今ノ御答辯ニ對シテ、贊成ノ出來ナイ不滿ノ證據ヲ申上ゲタノデアアル、更ニ對支政策ニ付テ一言申上ゲマスマガ、支那ニ向テ援助ヲ致シテ居ルト内田君モ斯ノ如ク言ヒマスマガ、然ラバ御尋申ス、彼ノ義和團賠償費ハ、確カ後藤子爵ガ外務大臣タリシ時、之ヲ以テ支那ノ文化事業ニ使ハウ、又内田現外務大臣モ、本員ノ質問ニ對シテ同様ノ意味ヲ述ベラレタニモ拘ラズ、昨年ハ英佛其他ノ國ノ意見ニ從テ、賠償金ノ支拂ヲ延期スルコトニ反對スル、若シ首相ノ所謂支那ヲ援助スル心ナラバ今日東京ニ於ケル支那二三千ノ學生ハ殆下學資ニ苦ミ、ソレガ爲ニ支那公使ハ日本ニ赴任スルケレ

トモ直ニ逃ゲテ行ク、此目前ノ急務ニ向テ、何故義和團事  
件ヲ以テ之ニ寄附ナサナイノデアルカ、又第二ノ例トシ  
テハ華府會議ノ結果ト致シ、西伯利鐵道線中ノ東支線ノ  
諸條件ノ責任ヲ支那ニ委ネテ、此東支線ニハ言フマデモナク  
哈爾濱カラ只今我ガ滿鐵ノ長春、此長春「ハルビン」間ハ大  
隈内閣ノ時ニ、石井外務大臣ガ既ニ露國カラ其權利ノ讓  
與ヲ約束致シタル此問題、支那ニ對シテ東支鐵道ヲ回收  
セシメ、之ニ日本ガ援助ヲ與ヘルト云フコトハ、政治問題ヲ  
離レテ目前直接ノ經濟問題デアリマセヌカ、然ルニ總理大  
臣アナタ方ハ何ヲシテ居ラレル(拍手)之ヲ以テ總理大臣ニ  
對スル答辯ノ答辯ト致シマス、笑聲起ル總理大臣ノ答辯  
ニ對スル再抗議ト致ス——言葉尻ヲ捉ヘ給フナ——更ニ外  
相ニ向テ、其答辯ニ洵ニ不服且ツ事實ヲ誤テ居ルコトヲ  
指摘セザルヲ得ナイ、外相ハ日本ノ今日ノ境遇ハ列國ニ對  
シテ洵ニ感情ガ好クナテ居ルト言ハレテ居ル、列國ノ提議  
ニ追隨致シテ、我ニ何等自主ノ意見ノ無イ結果、列國ノ感  
情ハ好イカハ知ラス、併ナガラ列國ノ尊敬ハドウデアアル、本  
員之ヲ「ゼロ」ト認メル(拍手)第二ニハ支那ニ向テ讓歩ス  
ルコトヲ望ム君ハ惡イト言ウタト申サレタ、是ハ誤解デアアル、  
讓歩ノ出來ルモノハ宜シイガ、苟モ日本國民ノ生存ノ根本  
問題ニ關シ、既得ノ權利ニ關シテマデ之ヲ讓歩スルト云フ  
トキニハ、隨テ得テ望ムノガ支那人情デアアルゾ、斯ウ  
云フコトデアアル、然ルニアナタノ爲サレ方ハドウカ滿蒙問題、  
山東問題、總テ綠日植木屋ノ遺方デアア、是デドウシテ日  
支ノ國民ノ親善ガ得ラレルカト云フノガ根本ノ質問デアアル  
(拍手)ソレヲ事實ヲ捏造シタル如ク仰シヤルガ、四十二議會  
ノ速記録ニアルアナタノ答辯ノ要點ヲ先刻質問ノ中ニ羅列  
シタルミナラス、此速記録ニ附加シテアル所ハアナタノ讓歩  
シタル所ノ其實質、其結果ヲ見タナラバ、サウ云フ口舌上ノ議  
論ヲ爲サラスシテ、如何ニモ御尤ノ次第ダト言ウタ方ガ男ヲ  
シイデアナイカ(拍手)況ヤ帝國ノ外交方針ヲ本員ノ如クニ  
スレバ、日本ノ國交ハ四面楚歌ノ有様ニ陥ル云々トテ、條約  
當時ニ於テ英國ノ反對ニ會フコトヲ述ベラレタガ、是程時  
代錯誤ノ說ヲ述ベラレル方ハ無イ、(拍手)今日ハ五大國ノ一  
人、三大國ノ一人デアタル日本、ソレガ自己ノ言ハント欲スル  
所ガ言ヘナイトハ何タルコトデアアル、御説ノ如ク舊日本ニ屬  
シテハ世界モ輕ク視テ居ラタ其證據ハ本員今モ記憶ス、日  
清戰爭當時ニ英國現外務大臣「カーゾン」卿スラ日本ガ支  
那ト戰爭シテドウシテ勝テルモノカ、支那弱シト雖モ鯨ノ如  
ク大デアアル、日本敏捷ナリト雖モ蝦ノ如ク小サイノデアアル、  
是迄ニ其當時ノ日本ヲ誤解シタル所ノ其英吉利ノ現外務大  
臣「カーゾン」卿ノ其時代トハ全く違フ、今日ハ世界ニ向テ

日本ハ苟モ公正ト平等ト求ムルナランニハ、千萬人ト雖  
モ吾任カント云フ勇氣ヲ持テ貫キタイト云フコトヲ言ウテ  
置ク(拍手)其公正モ求メズ、平等モ求メズ、唯、他國ノ意  
見ニ追隨シテ往カント云フ斯ウ云フ外相、之ニ向テ世界ノ  
感情ガ日本ニ對シテ融和セラレタト云フニ至ラ、私ハ帝  
國ノ爲ニ内田外務大臣ノ答辯ヲ悲シムモノデアアル(拍手)第  
三ニ於テ勞農露國ヲ相手ニセナク、タニ港問題ニ付テ御答  
辯、ソレハ追テ正式、即チ日本政府ノ正當政府ト認メルモノ  
ガ成立シタル上ニ交渉スルト、斯様ニ御答ニナク、故ニ尼港  
問題ニハ觸レナイト答辯、是ハ自家撞若ノ御議論デアアリ  
マセヌカ、免ニ勞農露國ヲ一方ノ相手ト致シテ長春會議ニ  
臨ンクノデアアル、ソコデ若シ長春會議ニ於テ其勞農露國ト  
日本ト、茲ニ一箇ノ協約ガ締結サレタ場合ニハ、其勞農露  
國ヲ今日事實上ノ政府ト認メテ、此調印ガ出來ルノデ  
ハナイカ、然ルニ其調印サレタ所ノ勞農露國ヲ認メナイ、  
〔與議長議長長席ヲ退キ粕谷副議長代リ著席〕  
他日交渉スベキ他ノ政府ガ出來タラバ之ト交渉スルト云フ  
論理ナラバ假ニ長春會議ガ、調印出來タモノヲバ勢ヒ之ヲ  
反古ニスルト云フ意味ニナル、斯シナ前後矛盾ノ論理ヲ以  
テ帝國ノ外交ヲ處理スルト云フ、洵ニ本員遺憾ニ感ゼザル  
ヲ得ナイ(拍手)其次ハ「ゼノア」會議ニ帝國ハ何ヲ爲シテ  
居ラタカ、又其次ニハ現在賠償問題ニ付テ賠償委員會ノ權  
限ヲ御説キニナテ居ルガ本員ハ條約上權限ヲ離レテ大所  
高處ヨリシテ、日本ノ斡旋スベキ、居中調停スベキ事ガ是レ  
是レアルデアナイカト云フコトヲ指摘シタルデアアル、ソレニ付  
テ何等ノ御答ガ無イデアナイカ、若夫レ日支ノ關係ニ付テ  
本員ノ質問ニ關スル答辯ハ誤解モ甚シイ、本員ハ彼ノ率直  
戰爭ニ對シテ、何故此利害關係ノ深イ日本ガ其戰爭ヲ中  
止スベク忠言シナイカ、所謂居中調停セヌカト言ウタノデア  
ル、其質問ニ對シテ、外務大臣ハソレハ干渉ダト言ハレタ、  
是ハ外務大臣ガ根本ヨリ誤リデアアル、一寸デモ口ヲ利ケバ  
干渉ト御感ジニナルノカ、現ニアナタノ誤ッタ事實ヲ申上ダ  
ル、四十一議會ニ、支那南北ノ和平ヲ勸告シテ見タ所ガ、  
其和平ノ出來ナイ原因ハ支那ニ督軍ガアリ、無駄ノ兵ガア  
ル廢督裁兵ニ向テ積極的勸告ヲシナイ爲メデアナイカト本  
員ガ申シタラ、外務大臣ノ答辯ニハ支那ノ内政上ノ督軍ヲ  
廢シテ兵數ヲ減ズルト云フコトハ、内政干渉デアアルト言ハレ  
タニモ係ハラズ華盛頓會議ニ於テハドウデアアル、他國ノ尻ニ  
附イテ、支那ニ向テ廢督裁兵ノ其決議ニ調印ナサ——デア  
ナイカ(拍手)サウ云フ自己ノ爲シタ事實ヲ胡麻化シテ、吾々  
外交上ノ智識ノ乏シキ國民ニ一時逃レノコトヲ答辯ナサル  
ト云フコトハ、何タル君國ニ不忠實ナ事デアナイカ(拍手)又

最後ノ日支郵便問題暫定條約云々即チ現在ノモノガ暫定  
條約トハ別言スレバ當分ノ間、追テ之ヲ交渉スルト云フ意  
味ニナル併シナガラ只今ノ御答辯ニ依レバ、決シテ支那ニ  
日本ノ郵便權ヲ還サセル意味ニ於テ交付シタルデアナイ、ト  
云フコトデ吾々モ満足シタ、果シテ然ランニハ此滿洲鐵道  
附屬地内ノ日本ノ郵便權ヲ支那ニ回收セシムベク、將來ノ  
交渉問題トシタルト云フコトデナケレバ、然ラバ重テ言フナ  
ゼ此様ナ不必要ナ文書ヲ交付シタルデアアルカ、是ガ實ニ危  
險ナル遺方デアアル、現在アナタガ此通りノ遺リ損ヒヲシタ爲  
ニ、日米問題ニ今日ノ大困難ヲ來シテ居ル同一ノ事實ガア  
ル、豫テ本員此壇上ニ指摘シタ如ク、四十四年二月二十一  
日、現今不備ノ日米條約ハ追テ七月以後通知ニ依テ、其  
改正ノ時期ニ追テ居ル、其詳細ハ他日ニ讓リマスケレドモ、  
彼ノ時ニ米國ヲ相手トシテ日米通商ヲ結ンダ現外務大臣  
タル貴下、米國ノ憲法ニハ無論條約ハ州法ヨリ重シトアル、  
此原則アルニモ拘ラズ、其米國ノ中央政府ト日本國トノ條  
約ヲ交渉スルニ當リテ、其時ノ駐米大使タリシ内田君ハ亞  
米利加ノ國務卿ニ向テ、米國ノ州法以上尊重スベキ其憲  
法上ノ條約ヲ締結スルニ當テ、驚クベキ大過失ハ其州權ノ  
獨立ヲ是認シタ附屬文書ガ今尙ホ米國政府ニ殘テアル、  
ソレ故ニ大正八年以來、日本ハ「カリフォルニア」州其他ニ  
於ケル我同胞ニ對スル州法ノ迫害ヲ受ケ、三回マデモ抗議  
ヲ申込シテ居ルガ、抗議ノ遺リ放シデアアル、支那ノ電報戰  
爭ト同ジデアアル、其抗議ヲ徹底ノ突付ケテ米國ノ確答ヲ  
寄越セト云フコトハ、内田外務大臣就職中ニハ出來ナイノ  
ハ右ノ詭リ證文ガアルカラデアアル(拍手)今又同一ノ事ヲ支  
那ニ繰返シニナタラデアアル、洵ニ怪シカラズ遺方デアアル(拍  
手)私ハ最早外務大臣ノ答辯ニ對シテ是レ以上申上必要  
ハ無イ、實ニ本員議會ニ出入シテ茲ニ二十數年、未ダ曾テ帝  
國ノ外務大臣中、斯ル不誠實ナル一時通レノ説明ヲ、此神  
聖ナル議院即チ國民ノ法廷ニ爲サル者ハ内田君ノ外、他ニ  
其人無イト云フコトヲ申上ダレ(拍手)次ニ大木司法大  
臣——其時ノ司法大臣デアアタ、西伯利撤兵ノ連帶責任者  
ノ一人、政治上カラ見ルト吾々カラ見テ被告ノ人視スル一人、  
免モ角モ總理大臣モ、西伯利撤兵ノ事ニ付テハ政治的責  
任ヲ自覺ナサレテ居ルト云フ本員ガ多年尊敬シテ居ル、大  
木君ノ御記憶タケテ喚起シタイノハ、昨年五月二十三日地  
方長官會議ニ於テ大木司法大臣ノ訓示中、國民思想ヲ攪  
亂セントスル近來ノ傾向ヲ憤リ、其惡思想ガ我建國ノ基礎  
ヲ否認シ、忠孝ノ大義ヲ蔑視スル此惡思想、進ンデハ社會  
ノ制度ヲ破壞セントスルガ如キハ何レモ國憲ノ根柢ニ悖リ、  
人倫ノ大本ニ反ス云々、斯様ナ行動ヲ取締レト云フコトヲ

地方長官會議ニ訓示サレタ其大木君、先刻本員ガ申上ゲル通り、太閣征韓以來、未ダ會テ此様ナ大失敗ヲ致シタコトノ無イ西伯利出兵ノ責任觀念ニ對シテ、今日鐵道大臣タル大木君、此時司法大臣タリシ所ノ其訓令ヲ能ク御覽ナサイマシテ、斯ノ如ク國家官吏ノ其模範タルベキ内閣大臣ガ自己ト政治ノ責任ニ對シテ冷淡ナルトキニハ、斯ノ如キ惡思想ヲドウシテ撲滅シ得ラレルカ、甚深ナル御考慮ニ懇ヘルト云フコトヲ申上ゲ、進ンデ前田遞信大臣ノ只今ノ御答辯ニ付テハ、更ニ昨年八月二十一日遞信局長官會議ノ席上ニ述ベラレタ一言ヲ引用シテ、此日支條約ヲ斯ク迄一日ノ間ニ發表シ、即日厲行スルト云フコトガ、私ガ多年尊敬スル貴族華商社會ニ於テ此人アリト思フ其前田君ノ良心ニ懇ヘル、此遞信局長會議ニ於テ、遞信大臣タル前田君曰ク「公衆ノ輿望ニ副ヒ不便ヲ與ヘズシテ整理ヲ爲ス途ヲ見出スコトニ努メナケレバナラヌ公衆ノ利害ニ影響スル所大ナルモノアルヲ以テ處置ノ公正ヲ誤ルコト無キ様ニ云々、ソコテ先刻ノ支那郵便ノ發表ヲ今少シ急ガヌデ、外務大臣ヲ喰留メタナラバ、各遞信局長ヘノ此訓示ハ、實ニ花も寶も有ルト、斯ウ云フコトニ付テ御考慮ヲ煩ハスト云フ言葉ヲ殘ス、是ガ本員ノ總理以下内田君、及兩君ノ答辯ニ向テ言ハント欲スル所デアリマス（拍手起ル）」

○副議長(粕谷義三君) 内閣總理大臣

〔國務大臣男爵加藤友三郎君登壇〕

○國務大臣(男爵加藤友三郎君) 只今ノ望月君ノ御話ハ全部御質問デナクシテ、先刻吾々ノ御答致シマシタ事ニ付テノ御意見、尙ニ不足不満足御述ニナツト思ヒマス、併ナガラ其中一二ハ茲ニ申上ゲテ置イタ方宜クハナイカト思フノデアリマス、四國協約ノ決定セザル以前ノ草案ニ付テ御述ベニナリマシタ、草案ナルモノハ種々ナル案ガアッタデアリマス、我ガ全權ガ提案致シマシタモノモ一デアアリマセヌ、英米亦然リデアリマス、決定シタモノニ付テ御意見ヲ伺ヒ、又申上ゲル外ハナイト思フ、ソレカラ西伯利問題ニ付テ英米ヨリ要求云々ト云フコトニ付テ、「ヒューズ」氏ガ華盛頓デ讀ムデタ「ステートメント」ノ内容ニ付テノ御話デアリマス、是ハ事實デアアルニ違ヒナイ、華府會議ノ開カレマス以前ニ、米國政府ト我ガ政府トノ間ニ、西伯利駐兵問題ニ付テ意見ノ交換ハ度ミアタノデアリマス、其アツタ所ノ意見ノ交換中ノ「ヒューズ」氏ノ讀ムデタル「ステートメント」中ノ文句ヲ以テ、私ハ要求ト云フガ如キ性質ノモノトハ思ハナイノデアリマス、當時非公式ニ此問題ニ付キマシテハ、數回圓滿ナル意見ノ交換ヲ致シマシテ、互ニ意ノ在ル所ヲ率直ニ「ステートメント」ヲ出シテ、ソレデ此問題ハ打切ル、會議ニ掛ケルト云フ如キコトハシナイト云フ意見ノ一致ヲ見

タノデアリマス、爲ニ我ガ全權モ我ガ政府ノ意ノ在ル所ヲ率直ニ開陳シ、米國政府モ既往ニ於キマシテ、我ガ政府ト意見ノ交換シタコトモ率直ニ述ベルト云フニ過ギナイ、之ヲ以テ要求ト望月君ガ御解シニナルナラバ、是ハ已ムヲ得マセヌ、私ハ左様ニハ解シナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、最後ニ此山東問題ニ關スル日支間ノ兩國全權委員ノ會議ガ、監視ノ下ニサレタト云フノデ、只今御讀ムニナリマシタモノハ私ハ讀ムコトガゴザイマセヌガ、米國上院デアリマシタカ何レデアリマシタカ、英米兩國ノ「ジヨルタン」氏其外ガ列席シテ云々ト云フコトノ御話ガゴザイマシタ、是ハ事實ヲ御話致スノデアリマス、即チ兩國全權ノ斡旋ニ依リマシテ、日支兩國間ニ會合スルコトノ決定ヲ致シマシタ、第一回ノ會合ニハ私モ出席シ、其他ノ會合ニハ時々出席致シマシタ、他ノ全權ニ委任シテ居ッタノデアリマス、此會合ノアリマシタル後ニ、英米兩全權ヨリシテ、山東問題ハ隨分各方面ニ於テ誤解ヲ受ケ、日支兩國間ノ親善上、之ガ爲ニ大ニ之ヲ阻害サレテ居ル重要ナル問題デアアル、殊ニ茲ニ幸ニ吾々兩人ノ斡旋ニ依リテ、兩國委員間ニ自由意志ニ依テ茲ニ會議ノ開カレルト云フコトハ衷心ヨリ喜ブ、付テハ何モ干渉スルコトカ何レカ云フ趣旨デアリナイガ、自分ノ方カラ一入二人出スカラ傍聴ヲ許シテ吳レヌカト云フコトヲ希望シテ來タノデアリマス、是ハ事實デアリマス、仍テ其干渉ト云フガ如キコトナラ、秘密ヲ保ツト云フ條件ノ下ニ、單ニ傍聴サル、ト云フナラ、折角斡旋ノ勞ヲ執ラレタ其好意ニ對シテモ、之ヲ拒絕スルコトノ不利益デアルト感ゼテ、仍テ傍聴ト云フコトハ許シタノデアリマス、(中野寅吉君、傍聴モ干渉デハナイカト呼ブ)ソレヲ以テ干渉ト御考デアラナラバ、ソレハ中野君ノ御考デアリマス、傍聴人ガ傍聴シテ居ルノ同ジデアリマス、一言モ發言ヲ許サナイ、(中野寅吉君、傍聴ガ即チ監視デハナイカト呼ブ)ソレヲ監視ト御解釋ニナルナラバソレハ、解釋スル御方ニ御任セスル外ハアリマセヌ、(中野寅吉君、事實上監視デハナイカト呼ブ)決シテ監視監督ハサレテ居リマセヌ

○副議長(粕谷義三君) 靜ニ

〔國務大臣男爵加藤友三郎君(續) 是ダケノ事實ヲ申上ゲマス、ソレヨリ以上ハ御解釋ニ任ス、斯様ニ御承知ヲ願フテ置キマス

○國務大臣(伯爵内田康哉君)

望月君ノ御質問中ニ、是ハ總理大臣ニ質問スルト言ハレマシタ一點ガアル、ソレハ義和團賠償金ニ關スル事ト、東支線ニ關スル事デアアル、是ハ私ヨリ御答辯申シマシタ方宜シカラウト思フ、此義和團賠償金ノ事ニ付キマシテハ、後藤子爵ガ外務大臣中ニ、是ハ

タノデアリマス、爲ニ我ガ全權モ我ガ政府ノ意ノ在ル所ヲ率直ニ開陳シ、米國政府モ既往ニ於キマシテ、我ガ政府ト意見ノ交換シタコトモ率直ニ述ベルト云フニ過ギナイ、之ヲ以テ要求ト望月君ガ御解シニナルナラバ、是ハ已ムヲ得マセヌ、私ハ左様ニハ解シナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、最後ニ此山東問題ニ關スル日支間ノ兩國全權委員ノ會議ガ、監視ノ下ニサレタト云フノデ、只今御讀ムニナリマシタモノハ私ハ讀ムコトガゴザイマセヌガ、米國上院デアリマシタカ何レデアリマシタカ、英米兩國ノ「ジヨルタン」氏其外ガ列席シテ云々ト云フコトノ御話ガゴザイマシタ、是ハ事實ヲ御話致スノデアリマス、即チ兩國全權ノ斡旋ニ依リマシテ、日支兩國間ニ會合スルコトノ決定ヲ致シマシタ、第一回ノ會合ニハ私モ出席シ、其他ノ會合ニハ時々出席致シマシタ、他ノ全權ニ委任シテ居ッタノデアリマス、此會合ノアリマシタル後ニ、英米兩全權ヨリシテ、山東問題ハ隨分各方面ニ於テ誤解ヲ受ケ、日支兩國間ノ親善上、之ガ爲ニ大ニ之ヲ阻害サレテ居ル重要ナル問題デアアル、殊ニ茲ニ幸ニ吾々兩人ノ斡旋ニ依リテ、兩國委員間ニ自由意志ニ依テ茲ニ會議ノ開カレルト云フコトハ衷心ヨリ喜ブ、付テハ何モ干渉スルコトカ何レカ云フ趣旨デアリナイガ、自分ノ方カラ一入二人出スカラ傍聴ヲ許シテ吳レヌカト云フコトヲ希望シテ來タノデアリマス、是ハ事實デアリマス、仍テ其干渉ト云フガ如キコトナラ、秘密ヲ保ツト云フ條件ノ下ニ、單ニ傍聴サル、ト云フナラ、折角斡旋ノ勞ヲ執ラレタ其好意ニ對シテモ、之ヲ拒絕スルコトノ不利益デアルト感ゼテ、仍テ傍聴ト云フコトハ許シタノデアリマス、(中野寅吉君、傍聴モ干渉デハナイカト呼ブ)ソレヲ以テ干渉ト御考デアラナラバ、ソレハ中野君ノ御考デアリマス、傍聴人ガ傍聴シテ居ルノ同ジデアリマス、一言モ發言ヲ許サナイ、(中野寅吉君、傍聴ガ即チ監視デハナイカト呼ブ)ソレヲ監視ト御解釋ニナルナラバソレハ、解釋スル御方ニ御任セスル外ハアリマセヌ、(中野寅吉君、事實上監視デハナイカト呼ブ)決シテ監視監督ハサレテ居リマセヌ

○副議長(粕谷義三君) 靜ニ

〔國務大臣伯爵内田康哉君登壇〕

○國務大臣(伯爵内田康哉君) 望月君ノ御質問中ニ、是ハ總理大臣ニ質問スルト言ハレマシタ一點ガアル、ソレハ義和團賠償金ニ關スル事ト、東支線ニ關スル事デアアル、是ハ私ヨリ御答辯申シマシタ方宜シカラウト思フ、此義和團賠償金ノ事ニ付キマシテハ、後藤子爵ガ外務大臣中ニ、是ハ

日本ニ於テハ結局支那ノ爲ニ此金ヲ利用スルト云フヤウナ内約ヲ爲サレタコトガアルノデス、政府ニ於テモ其内約ヲ重シクテ、是ハ專ラ支那ノ文化事業ニ利用シタイト思フテ居ルノデス、然ルニ御承知ノ如ク支那ガ世界大戰爭ニ参加スルコトニ付キマシテ、免モ角モ五箇年間此賠償金ヲ取立テナイ、支那ヨリ各國ニ拂フベキ金ヲ其五箇年ノ間ハ取ラナイト云フコトデ、是ハ昨年十一月末マデ取ラナカッタ、此十二月カラ此金ハ又復活シテ各國ノ賠償金トシテ今稅關ノ方デ留メテ居ル譯デアアル、ソレデ是ハ支那ノ政府ハ今二年カ一年延バシテ費ヒタイト云フコトデアアル、即チソレダケノ金ヲ支那ノ政費ニ使ヒタイト云フコトデアアル、是ハ望月君ノ希望サレル所ノ文化事業ニ之ヲ利用スルト云フコトヲ無ニスルコトニナル、日本ハ今日ノ支那ノ政情ニ顧ミテ、斯ノ如キ金ハ洵ニ珍重ナル金デアラ、之ヲ支那ノ文化事業ニ利用センガ爲ニ、支那ノ請求ニ應ズルコトガ出來ナイト云フノデ、各國ヨリ希望モアリマシタケレドモ、結局日本ノ主張通りニナツタ、是ハ決シテ日本ガ若服スルノデアリナイ、後藤君ガ約束シタ事ヲヤラウト斯ウ思フテ居ル、何レ此金ノ始末ニ付テハ、當期議會ヲ煩サナケレバナラヌコトモアリマセヌ、只今色々會計上ノ法規ヤ何ヤニ付テ案ヲ練テ居リマス、此金ハ一十二月ヨリ入ル金ハ結局文化事業ニ利用サレルト御承知下サツテ些小モ差支ナイ、即チ政府ガ其賠償金ノ延期ニ同意シナカッタノハ、即チ支那ノ實際上友好的ニ援助スルコトデアアル、ソレカラ東支線ニ付テ何故支那ヲ助ケテ之ヲ回收シナイカト云フヤウナ御質問デアラヤウデスガ、是ハ少シ東支線ノ歴史ヲ御研究ニナレバ、サウ云フ御質問ハ起ラナイト思フ、東支線ハ御承知ノ通り其實露國ノ鐵道ト言フテモ宜シイ、唯、露國ガ今日舊帝政ガ瓦解シテ、今日ノ狀態ニナツテ居リマスカラ、此東支線ノ法律上ノ位置ト云フモノハ、甚ダムツカシクナツテ居ル、併シ實際ハ支那ノ勢力ガ露西亞ノ勢力ニ優テ居ルカラ、今日ハ殆下支那ガアレバ管理シテ居ルヤウナ姿ニナツテ居ル、無論日本ガ出兵中ハ鐵道管理規則ト云フモノヲ拵ヘテ、各國ガ之ニ干渉シテ居ッタ、即チ是モ日本ノ撤兵ト共ニ其協約ハ一協定ハ一列國ノ協定ハ悉皆止シテシマツテ、ソレ故ニ今日ニ於テハ支那ノ勢力ニ對抗スル勢力ハ無イ、併シ支那ハ果シテ法律上ニ此鐵道ヲ自由ニスルコトガ出來ルカドウデアアルカト云フコトハ、是ハ大變ナ疑問デアアル、露國ガ復活シタ曉ニハ、必ズ法律上ノ問題ガ起ツテ露支ノ爭ニナル、是ニハ日本ナリ列國ナリガ、或ハ態度ヲ決メテ干渉スルト云フコトハ餘程考ヘ物デアアル、併シ支那ガ實際之ヲヤテ居リマスルカラ、支那ノ管理ニ委セテ居ルガ、總テノ責任ハ支那ニ在ルト云フ通告モ各國ヨリ支那ニ出シテ居リマス、又此鐵道ニ對シテハ日本國モ餘程金ヲ出シテ居リマス、是等ノ

責任を結局支那に歸スル、又此鐵道ニ歸スルト云フヤウナ意味合ノ通告モ出シテ居リマス、ソレデ此東支線ヲ日本ガ提唱シテ、各國ト共ニ支那ニ買収セシムルト云フコトハ、是ハ甚ダ考フベキ事柄ト思フ、其他六箇條ノ御質問見ヤウナ御質問デナイヤウナ、歸スル所先刻御述ニナリ、御意見ガ勝テ居ルト思フ、之ニ對シテ私ハ十分私ノ意見ヲ開陳シタノデ、ソレ以上御答スル必要ガ無イト私ハ思ヒマス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 鐵道大臣

(國務大臣伯爵大木達吉君登壇)

○國務大臣(伯爵大木達吉君) 望月君ノ私ニ對スル責任觀念如何ト云フ御尋ネニ對シテハ、私ハ西伯利ノ駐兵並撤兵ニ付キマシテ、責任ヲ十分持テ居ルコトヲ承知シテ居リマス、即チ撤兵ノ時機到ラザリシ間ハ之ヲ駐兵シ、撤兵ノ機來リシ時之ヲ撤兵シタルコトハ當然ノ處置デアルト信ジテ疑ハナイノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 中野正剛君

(中野正剛君登壇)

○中野正剛君 昨日以來總理大臣、大藏大臣、外務大臣御三人ハ、政府ノ立場ヲ説明スルコトニ付テ、十分ノ勞ヲ執ラレタヤウニ御見受ケシマス、又大體議院内ノ質問ニ對スル御應答モ承リマシタガ、其言葉ノ中ノ意味、又言外ノ調子ニ於テ随分ト自ラヲ擁護シテ居ラル、ケレドモ、其中ニ悲觀的消極的態度ガ多クシテ、此非常ナ秋ニ當テ此國ヲ奈何セント云フ決意ト、而モ御勇氣トニ至テハ甚ダ缺乏セルヤニ感ジテ、尙ニ憂慮ニ堪ヘナイモノデアリマス(拍手)是ハ單ニ内閣諸公ノ態度ノミデナク、今日ノ日本一般ノ氣風ヲ反映シテ居ルモノト思ヒ、一層私ハ憂慮ニ思フノデアリマス、元來財政ハ行詰マシテ、經濟ハ行詰マシ、日本ノ立場ハ苦シム、此方面ヲ見渡シテモ行詰マシテ、日本ノ近來頻リニ聞ユル、此行詰マシテ居ル時局ヲ略、御諒解ニナシテ、之ニ相應シテ御態度ヲ執テ居ラル、コトヲ私ハ見ル、之ヲ私ハ見ナガラ、モウ一ツ考ヘタイ事ハ、單ニ行詰マシテ時局ニ對シテ、行詰マシ、困タト云フノミデハ致方ガナイ、此困タ時局ヲ如何ニシテ轉回スベキカ、之ニハ一切ノ勇氣ト決意ヲ要スル、國家ハ元來難局ニ依リテ亡アルモノデナク、財政經濟ノ困難ニ依リテ立場ヲ無クスルモノデナイ、要ハ之ヲ如何ニ轉回スルカ、前途ニ光明ヲ示スコトガ政治家ノ責任デアラ、前途ニ光明ガ示ザレバ、行詰マシ時局ニ於ケル國民ハ非常ナ勇氣ヲ以テ前途ノ光明ニ邁進スルモノト私ハ思フ、別シテ財政經濟計畫ニ付キマシテ、吾々ノ同志大ニ喜六君カラ質問ヲ致シマシタル時、内務大臣モ略、地方行政ノ狀態ヨリ之ニ同感ノ意ヲ表セラレ、大藏大臣モ同感ノ意ヲ表セラレ、總理大臣モ同様デアラ、政府トハ最モ異ナル財

政經濟計畫ヲ立テ、此豫算ニ臨マントスル我ガ同志ノ意見ニ對シテ、一々之ニ同感デアルト云フ御言葉ヲ聽イタコトハ、近來ノ珍シキ現象デアルト私ハ思フ(拍手)唯、内閣諸公ト吾々ト異ナル所ハ、現狀ヲ有リノ儘ニ認メテ居ルコトハ同一デアラ、如何ニシテ此現狀ニ處スルカニ付テ、勇氣ガ有ルカ無イカ、經給ガ有ルカ無イカト云フノ相違ケテト私ハ思ヒマス、アレダケ現狀ヲ御承認ニナリ、吾々ノ主張ノ前提ヲ御承認ニナラシメ、速カラズ財政經濟計畫ニ付テ、吾々ノ提案スル所ニ御同意アルモノト尙ニ信スル者デアリマス(拍手)之ニ付キマシテ、吾々ハ多ク論ジナイ、御同意ガ無ケレバ、即チ勇氣ノ無イ、經給モ無イモノト見テ、之ニ對スル方策ヲ講ジナクシテ、ナラヌト思ヒマス、財政經濟計畫ニ對スル御答辯ノ割合ニ率直ナリシニ似ズ、外交ニ關シテハ頗ル時局ノ真相ヲ蔽ウテ居ラル、カニ感ジテ、私ハ非常ニ遺憾ニ思フ、總理大臣、外務大臣ヲシテ言ハシムレバ、外交ノ事ハサウ露骨ニ言ヘヌト仰セラル、カ知ラヌ、ソレハ私ハ國民ガ未ダ外交ノ知識ガ無ク、又國家ガ今日ノ如ク複雜ナル國際關係ノ裡ニ於テ、國民ノ各ノ生活ガ外交ト密接ノ關係ガ少ナカク時代ノ遺習デアリマス、今日ノ總理大臣外務大臣タル者ハ、國民ニ向テ率直ニ、明白ニ現狀ヲ説明セラレ、此國民ト俱ニ難局ヲ踏開クベク經給ヲ講ゼラル、コトガ、今日ノ責任デアルト私ハ信ジマス(拍手)私ハ率直ニ見テ、ヴェルサイユ條約華盛頓條約以後、日本ノ國際的地位ハ孤立致シテ、非常ニ難局ニ沈淪シテ居ルモノト信ズルノデアリマス、是ハ獨リ現内閣ノ罪デナイ、日本國民全體ニ此責任モアリマセウガ、世界ヲ支配シテ居ル今日ノ強國ニ在リ、又世界ノ不公正ナル立場ニ在ルト思ヒマス、此點ニ對シテ國民ガ率直ニ、少クモ此神聖ナル議場ニ於テ、事實ヲ見ルコトニ付テ蔽フ所ナカラシムコトヲ私ハ希望スル者デアラ、私ガ斯ク申シマス、華盛頓會議ニ於テ日英同盟ガ無クナラ、無クナラ、代リニ四國條約出來タデナイカ、九箇國條約出來タデナイカト云フ御説明ニナルカ知レマセ、併ナガラ私ハ斯様ナ形式論ヲシテ居ル者デナイ、日英同盟ガ無クナラ、日英同盟ノ葬式ヲ致ス會デアラトスヘバ、華盛頓會議ハ日英同盟ノ葬式ヲ致ス會デアラトスラ解セラレテ居ル、併ナガラ之ガ無クナラ、無クナラ、四箇國協約ナルモノガ、即チ日英同盟ニ代リ立場ガ出來タト云フコトデハナイ、英國ノ言葉ヲ藉リテ言ヘバ、國ハ同盟ヲ有スルガ故ニ安定ナルニアラズ、同盟ヲ善用スルノ確信ト實力アルニ依リテ、初メテ安寧ナリト云テ居リマス、四箇國協約ハ出來マシタデセウ、併ナガラ此背後ニ存スル國際的ノ形勢、又此形勢ヲ支配スル國際的經濟關係、此經濟關係

ノ下ニ動キツ、アル各國ノ國民生活、此生活ノ欲求ヨリ發スル國民ノ努力ト云フモノヲ見ナケレバ、未ダ容易ニ四箇國協約ガ出來タト云ウテ、日本ノ立場ハソレデ安泰デアルト言ヘナイト私ハ思フ、諸君、日英同盟ガ無クナル迄日本帝國ノ政府ノ諸公ハ、日英同盟ハマダ繼續セラレ、モノト信ジテ居タヤウデアリマス、前々期議會マデハ、外務大臣總理大臣ノ開口第一ノ言葉ハ、日英同盟ノ基礎益々安固ニシテ帝國ノ立場ハ益々良好デアルト云フノガ、殆ド紋切型ノ文句デアラデアラ、其同盟ガ無クナルベキ形勢ハ一昨年、其モウ一ツ前頃カラ明白ニ英吉利ニハ動イテ居ルノデアラ、畏レ多イコトデアリマスガ、一昨年ノ春ヨリ夏ニ掛ケテ、我が攝政宮殿下ガ御外遊ニナラシメ、事ヲ吾々ハ想起シテ恐懼ニ堪ヘナイ次第デアラ、當時我が政府ハ日英同盟ノ改訂ト皇太子殿下ノ御外遊トハ、何等ノ關係ハ無イト公式ニ又非公式ニ聲明シテ居ラタデアル、殿下ガ彼地ニ御出ニナリ、隨員諸公ノ報告、更ニ一般ノ通信ニ依ルト、非常ニ御歡迎ヲ受ケサセラレタコトモ事實デアラ、又殿下個人ノ麗ハシキ珠ノ如キ御性格ニ依テ、同盟國ハ、固ヨリ其他歐洲列國ノ人心ニ善良ノ印象ヲ與ヘラレタコトモ事實デアリマス、第三者ハ此ニ解釋シテ以爲ヘラク、日英同盟ハ其年ノ夏ニ期限ガ到來シテ、改訂セラレベキ狀態ニナラ居ル、日本政府ハ殿下ノ麗ハシキ御聖德ニ依テ英國ノ好感情ヲ得タルニ乘ジ、日英同盟ヲ改訂セントスルノ意嚮アルモノト解釋シテ居ラ、私共ハ其時ニ英國ニ動キツツアル實情ヲ見テ恐懼ニ堪ヘナカッタデアラ、英國ハ左ノ手デ殿下ヲ非常ニ歡迎シ奉ラ、併ナガラ彼ハ同時ニ右ノ手ニ於テ、英植民地ノ即チ英帝國植民地首相會議ヲ開イテ何ヲ論ジテ居ルカ、日英同盟改訂スベキヤ否ヤノ議論ヲソコデ開ハシタ、殿下未ダ歐洲ニ滞在マシマス其間ニ、其眼際上ノ決議ハ、遂ニ日英同盟ノ案文ヲ引裂イテ地ニ叩キ付ケテ、日本ハ第一ノ獨逸ナリトカ、日本ハ侵略主義ナリトカ、穩カナラ又言葉ヲ繰返シタル最後、米國ノ態度ヲ決定スルマデハ、日英同盟ヲドウシヤウト云フ者ハ無クナラデアラ、其時ニ於テ英吉利ガ亞米利加ヲ重ジテ日本ヲ輕ンズル、少クトモ極東ノ外交ニ於テ亞米利加ト手ヲ握ラ、日本トノ手ヲ斷ツト云フ形勢ハ、アノ會議マデ明白デアラデアラ、日英同盟ヲ居リマスルガ、アノ歐州ノ戰後ノ思想、殊ニアノ日英同盟ヲ論議セラレタル當時ノ光景ニ付、深ク感ゼサセラレタル所ノモノガアルト私ハ思フ、其頃カラ日英同盟ガ無クナラ、英米ノ接近シタコトハ明白ナル事實デアラ、華盛頓會議ハ之ヲ事實ノ上ニ現シテ來タ、又英米接近シテ日本ヲ疏

ズルニ付テハ其理由ガアル、近來——大戰以後亞米利加ノ地位ガ段々上ラテ參リマシテ、英國以上ノ勢力ヲ示スカニ見エマスガ、國際政局ノ主動者ハ依然トシテ英吉利ニ在レカノ感ガアリマス、英吉利人ハ其點甚ク巧妙デアリ、英吉利ハ亞米利加ト手ヲ握ルベキ經濟的ノ必要ニ迫ラレテ居ルノデアリ、現ニ佛獨ノ衝突モ、總理大臣外務大臣モ御話ニナリマシタガ獨逸ノ賠償問題ニ付テ佛獨西ハ莫大ナル賠償金ヲ獨逸ヨリ取ラザレバ、今後ノ計畫ガ立テラレナイ、獨逸ハ左様ナ賠償金ヲ出セバ國ハ亡ビルト云フ此争ガ纏綿シテ居ル、現ニ佛獨西ガ兵ヲ出スニ至ラタガ、英國ノ態度ハ獨逸カト云ヘバ、佛獨西ノ帝國主義ヲ或ル程度マデ牽制シ、獨逸人ヲ或ル程度マデ緩和シ、速ニ獨佛ヲシテ和セシメテ歐洲ノ平靜ヲ保チ、平靜ヲ保テ而シテ後ニ何ヲ要求スルカト云フ、亞米利加ガ歐洲ニ資本ヲ出シテ、歐洲戰後ノ經濟的疲弊ヲ救済セントスルコトデアリ、英國ハ歐洲ノ平和ヲ保ツシメ、亞米利加ノ資本ヲ注込マセ、財界ヲ復活サセ、歐洲ノ購買力ヲ復活サセ、自國ノ製品ヲ歐洲ノ市場ニ賣出スコトガ英國ノ産業ヲ救済スル所以デアリ、英國ノ失業業者ニ食物ヲ與フル所以デアリト解釋シテ居ル、此點ニ於テハ英國ノ近ク亞米利加ト手ヲ握リ、英吉利ハ亞米利加ヲ歐洲ニ引張り込ム爲ニ、十二分ノ歡心ヲ求メテ居ルト云フコトハ十分明白ナル事實デアリマス、又東洋問題ニ於テモ、巴里會議ノ最中ニ今日問題トナテ居ル山東問題ガ紛糾シテ、政府ハ排日運動ガ勃發シタ、非ニ極端ナル運動デアラ、加減ニ濟ムノ先例ト思フ、居テヤウデアリ、併シハハ中ニ濟マナカ、遂ニ全支那ニ互ル排日運動トナリ、學生トデモ之ニ參加スル、漢口、天津、上海、長沙、吳淞、到ル處ニ於テ排日運動ガ盛シナリ、日本ノ物資ハ大道ニ於テ燒棄テラレ、日本ト通商セシ支那人ノ店ハ、掠奪若ハ破壞セラレト云フ状態デアラ、其時ニ亞米利加人ガ之ニ好意ヲ表シ、又亞米利加ノ公使其他色々ノ人ガ間接ニ之ヲ聲援シタコトハ、明白ナル事實デアリ極端ニ申シマスレバ、支那ノ排日運動ハ亞米利加ノ對支發展ノ商業政策ト合致スルモノト解釋スルコトガ出來ル、亞米利加ノ遣方トシテハ巧妙デアラト思ヒマスガ、之ヲ導キ之ヲ助ケテ者ハ支那ニ滞在シテ、支那ノ狀況ニ能ク通曉スル英吉利人デアラコトモ能ク御存ジノ通リデアリマス、即チ米支兩國ハ手ヲ握テ支那ノ排日運動ヲ助長セシメ、日本ノ對支貿易ハ之ガ爲ニ非常ナル打擊ヲ被ッタノデアリ、大正九年彼ノ財界ノ大破ガ始メタ、三月以前數箇月ニ於テ、對支貿易ノ減退ハ此排日騒ギノ進行ト共ニ著シキ減少デアリマシテ、日本ノ對支貿易ハ或ハ二分ノ一ニ減ジ、或ハ三分ノ一ニ減ズルト

云フヤウナ統計ガ、各市ノ商業會議所ニ於テ發表セラレテ居ル、併ナガラ同ジ期間ニ於テ、日本ノ退ク所ヲ亞米利加ノ物質ガ這入ラテ來テ、日本ノ減ズル間ニ亞米利加ノ物質ガ二倍ニナテ這入ラテ來テ居ルト云フ事實デアリ、併シ同ジ期間ニ於テ米國ノ對支輸出ハ二倍ニナルト、英吉利ノ對支輸出ハ四倍ノ統計ヲ示シ、長江沿岸一帶ハ所謂英吉利ノ「マンチユスター、グズズ」ヲ以テ滿タサレルト云フ狀況デアラ、此點カラ觀察致シマシテモ、日本ノ支那ニ於ケル墜落、通商貿易ノ觀點ハ取モ、直サズ米國ノ利益デアリケレドモ、表面ニハ立タナイガ英國ハ更ニ餘計利スルト云フコトニナテ居リマス、極東ニ於テ、亞米利加ノ産業帝國主義ト申シマスガ經濟的資本主義ト申シマスガ、其必要ノ爲ニ支那西伯利ノ原料市場ニ向テ、亞米利加ガ齧進シテ來ルノハ必然ノ勢デアリマシテ、此時ニ英吉利ガ亞米利加ト手ヲ握リ、日本ノ對支發展ヲ阻害スルノハ、自ラノ東洋ニ於ケル立場ヲ回復スル唯一ノ手段デアルト云フコトハ、是ハ明白ナル事實デアリマス即チ英米二國ハ東洋ニ於テ握手スルノ必要ヲ感ジ、又歐洲ニ於テ握手スルノ必要ヲ感ジテ居ル、此二國ガ主トナテ四箇國協約ガ締結セラレタノデアリ、四箇國協約ニ就テハ望月君カラ色々御質問ガアリマシタガ私ハ望月君ノ第二條以下ノ質問ヨリハ、第一條ニ付テ色々ノ考ヲ持テ居ルノデアリマス、第一條ニ於テハ締約四國ハ、四國相互間ノ紛争ヲ豫期シテ居ル、相互間ニ紛争起リシ時ハ、四國ノ審議ニ依テ之ヲ處分スベキ前提ヲ認メテ居ル、此時ニ當テ——是ハ餘程面倒ナル問題デアリマス、即チ此時ニ於テ英米二國ハ今申シタル如キ必要ガアテテ握手シテ居ル、日英同盟ヲ廢棄シテマデモ亞米利加ト手ヲ握ラタ英國ガ、亞米利加ト一緒ニナルノ、當然デアリマス、歐洲ニ於テ何レノ國ヨリモ亞米利加ノ救済ヲ仰ガナケレバナラスノハ、佛獨西ニアリマス、英米二國ニ佛獨西ヲ加ヘ、ソレト日本トガ一緒ニナテ、即チ四箇國協約ヲ結ンデ居ル、サウシテ相互ノ間ニ紛争ヲ豫期シ、其紛争ハ多數決ニ依テ決スベキ意味ニ解シ得ラレル條約ヲ結ンダト云フコトガ、果シテ之ヲ日英同盟ニ代テト言ヒ得ルカドウカ、日英同盟ハ相互間ノ紛争ヲ豫期セズ、所謂攻守同盟テ兩國手ヲ握テ第三者ニ當ルノデアラ、四國協約ハ四箇國相互間ノ紛争ヲ豫期スルコトガ主デアラ、即チ第二條以下ニ規定シテアル第三條ニ對スル行動ニ就テハ、亞米利加ニモ異存アルハ望月君ノ言ハレタ通りデアリ、即チ四國協約ハ日英同盟ガ無クナタ代リニ結バレタノデアリ、日英同盟ガ變テ日本ガ孤立シタ、日本ガ孤立シテモ尚ホ危險デアラ、彼奴ノ東洋ニ於ケル行動ヲ監督スルト云フ意味ニ於テ、四國協約ハ働クベキモノデアルト云フコトハ、其文字ノ上ノ解

釋ト同時ニ其内面ニ、動キツ、アル國際關係ヲ調ベテ見マレバ、是ハ常識ヲ以テモ吾々ノ觀察ガ誤ラヌト云フコトガ考ヘラレ、而モ此時ニ當テ巴里講和會議ヨリ華盛頓會議ヲ經テ、日英同盟ハ無クナタデアリマス、帝國ノ立場ハ益々安泰ナリト云フ四國協約ヲ結バレタ當局者ニ對シテ、其見解ノ誤リナルコトヲ思ハザルヲ得ナイ、之ニ對シテソナ形式上ノ事デアラ、内心如何ニ御解釋ニナテ居ルカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、更ニ九箇國條約デアリマスガ、支那ノ主權ヲ尊重スルコトカ、領土權ヲ尊重スルコトカ、色々ノ事ガ定マラレテ居ル、固ヨリ之ニ異存ノアルベキ筈ハナイ、併ナガラ是ハ日英米佛以外ニ伊太利モ來レバ、葡萄牙モ來ル、白耳義モ來レバ、和蘭モ來ル、色々ノ國ヲ混ヘテ居ル、是等ノ國ガ集テ支那ノ問題ヲ相談スルト云フノデアラガ、今マデ日本ノ認メテ居ラタ原則ヲ、皆ナ一緒ニナテ會議ヲ開イテ之ヲ決メル必要ハナイト思フ、我國ハ日露戰爭前後ニ掛ケテ色々ノ關係ヲ持テ居ラタ、日露戰爭後ニ至テ我國ノ立場ガ決定スルヤ、益々列國トノ關係ハ複雜ニナタタガ、日本ノ立場ハ有利デアラ、日英同盟ガアル上ニ、日米同盟モアリ、日露協約モアリ、日佛協約モアリ、日獨間ニモ色々ノ申合ガアリ、伊太利ニ於テモ日本ヲ尊重スルノ意思ガアタ、即チ日本ハ東洋ノ中心トナテ、極東ノ平和ヲ維持スル協約並ニ條約ヲ總テノ國ト結ンダ、即チ日本ガ中心デアラ、日本ハ東洋ニ於テ其平和ヲ維持スル東洋會議ノ議長タル地位ヲ有シテ居ラタデアリ、ソレガ今度ハ個々別々ノ國ガ一緒ニナテ、九箇國ノ中ニ日本ガ入ラタ、而モ東洋ノ保全ヲ約スル條約デアラガ、其國々ハ何レモ英米ノ欲スルガ儘ニ動ク國ノミデレ、實ニ彼等ハ歐洲ニ於テハ複雜ナル關係ヲ有シテ居ルガ、英米二國ノ外ハ東洋ニ對スル關係ガ甚ク少イ、其少イ所ノ問題ニ付テハ英米ノ指導ニ從ヒ、歐洲ノ問題ニ於テ英米ノ恩顧ヲ蒙ルコトハ、彼ノ利益トスル所デアリ、即チ九箇國條約、四箇國協約ヲ見マスト、日本ト立場ヲ異ニスル英米ガ主トナテ、皆多數決ヲ以テ日本ノ立場ヲ監督スルモノト私ハ解釋スル、一ト三、孰レガ多數ナリヤ、一ト八孰レガ多數ナリヤ、此點ニ於テ日本ノ東洋ニ於ケル立場ハ、二重ニモ三重ニモ東洋ヲ感ジテ居ルモノト思フ、是ハ文字ノ上ノ解釋ニハ出テ居リマセヌガ、現ニ日本ノ世界ニ立テル環境、世界ノ經濟關係總テノ所ヨリ推論シテ斯ノ如キ結果ニナリハセヌカ、或ル英人ノ述ベタ如ク、日本ニ必ズ協約ヲ善用スルノ實力アリヤ、又確信アリヤ、之ニ就テ内閣諸公ノ意見ヲ私ハ承リタイノデアリマス、次ニハ山東問題デアリマス、山東問題ニ於テ我國ガ今日讓歩ヲ爲シテ支那ニ還付スルニ至ラタ、私ハ此讓歩ガ支那ニ對シテ讓歩ナラバ寸毫モ遺憾ハアリマセヌ、思切テ讓歩スルノ可ナルヲ信



ズル者デアリマス、内閣諸公言ハルルヤウニ、支那ハ我國ノ前途ノ安危ヲ託スル鍵ヲ持スルモノデアリマシテ、而モ支那ト云フ他國ニ向テ我ガ國福ヲ繫クル以上、其民心ニ適合スル政策ヲ講ズル爲ニハ、十二分ノ讓歩ハ覺悟デアルト思フ、唯、遺憾ナルコトハ、望月君トノ質問應答ノ間ニモ見ヘマシガ、日本ハ支那ニ對スル親愛ノ情ヲ表示スルニ非ズ、支那ノ今日ノ窮狀ニ對シテ任侠的精神ヲ發揮スルニ非ズシテ、世界ノ國際の舞臺ニ於テ、露骨ニ申シマスレバ、英米共同ノ壓迫ニ屈シタルモノト解サルルコトヲ遺憾ニ思フ、アリマス、拍手ノ山東問題ニ付テ、列國ノ干渉ヲ受ケナイト仰シタルガ、山東問題ヲ巴里デ解決スレバモト有利ニ解決シ得ラレタ、引繼イテ華盛頓會議ノ起ル前即チ大正十年ノ九月ニ、我が小幡公使ガ支那ニ向テ與ヘタ所ノ山東協定ノ九箇條ト云フモノハ、後ニ華盛頓會議ニ於テ「ヒューズ」バルフォア諸氏ノ斡旋ニ依テ、支那ト立會フ時ニ提出シタル基本條項トハ多大ノ差ガアル、北京デハ、東京デハ支那ニ向テ相當高壓の態度ヲ執リタモノガ、太平洋ヲ渡テ亞米利加ニ行クタゲテ、英米ノ人ガ其處ニ居ルダケデ、初メカラ是ダケノ基本條項ヲ變更ナシニ屈從スルノ態度ヲ執ラナケレバナラヌコトニナク、云フコトヲ、私ハ衷心ヨリ遺憾ニ思フ、望月君ノ説明ノ通りニ、其處ニハ英米ノ隨員ガ傍聴シテ此會議ヲ進行セシメタ、日本ノ要求ガ支那ニ容レラレナイデ、殊ニ山東鐵道ノ問題ニ對シテハ一時行詰ラタ、五月七日ニ於テ顧維鈞ハ「ヒューズ」バルフォアニ氏ヲ訪問シテ色々訴フル所ガアタ、而シテ此ニ氏カラ日本ニ對シテ調停ノ申込ガアタ、日本ハ調停ハ斷ツタガ、調停條件ヲ示シテ貫クノデアルカラ、條件ヲ示シテ貫ク、此英米ノ調停條件ガ基礎トナテ復タ山東問題ノ協議ヲ始メタ、併ナガラ鐵道問題ハ益々紛糾シテ後廻シトシ、愈々期日ガ切迫スルニ及ンデドウシタカ、日本ハ山東問題ヲ直接交渉テ解決スル、華盛頓會議デ世界ノ批判ヲ仰ガナイ、飽迄モ直接交渉主義ヲ高調シテ居タガ、事實ニ於テ直接交渉デモ何デモナイ、事實華盛頓會議ガ段々進行スル、其進行ニ伴テ山東交渉ガ進マナイカラ、色々方々カラノ緊迫の壓迫ヲ蒙ラタ「ハーディング」スラ此問題ニ乘出シテ之ヲ解決スベキ勢ヲ示シタ、幣原大使ハ「ハーディング」氏ニ面會シテ色々相談スル所ガアリ、華盛頓會議全體ノ進行ヲ妨害シテハイカヌト云フノ大ニ復テ讓歩シテ、一月三十一日ニ我國ノ全權ハ御調印ニナクテデアリマスカラ、能ク御記憶ト思フ、即チ是ハ干渉デアル、英米ノ審判ニ服シタト私ハ言ヒタイ、其審判ノ條件ガ支那ニ向テ日本自ラ有スル條件ヨリ雲泥ノ差ガアルト云フコトハ、支那ニ向テ親愛ノ精神ニ出デズシテ、列國ニ向テノ恐怖ニ出デタリト斷ズル、帝

國外交ノ世界ニ對スル信義ト正義トニ付テ、多大ノ遺憾ヲ感ズルノデアルガ、此點ニ對シテ全權及内田外務大臣ハ如何ニ感ゼラル、カ、山東問題ハ是デス、諸君、山東八日本ガ七年半ノ間之ヲ經營シタ、山東ノ市街ハ殆ド二倍半トナタ、鐵道二百四十哩ヲ駛ラテ居ル、炭坑ガアル、瀋川坊子ノ炭坑ガアル、鐵道ガアル、之ヲ支那ニ還ス、還スノ遺憾ハナイ、此小大阪ノ如キ親ヲ呈シ、大ニ貿易ノ發展シタル山東ヲ支那ニ還ス、而モ是ガ賠償金七千万圓、而モ其中ノ二千万圓ハ現金ヲ渡サナケレバナラヌモノ、之ヲモ工面シテヤテ支那ノ便宜ナルガ如ク取計シテ之ヲ還ス、是ダケ犧牲ノ事ハ珍シイ事ト思フ、亞米利加ノ雜誌「アウトック」ハ批評シテ、世界デ今日ノ利己主義外交ガ行ハレテ居ル際ニ、日本ノ山東還付ノ如キ公正ナル道德的立場ニ於テ、血一滴流サズ、談判ノ最後ノ通牒一ツ送ラズシテ、斯クノ如キ解決ヲ見タコトハ、他ニ類例ナキ事デアアル、我々居リマス、私ハ加藤全權ノ軍人デアアルニモ拘ラズ、此讓歩の精神ヲ發揮セラレタコトハ偉イト思フ、此讓歩の精神ヲ發揮セラレタ結果ハドウデアリマス、支那人ハ之ニ感謝スルコトナクシテ、益々我國ヲ侮ルデハナイカ、(ヒューズ)世界ニ於ケル我國ノ立場ヲ彼ガ立派デアアルト云フノハ、當座ノ新聞ノ褒言葉デアテ、何時モ讓歩シタ際ニ褒言葉ヲ頂戴スル、「アウトック」ノ褒メタノハ褒メタノデハナイ、擲擧タノデアアル、對米問題カラ移民問題、土地問題等ニ於テ、外國ノ讓歩シテ褒メラレナイコトハ、其餘災ガ冷メルト復タ問題ガ起ラテ來ル、サウシテ又審メラレル、讓レバ褒メラレル、列國ノ評判ガ好イト云フコトガ事實ナラバ宜イガ、當座ノ褒言葉ハ困ルノデス、日本ト西洋トノ論ナク困ラタ時、審メラレタ時ニ一モ二モナク屈從スル、少シ手ヲ弛メバ增長スルト云フコトハ、是ハ、東西何レノ道德ヲ以テ批判シテモ感心シタ事デハナイ、斯クノ如キ態度ヲ執ラコトハ、決シテ我國ノ權利ヲ擁護スル所以デモナイ、帝國ノ威信ヲ高メル所以デモナイト思フ、(拍手)軍人出身ノ加藤總理大臣ハ華盛頓會議ヨリ歸テ來ラレテ、軍備縮小ノ大業ヲ成サレタ、其事ハ御成功デアラタデセウガ、總テノ交渉ニ伴テ日本ガ餘リ巧クヤラナクッタト云フコトハ、本人御認メデアアル、或場合ニ辛直ニ之ヲ話サレタト思フ、私ハ之ニ敬意ヲ表スル、何故今日帝國議會ニ於テ白ミシタモ、華盛頓會議以來ノ帝國ノ立場ハ、益々良好ナリト爲スガ如キ言辭ヲ弄セラレルカ、帝國議會ヲ信任セラレザルモノト思フ、然ラザレバ自己ノ立場ヲ擁護スルニ急ニシテ、眞實ヲ吐クノ勇氣ナキモノト斷ゼザルヲ得ナイト思フ、山東問題ガ支那ニ對シテ良好ノ結果ヲ與ヘナクテ其證據ニハ、山東引渡ノ最後ノ協定ノ間ニ、支那ノ委員ト日本ノ委員ト色々押問答ヲシタ、其際ニ王正廷君等ハ何ト云フタカ、此間

題ハ早ク片付ケテ貰ヒタイ、是ガ濟メバ滿洲問題ガアル、關東州ノ問題ガアル、更ニ滿鐵ノ問題モアル、對支二十一箇條ノ總テノ條項ニ付テ吾々ハ言フベキ權利ガアルト云フ、外務省ノ方ニ此報告ガ來テ、一時大狼狽ヲ爲サタコトヲ私ハ承知致シテ居ル、而モモウツ尻リマスガ、山東ノ話合ガ付イテシマタ其際ニ、亞米利加ノ「ヒューズ」ハ如何ナル態度ヲ執ラタ、彼レ立上テ千四百十四年、即チ日支交渉、對支二十一箇條ノ交渉當時、亞米利加ハ抗議書ヲ提出致シテ居ル、其全文モアスコニ控ガアリマスガ、此處デ讀ムル必要ハナイ、必要ハナイガ免ニ角支那ノ領土主權ヲ侵シ、亞米利加ノ既得ノ權利ヲ侵ス如キ交渉ニハ、亞米利加ハ斷ジテ承認ヲ與ヘナイト云フコトヲ日本ニ抗議シタ、私ハ時ノ内閣ヲ今カラ攻撃スル必要ハナイガ、矢張日本ハ傳統のニ強大ナルモノヲ怖レ、小弱ナルモノヲ侮ルト云フ精神ハ其際ニモ現レテ居ル、對支二十一箇條ノ協約ノ第五項ヲ留保トシ、其他ノ件ニ付テハ初メノ權ヲ失フコトハ、即チ此亞米利加ノ抗議ニ依テ分ル、即チ日本ニ喧嘩腰ニナク、時ノ亞米利加ノ科白、ソレヲ山東問題ガ解決シタキニ亞米利加ノ「ヒューズ」ガ之ヲ長々讀ムタカ、而シテ今度ハ山東問題ハ濟ンダ、然レドモ日本ハ今度讓歩タカ、尙ホ是ダケハ日本ノ權利ガ殘シテ居ル、御存ジノ通り對支二十一箇條ノ要求中八箇條シテ殘シテ居ナイ、此八箇條ヲ讀ムタカ、是ハ日本ガ支那ニ對シテ石井「ランシング」ノ協約ノ精神ヲ以テ、特殊ノ權利ヲ有ツモノトハ認メナイ、排他ハ之トモ思ハナイガ故ニ、最惠國條款ニ依テ、亞米利加ハ之ト同様ノ要求ヲ支那ニ向テ爲スコトガ有ラデアラウト云フ、隨分酷イ言ヒ事デアアル、喧嘩ノ時ノ捨科白ヲ其處ニ持テ來テ、而シテ今度ノ亞米利加ノ決意ヲ以テ山東會議ヲ治メタト云フ事ガ、之ガ脅迫デナクテ何デアリマセウカト私ハ言ヒタイ、而モ支那ノ顧維鈞ハ更ニ曰ク、此問題ハ解決シタガ、二十一箇條ノ條約ニ付テハ、支那ハ機會アル毎ニ之ニ抗議スルコトヲ留保スルト云フテ居ル、亞米利加ハ正當ト見レバ、コトノ同等ノモノヲ俺レガ要求スルト云フ、支那ハ正當ト認メナイカラ、其他ノ條項ヲ之ガ撤回ヲ迫ル、機有テ留保スルコトヲ、日本ガアレ程徹底の讓歩ヲ、讓シマタナラバ、ナゼ其時駄目ヲ押サヌカ、對支懸案ハ全部解決シタ、今後ハ何等留保スベキモノ無シトナセ言ハヌカ、又支那ガ日本ニ向テ對支二十一箇條ノ反對ヲ唱ヘルト云フ言ハ、アレハ、支那ノ正當ノ意見ニ依リテ自由ノ意思ニ依テ、締結シタ條約ニ非ズシテ、脅迫壓迫ノ下ニ爲シタモノデアラカラ效能ガ無イト言フ、併ナガラ日支交渉其時ノ事ヲ考ヘテ見ルトサウデナイモノガアル、御存ジノ通りアノ年ノ確カ一月十八日カニ、大隈内閣ガ日置公使ヲシテ支那ニ向テ「ヒューズ」二十一箇條ノ

要求ヲ突付ケシメタ、支那ハ二月二十二日ニ於テ之ガ對案ヲ出シテ居ル、之ニ對スル支那ノ案ヲ與ヘテ居ル、其中ニ滿洲鐵道ノ租借期限、關東州ノ租借期限、年ノ算ハ方ハ少シ違ヒマスケレドモ、何レモ九十九箇年之ヲ延長スル、何等壓迫ナキニ日本ノ要求ニ對シテ直ニ承認ヲ與ヘテ居ル、日本ハ更ニ四月二十六日カニ、再ビ第二ノ要求書ヲ與ヘタ、之ニ對シテ再ビ支那ハ五月ノ確カ一日カニ對案ヲ與ヘテ居ル、此第一回ノ對案ニ於テ、支那ハ明白ニ關東州、滿洲鐵道ノ租借期限延長ヲ承認シテ居ル、第二回ノ對案ニ於テ漢治萍其他ノ條項ヲ承認シテ居ル、此二回ノ交渉ニ至ルマデハ、日本ノ對支交渉ハ壓迫ハナイ、之ニ對シテ五月七日時ノ内閣ハ最後通牒ヲ與ヘ、第二案ハ是非共承認セヨト言フテ抑付ケタモノデアル、即チ支那ハ第二回ノ對案マデ中ニ認メタモノガ、今日殘テ居ル所ノ八箇條デアル、滿洲鐵道、關東州租借權延長、漢治萍ニ關スル權利、沿岸不割讓ニ關スルモノ、其他ノ條項ハ箇條ト云フモノハ、支那人ハ日本人ノ壓迫ヲ受ケズシテ承認シタモノデアル、而モ之ヲ華盛頓ノ真中デ、殘テ居ル條項ヲ壓迫ニ依テ居ルモノデアル、何レノ機會ニカノ、復シテ權利ヲ保留スルト云ハレテ、亞米利加ノ發言葉デアルカ、會シ文句デアルカ、此二ツヲ列ベラレテ、其儘引退タコトガ今後ノ交渉ニ如何ナル影響ヲ與ヘルカ、王正廷ノ口吻ニ察スルモ、支那ハ之ニ引續イテ、所謂二十一箇條中ノ八箇條ニ關スル所ノ滿洲鐵道、關東州是等ノ還付ヲ要求スルコトヲ私ハ憂慮シテ居ル、諸君、黎元洪一溫厚ナル黎元洪モ新聞記者ニ向テ嘗テ發言シテ居ル、滿洲ハ支那ニ取リテ「アルサス、ローレン」デアルト云フ、隨分善良ノ交ヲ續ケテ居ル國、其國ノ首班ニ居ル人トシテハ、思切ク言ヒ事デアル、又亞米利加人デ支那ノ最高顧問デア「フアンダーソン」ナドハ、頻ニ滿洲問題ヲ擔廻テ、支那ノ政界ヲ遊說シテ居ル支那ノ少壯議員ハ對支二十一箇條ノ全部ノ徹廢ヲ要求スルノ案ヲ議會ニ出シ議會ニ於テ之ガ通過ヲ見タノデアル、滿場一致通過シタ、固ヨリ排日ノ政治家ガ立派ナ政治家デハナイ、亞米利加トノ關係ヲ持テ居ル者ガアル、又人格卑シキ者ガアル、金錢ニ操縱セラレテ居ル者ガアル、騷動ガ起テ後ニモ濫職事件ナドニ繫グ速中モアル、併ナカラ彼等ハ駄目デアル、下ラナイ奴デアリマスルガ、彼等ノ騒ガ物ニナラヌトハ言ヘヌ、若シ支那ニ秩序アル政治家ガアリ、支那國ノ政治家ガ支那ノ前途ニ遠大ノ目的ヲ持テ、眞ニ支那ノ興隆ヲ欲スルガ如キ政治振ヲシテ居ルナラバ、日本ハ之ニ對シテ相當諒解ヲ求メテ、相抱イテ前途ヲ開拓スルノ方案ヲ立テ得ルノデアリマスルガ、斯ノ如ク混亂シテ居ル支那デアレバ、更ニムツカシイト私ハ思フ、支那人ハ何故斯様ニ騷グカ、嘗テ大戰爭中寺内内閣ノ對支

政策、大隈内閣ノ對支政策皆遺憾ナシカ多ク、全支那人中、一人トシテ日本ニ向テ堂々トシテ正面ノ反對ヲ爲シタ者ハ無ク、彼等ノ反對ハドウ云フ事デアルカト云フ、北方黨ハ曰ク、俺レヲ相手ニ支那ヲ統一サセナイカライケナイ、南方黨ハ曰ク、寺内内閣ハ北方ヲ尊重スルカライケナイ、俺レヲ何故助ケテ呉レヌカ、日本ニ對スル怨嗟ノ聲ハ俺レト結バザルト云フコトヲ怨ムヨリ外ナカク、是ハ東洋ニ於ケル日本ノ力ガ儼存シテ居ラカラデアル、而モ日本ノ實力ガ極東ニ認メラレテ居ラカラデアル、支那ノ事大主義ガ日本ニ頼ラナケレバナラヌト云フ觀察ヲシタカラデアル、然ルニ今日亞米利加人ニシテ支那ノ最高顧問トナルガ如キ人、亞米利加ノ金ニ依テ新聞雜誌ヲ發行シテ居ルガ如キ人、是等ノ人ガ搔混セルト、支那ノ國會議員モ政治家モ甚シキハ大總統マデモ一緒ニナテ滿洲ハ第二ノ「アルサス、ローレン」ナリナド、云フコトヲ言フノハ、日本ニ對スル怨ヲ有スルト共ニ日本ノ力ヲ輕ンズル、日本ガ列國ノ前ニ出デテハ何等ト直接之ヲ窘メ上ゲル、露西亞ノ窮乏ヲ見テハ兵ヲ出シテ之ニ暴レ込マシメ、列國カラ叱ラレト、又引退ル、即チ強大ナル者ニハ屈シテ、臥薪嘗膽、拮据經營シテ我國ノ國是ヲ進メルダケノ國民ニ決意ナキコトヲ、政府ノ外交ニ依テ看テ取タル結果デアルト私ハ思フ、「ヒヤ」(拍手)年限ニ依テ調ベマシレバ、今年三月二十一日ニハ關東州二十五年ノ租借期限ハ切レマス、千九百三十九年ニハ三十三箇年ノ滿洲鐵道租借期限ガ切レマス、滿洲ノ實情ヲ調ベマシルト地方ノ省議會ニ於テモ自治機關ニ於テモ、選舉ヲ爭フトカ、自己ノ政見ヲ發表スル時ニ滿洲鐵道ノ回復ヲ叫ビ、關東州カラ日本人ヲ追出サウト云フヤウナコトヲ唱ヘ、ナケレバ、選舉ニ勝ツコトヲ出來ナイト云フ狀態デアル、支那ノ民心ヲシテ此ニ至ラシメタモノハ日本ノ支那ニ對スル親愛ノ情ガ徹底セズシテ、強大ナル者ニ屈シ、小弱ナル者ヲ踏付ケルト云フ此卑シムベキ根性ヲ支那人ガ看テ取タル結果デアルト思フ、我國ガ滿洲ニ鐵道ヲ有スルト云フコトハ、決シテ侵略主義ノ爲デハナイ、滿洲鐵道ノ各哩ニハ吾々同胞ノ骨ガ鏝メラレテ居ル、而モ是ハ侵略主義ノ爲ニ非ズシテ、東洋平和ノ基礎ヲ確保スル爲ニ、日本ガ滿洲ニ是ダケノ足場ガ要ル、同時ニ滿洲鐵道ニ依リテ支那ノ利源ヲ開拓シ、滿洲鐵道ニ依リテ支那ノ物資ヲ運ブ、諸君ガ滿洲ニ御出デニナルト、一等車二等車ハ殆ド「パス」バカリデ、只「乗」デモ尙滿洲鐵道ハ引合フ、何故引合フカト云ヘバ、アノ單一ナル原野ニ充溢スル物資ヲ悉ク引出サセテ、滿洲鐵道ニ依テ送リ出サレ、之ニ對シテ色モノ物資ガ供給セラレナケレバ、全滿洲ニ向テノ貿易ハ出來ナイ、即チ滿洲ヨリ物資ヲ取

リ來リ、我國ノ物資ヲ賣込ムコトガ支那人ノ生活ヲ維持スル所以デアリ、日本國民ノ生活ヲ維持スル所以デアル、滿洲鐵道ノ各哩ニハ日本人ノ居住者トシテ生活ニ困テ居ル勞働ノ生命ガ託サレ、百姓ノ生命ガ託サレテ居ルニ云フコトハ重大ナル問題デアル、此問題ガ眼前ニ紛糾シ來リ、此紛糾ヲ見ルガ如キ時局ヲ造リ出シタル政府トシテ、之ニ責任無シト感ズルカ、又前途之ニ對シテ如何ナニ方策ヲ以テ濫マントスルカ之ニ對シテ斷手タル決意ヲ私ハ承リタリ、内田外務大臣ハ嘗テ私ノ質問ニ對シ、中野ト俺レトハ個人的ニ話ノ出來ナイ間柄デナイカラ、御諒解ヲ求メテモ宜イト云フヤウナコトヲ言ハレタ、今日ノ問題ハ個人的デハイケナイ、議會ニ於テ斷平タル決意ヲ表明セラル、コトハ、私ニ對スル答辯タルノミナラズ、帝國議會ニ對スル答辯デアル(拍手)又此日本ノ東京ノ一角ヨリ世界ニ向テノ宣言デアルト私ハ確信スルガ故ニ、堂々ト御意見ヲ述ベテ戴キタイト私ハ思フノデアリマス、滿鐵ハ斯ノ如キ狀態ニナテ居ル、之ヲ日本ハドウスルカ、支那ノ此狀態ハ極東ニ於ケル日本ノ立場ノ落テテ證據デアル、是ハ誰ニモ分テ居ル、此立場ヲ如何ニシテ挽回スルカ支那ニ向テ拳ヲ振ラ上ゲテモ物ニハナリマセヌ、私ハ斷平トシテ之ニ反對スル、此際ニ帝國ノ活路ヲ開クベキモノハ、此正面ノ衝突ヲ避ケテ、別ニ遠大ノ抱負ガナクテハナラヌ、日本ノ世界政策ニ於テ新紀元ヲ劃スルコトガ、今日ノ急務デアルト私ハ斷ジテ信スルデアル(ヒヤ)「拍手」尤モ此日本ノ世界ニ對スル新世紀政策ヲ決定スル前ニハ、日本國民ハ固ヨリ、内閣諸公カラシテ心ノ革新ヲ行ハナケレバ駄目デアル、總テ外交ハ人格ノ發現デアル、大和民族ノ精神ガ今日ノ如キ内閣ニ依リテ代表セラレ、今日ノ内閣諸公ノ懷カレテ居ル其考ガ、諸公ノ人格ガ外交政策トシテ發露スル以上、私ハ日本國民ノ根本精神、内閣諸公ノ根本精神ニ大革新ヲ喚起スコトガ新政策ヲ樹立シ、之ヲ表明スル前提デアルト確信スル者デアリマス(ヒヤ)「諸君、我國ハ明治新政以來日露戰爭ニ至ルマデハ、内閣外交ニ遺憾ノ點ガ多ク、ナデアリマス、維新以來ノ傳統的精神ガ益々墮如タルモノガ、アツク、其精神トハ何デアルカ、正々履ンデ恐レザルノ精神デアル、我ノ正義ヲ抗テトスル者アラバ、強大ナルモノニ向テモ亦之ニ對抗スルノ決意ト勇氣ト、小弱ナルモノヲ壓迫セントスレバ之ヲ援ケ起ス、正義ノ爲ニ之ヲ援ケクニ任儀、即チ勇氣ト任儀トハ我が大和民族ノ精神トシテ外交政策ノ上ニ無意識ノ間ニ現レテ來テ居ラレデセウ、内田氏モ日英同盟ヲ論ゼラレマシタガ、日英同盟ハ何故出來タカ、諸君、嘗テ日本ハ歐羅巴ノ侵略主義ヲ代表スル獨逸、露西亞、佛蘭西ノ協

同ノ侵略の脅威ノ前ニ立ツタ、其時ニ於テ日本ハ孤立デア  
リマシタ、其時ニ於テ日本ノ財政ハ今日ヨリ窮乏シ、日本ノ  
經濟的狀態ハ今日ヨリ幼稚デアリマシタ、併ナガラ日本人  
ハ一先帝陛下ニ依リテ率キラレタル此大和民族ハ、猛烈  
トシテ正義ヲ履ミ、東洋ノ平和ヲ維持センガ爲ニハ、歐洲三  
大強國ノ脅威ノ前ニ敢然トシテ起リ、勇氣ヲ有シテ居  
モノデアル、此勇氣ノ發現ハ何處カラデアルカ、東洋平和ヲ  
維持シ、小弱ナル者ヲ援ケル任侠心ト強大ナル者ニ屈セザ  
ル意氣ト此二ツデアル、此意氣、此任侠心、此二ツノモノハ  
算盤ニハ一向掛ラナイモノデアリマス英國人ハ功利主義  
ナリト言ヒ、英國ノ外交ハ功利主義ナリト申シマスガ、此功  
利主義ノ英國人ハ功利ニ徹底スルガ故ニ、何人ヨリモ早ク  
日本人ノ此臥薪嘗膽ノ意氣ヲ實力ノ上ニ換算シタノデア  
リマス、之レ有リシガ故ニ此意氣ヲ見テ日英同盟ハ結バ  
レタ、日本外交ノ發動ノ根本源泉ハ此ニ在リタカラ初メテ友  
得タ、カアル者ハ友ヲ得ル、カヲ失ヘバ友ヲ亦失フ、友ヲ有スル  
モ亦友ノ驅馳スル所トナル、此所ガ重大ナ點デアリマス、加  
藤總理大臣ハ日本海海戦ノ謀將トシテ、大和民族ノ此意  
氣ヲ當時胸ノ中ニ躍ラセテラレタル人デアリマス、當年ノ日  
本ト今日ノ外交状態ヲ比較セラレテ、果シテ如何ノ御考  
ガアルカ、私ハ此日本ノ明治改革以來ノ傳統的精神ヲ喚  
起シテ、茲ニ日本ノ世界政策ノ新活路ヲ開ク必要ヲ感スル  
新活路ヲ開クニ必要ナコトヲ私ハ茲ニ二箇條提供シタ、  
此二箇條ニ對シテ決意ガアレバ、斯ノ如キ政策ヲ行フ  
言テ貴ヒタイ、加藤總理大臣ノ朗々タル聲ヲ以テ帝國議  
會ニ表明セラルレバ、其表明ノミニシテ世界ノ人心ヲ動カシ、  
帝國外交ノ上ニ一大新活路ヲ與ヘル所以トナルコトヲ私  
ハ確信スルガ故ニ、能ク私ハ此一大項目ニ對シテ御考ヲ伺  
ヒタイ、第一ニ私ノ言ハント欲スル所ハ、日本ノ立場ガ四方  
八面ニ塞タル時ニ世界ヲ見渡スト、新ナル形勢ガ動キツ、  
アル獨逸ト佛蘭西トノ關係ハ面倒デアル、其上ニ近東ニ  
ハ此頃珍ラシキ風雲ガ動イテ居ル、此際ニ日本帝國ハ管テ  
「ヴェルサイユ」講和條約ノ際ニ表明シタル人種平等ノ大主  
義ヲ再ビ提唱シテ、此主義ニ依テ立テ、此主義ヲ以テ世界  
ニ臨ミ、此主義ヲ奉ズル者ニ同情ヲ表シ、此主義ヲ壓迫ス  
ル者ニ對シテ敵意ヲ有スル所以ノ決心ヲ表明セラル、コト  
ガ今日ノ急務デアルト思フ、第二ハ是ヨリ「ロー」說明致シ  
マスガ、是ト關聯シマシテ、速ニ勞農露西亞ト通商條約ヲ締  
結シ、亞米利加、露西亞及獨逸、埃地利ヲ同盟諸國ヲ國  
際聯盟ニ加入セシムベシト云フコトデアル、此二箇條ヲ信條  
トシテ日本ハ起テ、此内閣ハ之ニ準據シテ外交上ノ進退ヲ  
爲スモノデアルト云フ表明ヲ、私ハ欲シト思フ、是ガ……

○副議長(粕谷義三君) 既ニ定刻ニ近ヅキマシタカラ、時  
間ヲ延長致シマス  
○中野正剛君(續) 此二箇條ニ對シテ、政府當局者ハ如  
何ノ御考ヲ持タル、カ、諸君、日英同盟ガ無クナリタト云フコ  
トハ、華盛頓會議以後日本ノ立場ニ多大ノ影響ヲ來シタ、  
何ト辯明セラレテモ、其以後ノ我が對外方針ハ、退嬰萎縮  
ニ改マラザルヲ得ナイノデアリマス(「ヒヤ」)併ナガラ英吉  
利ノ「ロイド」ヨリ「内閣」ガ日英同盟ヲ輕クシクモ拋棄シ  
テ、亞米利加ト握手ヲ握リタト云フコトハ、彼等ニ於テ一面ノ  
眞理ヲ擲ンダノデアリマスガ、彼等ニ於テ半面ノ日英同盟ガ  
效果ヲ没却シタル結果デアルト私ハ思フ(拍手)日本ガ外交  
ノ孤立ニ恐レテ、對外政策ハ總テ退嬰ニ走リツ、アル際ニ、  
英吉利ニ於テモ同様ノ聲ガ起リテ居ル、極端ニ申シマスレバ  
「ロイド」ヨリ「内閣」ガ、内閣ヲ失ヒ、總選舉ニ申シマスレバ  
ル形ニナリ、事實ハ彼ガ日英同盟ヲ失タル結果デア  
ト推斷シテ宜イト思フ、ソレハ何故デアルカ、彼ハ日英同盟  
ニ依テ印度ヲ保護セラレ、英吉利ノ屬領ノ安泰ヲ得テ居ル  
事實ヲ忘レテ居ル、諸君、近東問題ハ今日ノ重大問題デア  
リマス、土耳其ノ一角ヨリ起リマシタル一青年ガ「アングラ」  
國民政府ヲ作り、英國ノ手先キデアアル希臘ヲ蹴飛ばシ「ス  
ミルナ」ヲ占領シ、蘇士ヲ回復シ、君士坦丁堡ニ迫リ、近頃ハ  
聯合列國ニ向テ最後通牒スラ送ル如キ意氣込テ示シタ、之  
ニ對シテ英國ガ斷乎タル處置ヲ執ルコト能ハズシテ、近東  
外交失敗ノ爲ニ「ロイド」ヨリ「内閣」ヲ滑リ陥ラナケレバ  
果デアルト思フ、若シモ英吉利ガ勞働黨ノ反對ヲ顧ミズ、土  
耳其ノ此國民主義ノ人々ヲ叩キ付ケレバ、彼等ハ四散シテ  
其友ヲ呼ブ(私語スル者アリ)能ク御開キナサイ、即チ此土  
耳其軍ガアレバケレバ兵力ヲ以テシテ、アレダケノ實力ヲ發揮  
シタルモノハ、背後ニ經濟的ノ「パツ」ガナケレバナラヌ、武器  
彈藥ヲ供給スル者ガナケレバナラヌ、御存ジノ通りニ埃及ニ  
「分ツ」ト呼フ者アリ)分ラナイアナタニハ「アゼルバイゼ  
ン」ニモ動キツ、アル、勃牙利ニモ共鳴シツ、アル(私語スル  
者アリ)議長、アソナ者ヲ制シテ下サイ  
○副議長(粕谷義三君) 靜ニ  
○中野正剛君(續) 斯ノ如キモノガ皆共鳴シツ、アル、別  
シテ看過スベカラザルモノハ、印度ニ於テ三億ノ民衆ガ革命  
的風潮ヲ帶ビテ居ルコトデアル、印度ニ革命的風潮ヲ帶ビ  
ル者アリ、英領ノ「ニモ」回ガ教徒ガ一億程アル、是等ノ人々  
ガ互ニ相結シテ獨立ノ機運ニ動キツ、アル、其事ガ「ケル」  
シヤ、背後ノ力デアリ、是アルガ故ニ英吉利ハ手ヲ觸ル、コト  
ガ出來ナイ、若シモ日英同盟ガ現存シテ居ラバ、同盟ノ  
條項ノ指示スルガ如ク、印度ガ第三國、即チ土耳其古若クハ

勞農露西亞ト隣シ合セテ、英吉利ニ對シテ敵意ヲ表スル時  
ニ、日本ハ之ヲ鎮定スル義務ガアル、日本ノ外務省ハ命セラ  
ル、ガ儘ニ、少クトモ軍艦位出スベキモノデアラウト思フ、是  
ハ軍艦位ガハナクシテ、大戰爭中ニモ新嘉坡ニ於テ印度人  
ノ叛亂ガ起リタ時ニ、英米ハ之ヲ鎮撫スルコト能ハズシテ、日  
本ノ陸軍隊ガ之ヲ鎮撫シ、印度ノ回々教兵ハ、日本人ハ兄  
弟デアル、兄弟トハ戰ハヌト言フテ之ニ降シタ、降テ印度兵ノ  
武裝ヲ解除セシメテ英吉利ニ引渡シタ、此大ナルモノヲ日  
本ハヤラナケレバナラヌデアラウ、然ルニ吾ヨリ欲セザルニ、日  
英同盟ヲ向フカラ足蹴ニシテ之ヲ捨テタノデアル、之ヲ捨テ  
タノデアル、捨テタガ故ニ此日英同盟ニ拘束セラレテ、近東  
問題ノ不公平ナル態度ヲ執ル必要ガナイ、即チ今日ニ於テ  
ハ英吉利ニ於テモ「ロイド」ヨリ「内閣」ガ權變不思議ノ勸ヲ爲  
シ、一定ノ信念ナカリシコトハ、英吉利ヲ今日ノ窮地ニ陥レ  
タリト云フ反對ノ議論ガ聞エテ居ルハ、取モ直サズ日英同  
盟ノ廢棄ニ關スル反對ノ意見デアリマス(此時發言スル者  
アリ)能ク御聽キナサイ、アナタ方ノ有利ナ事ヲ言ウテ上デマ  
ス——今日日本ノ一角ニハ、孤影悄然タルニ驚イテ、再ビ日  
英同盟ヲ回復セネバナラヌト云フガ如キ議論ガ、日本政界  
ノ一角ニ動キツ、アルノ事實デアリマス、望月君ノ御話ノ  
中ニ「バルフォア」ノ所言ヲ非常ニ喜ンデ、日英同盟回復  
云々ノ事ガアツタ、恐ラクハ日本ノ一角ニモ「モウ」一遍日英同盟  
ヲ回復シテヤラウト言ハレルナラバ、協調主義ノ外交ニ慣レ  
タル我當局ハ、之ニ傾イテ居ルカモ知レヌ、今日ノ時局ハ左  
様ナ事デアナクシテ、暴ニ突放サレタ同盟ヲ又握手シヤウト云  
フヤウナ時デアナク、此世界ノ大勢ニ鑑ミ、日本ハ回々教徒ヲ  
中心トシテ動キ立タル中央亞細亞、埃及、アノ方面ニ動キ  
立タル民族自決ノ風潮ニ對シテ、間接ニ聲援ヲ與ヘナケレ  
バナラヌ、巴里ニ於テ一度揚ゲラレタル人種平等ノ大旗ヲ  
再ビ揚ゲラレルトコトガ、今日ノ急務デアルト私ハ信ズルノデ  
アリマス、知らズ、政府當局者ハ斯ノ如キ信念ヲ有テ居ラ  
ルカ、相變ラズ退嬰屈從ヲ以テ信念ト爲シ、モウ一遍協調外  
交、モウ一遍日英同盟ト云フガ如キ考ヲ有テ居ラレ、カ、私  
ハ此點ヲ質問致シタイト思ヒマス、モウ一ツ急務ナルモノハ勞  
農露西亞ト通商問題デアアル、勞農露西亞ト通商ニ對シ  
テ、冤ヤ角非難ノ言ヲ爲ス者ガアル、是ハ思想上ノ問題ト國  
交上ノ問題トヲ混同シタルモノデアアル、近來印度ニ對スル露  
西亞ノ赤化計畫ナルモノガ仰々敷宣傳セラレテ、日本ノ新  
聞ニモ多少轉載セラル、モノガ仰々敷アリマス、露西亞ハ確ニ南方  
ニ向テ伸ビントスルノ考ヲ有テ居ル、又經濟的ニ考ヘマシ  
テモ、アノ策進ニ居ル所ノ露西亞トアノ熱キ印度トハ、其物  
資ヲ交換スル事ニ依リテ、各、經濟的片輪ノ地位ヲ脱シ、其  
生産力ヲ回復スルガ故ニ、「レーニン」政府ガ印度ニ聲援シ、

回々教徒ノ勃興ノ氣運ニ聲援スルコトハ、近來隱レナキ事  
實デアルト思フ、此際ニ於テ極東問題デアリマス、私ノ信ズル  
所ニ依リマスレバ、露西亞ハ第三次會議ヲ開催スルノ氣アリ  
「ヨツプエ」自ラ日本ニ乘込マントスル考ガアルト云フ、  
此際ニ於テ露西亞ト速ニ手ヲ握ラレ、又更ニ此勞露露西  
亞ヲ承認スルノ前提ヲ與ヘルコトハ、此露西亞ヲシテ極東ニ  
事無キヲ得セシメ、極東後顧ノ憂ナクシテ、其欲スルガ儘ニ  
經濟的進出ヲ南方ニ試ミ、近東ニ試ミ、世界ニ對シテ新形  
勢ヲ作り出スベキモノデアラウト思ヒマス、古カラ近東ニ事  
アル時ニハ、東洋ハ安固ナルヲ得テ再び近東ガ今日ハ政治  
上ノ駈引ニ非ズ陰謀ニ非ズシテ、民族の自覺ニ依テ動キ立  
タントスル今日ニ於テ、日本帝國ガ露西亞西ト握手シ、此新  
興民族ノ勃興ニ對シテ、人種平等ノ大主義ニ依テ聲援ヲ  
與ヘルト云フコトハ、世界ニ新ナル形勢ヲ作り出ス唯一ノ方  
策デアルト思ヒマス、此時發言スル者アリ

○副議長(粕谷義三君) 靜ニ

○中野正剛君 議長、辭漢ヲ處分シテ下サイ

○副議長(粕谷義三君) 私語ヲ禁ジマス

○中野正剛君(續) 私ハ此際ニ於テ一 此際ニ於テ日本  
ノ世界ニ於テ行詰リタル此形勢ヲ回復スル爲ニ、一ハ勞農  
政府ト直ニ通商條約ヲ締結シ、更ニ(發言スル者アリ)

○副議長(粕谷義三君) 靜肅ニ

○中野正剛君(續) 舊獨塊側諸國ヲ國際聯盟ニ加入セ  
シムル事、是ガ今日ノ急務デアルト思ヒマスガ、之ヲ如何ニ  
思ハレカ、モウ一ツハ、今申シマスル人種平等ノ大旗ヲ世  
界ニ向テモウ一度掲グル勇氣ヲ示サレカ、此二件ハ私ハ  
今日ニ於テ最モ急務ナル問題デアルト思ヒマス(發言スル  
者多シ)

○副議長(粕谷義三君) 靜ニ— 靜ニ願ヒマス(發言スル  
者多シ)三枝君、靜肅ニ願ヒマス— 私語ヲ禁ジマス

○中野正剛君 近東ヲ知ラナイ者ガアリマス

○副議長(粕谷義三君) 私語ヲ禁ジマス

○中野正剛君(續) 私ハ大勢上ヨリ推斷致シマシテ、文  
字ノ上ニアラズ、世界ノ國際關係上、此國際關係ヲ具サニ  
觀察致シマスル上ニ於テ、日本ノ立場ガ此ニ大方針ヲ甚ダ  
急務トスル、之ニ對シテ如何ナル觀念ヲ有テ居ラレカ、之  
ニ對シテ私ハ御答辯ヲ煩ハス次第デアリマス、更ニ又御尋  
シマス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス— 加藤總理  
大臣

○國務大臣(男爵加藤友三郎君) 只今中野君ヨリ歐米

極東ニ互リマシテ各種ノ御意見ヲ拜聴致シマシク、御演說  
ノ大部分ハ、是等各方面ニ於ケル現狀ヨリ、或ハ既往ニ互  
リ、將來ニ涉リ、所謂縱橫ニ御意見ヲ御述ベニナク、コト  
拜聴致シタルデアリマス、而シテ結論トシテ御質問ニナリマ  
スル要點ハ、今日我國ガ執ルベキ最モ必要ニシテ急務ナル  
問題ハ人種平等問題デアアル、是ハドウスル考デアル、御意見  
ガ一ツデアット記憶致シマス、御承知ノ通り此問題ハ、曩  
ニ講和會議ノ際ニモ提起サレ、御承知ノ通り結果ハ、曩  
成テ居ルノデアリマス、政府ト致シマシテ、將來— 或ハ近  
キ將來ニナリマスルカ、其時期ニ付テハ今日豫測— 出來マ  
セヌケレドモ、機會ガアラバ幾度モ之ヲ提出スル意思デア  
ルト云フ事ヲ御諒解ヲ願ヒタイノデアリマス、又勞農露國ト  
通商條約ヲ締結スルト云フ意思ガアルカドウカト云フ御話  
デアッタヤウニ拜聴致シマシク、是亦同政府ト通商條約ヲ締  
結致シタイト云フ考ハ持テ居ルノデアリマス、既ニ是迄モ此  
問題ニ付キマシテ多少攻究モ致シ、或ハ形式ハ具ヘマセヌ  
迄モ、我政府ノ意ノ在ル所ハ先方ニ於テハ或ハ諒解ヲシテ  
ハ居ナイカト、是ハ私想像致スノデアリマス、是亦機會ガア  
ラバ之ヲ實行致シタイト云フ考ヲ持テ居ルコトニ御諒解ヲ  
願ヒタイノデアリマス、最後ニ國際聯盟ニ、米國其他今日  
之ニ加入シ居ラザル國ヲ加入セシムルコトニシテラドウカト  
云フヤウナル御意見デアリマス、是ハ帝國政府獨リ或ハ幹  
旋スルトカ云フヤウナルコトハ、今日ノ狀況ニ照シマシテ、容  
易ニ出來ルコトデアナイカト思フノデアリマスガ、是等諸國  
ガ國際聯盟ニ加入致シマスコトハ政府ノ最モ歡迎スル所デ  
ゴザイマス、以上ヲ申上ゲマシテ御答辯ニ代ヘマス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 内田外務大臣

○國務大臣(伯爵内田康哉君) 只今總理大臣ガ答ヘラ  
レマシク點以外ニ互ル御質問ニ對シテ、一應私ヨリ御答ヲ  
致シマス、只今總理大臣モ申サレマシク通り、中野君ノ御  
質問ハ多クハ御意見ノ開陳デアアル、其御意見ハ私ハ多大ナ  
ル參考トシテ承リ置キタイト思フ、併シ實際責任ヲ持テ外  
務ノ局ニ當リマス以上ハ、其ノ自身ニ於テ如何ナル理想ニ  
共鳴シ、又自ラ如何ナル理想ヲ持テモ、ソレヲ直ニ世界ニ  
宣言スル譯ニ行カナイ、只今總理ノ答ヘラレマシク人種問  
題ニ付テモ、中野君ハ此問題ヲ世界ニ提唱シ、之ニ共鳴セ  
ザル者ハ敵トスルト云フハ又許リ、御質問ノヤウデアリマシク  
ガ、サウ云フコトハ到底責任アル位置デアハ言ヘナイ、併シ人  
種平等ト云フモノハ、是ハ「ヴェルサイユ」會議以來帝國ハ提  
唱シテ居リマス、又機會アレバ此ノ主張ハ何處迄モ貫徹  
シタイト思フテ居リマスコトハ、只今總理ガ申シク通りデア  
リマス、其他最初ニ御述ベニナリマシクコトハ、ドレガ御質問ノ

點カト突止メマスコトハ、甚ダムズカシク感ジテ居リマスガ、  
要スルニドウモ中野君ト私トハ考ノ出發點ガ違テ居ルト思  
フ、何カ是迄日本ガ「ヴェルサイユ」會議、華盛頓會議以來  
シタ事ハ、強國ニ壓迫サレテ、又英米ガ手ヲ組ンデ日本ヲ壓  
迫セントシテ居ルト云フコトヲ前提トサシテ、御意見ヲ御述  
ベニナク、ヤウデアアル、若シ果シテサウデアレバ、是ハ大變ニ間  
違テ居ル、日本ガ英米ニ壓迫サレル譯モナイ、又英米ガ日  
本ヲ壓迫シヤウトハ思フテ居ナイト私ハ確信シテ居ル、殊ニ  
友邦ニ對シマシテ、斯ル言議ヲ此公開ノ席上ニ於テ私ガ彼  
此レ申スコトハ、慎ムベキコトデアルト思フ、即チ其點ガ間  
違テ居リマスカラ、是迄ノ交渉ニ對シテ日本ガ壓迫ヲ受ケ  
テ居ルト云フ御質問ハ、是ハ殆ド私ハ答辯ノ必要ヲ認メテ  
居ナイ、細目ニ互テ申上ゲレバ多クアリマスケレドモ、既ニ  
其ノ出發點ガ違テ居リマスカラ、此上答辯ノ必要ヲ認メマ  
セヌ(拍手)

○岩崎勳君 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ハ本日モ此  
程度ニ止メ、日程ト共ニ之ヲ延期シ更ニ明二十五日日本會  
議日程議了後ニ之ヲ繼續セラレンコトヲ望ミマス

○贊成「贊成」ノ聲起ル

○副議長(粕谷義三君) 岩崎勳君ノ動議ニ御異議ガナ  
イト認メマス、依テ動議ノ如ク決シマス、— 諮問致シマスコ  
トガアリマス、高橋久次郎君病氣ニ付本月二十五日ヨリ  
二月三日マデ、綾部忠兵衛君病氣ニ付本月二十五日ヨリ  
二月七日マデ、野村治三郎君病氣ニ付本月二十五日ヨリ  
二月三日マデ、右何レモ請暇ノ申出ガアリマス、許可シテ御  
異議アリマセヌカ

○副議長(粕谷義三君) 御異議ナイト認メマス、許可スル  
コトニ決シマス、明日ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知申上ゲマ  
ス、本日ハ是ニテ散會

午後六時十六分散會

衆議院議事速記録第三號中正誤  
頁 段 行 誤 正  
四二 上 二五 通信 國務